

岡山県学校図書館研究収録

第 53 号

平成 28 年

— 2016 —

岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部
岡山県中学校教育研究会学校図書館部会
岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会
岡山県学校図書館協議会

目 次

平成28年度岡山県学校司書研究協議会(倉敷大会).....

第62回青少年読書感想文岡山県コンクール.....

第28回読書感想画岡山県コンクール.....

絵本研究部会.....

優良図書研究部会.....

指定図書選定委員会.....

その他

- 1 平成28年度 岡山県学校図書館協議会 事業報告.....
- 2 平成28年度 岡山県学校図書館協議会 支部協議会事業報告.....
- 3 平成28年度 岡山県学校図書館協議会 組織一覧.....
- 4 岡山県学校図書館協議会組織図.....
- 5 岡山県学校図書館協議会規約.....
- 6 岡山県学校図書館協議会司書部会会則.....
- 7 岡山県学校図書館協議会66年の歩み(略年表).....

第 41 回岡山県学校司書研究協議会(倉敷大会) 要項

主催 岡山県学校図書館協議会・岡山県学校図書館協議会司書部会

共催 倉敷市学校図書館協議会・岡山県学校図書館協議会備中支部

後援 岡山県教育委員会・倉敷市教育委員会

1 日時 平成28年7月28日(木) 10:00～16:00

2 会場 水島愛あいサロン 岡山県倉敷市水島東千鳥町1-50 TEL086-440-5511
倉敷市環境学習センター 岡山県倉敷市水島東千鳥町1-50 TEL086-440-5607

3 主題 「学校司書から発信 魅力ある学校図書館 ～さらなる充実をめざして～」

4 日程

9:30	10:00	10:50	11:00	12:20	13:30	15:30	16:00
受付	開会行事 総会	休憩	全体会	移動 昼食	分科会	交流会	閉会

5 開会行事

6 総会

- (1) 議長選出
- (2) 2015(H27)年度活動報告(理事会活動報告)
- (3) 2015(H27)年度決算報告
- (4) 2015(H27)年度監査報告
- (5) 質疑・応答・承認
- (6) 役員改選
- (7) 2016(H28)年度活動方針・事業計画(案)
- (8) 2016(H28)年度予算(案)
- (9) 質疑・応答・承認
- (10) 情勢報告(地区活動報告・実態調査報告)
- (11) 議長解任

7 全体会

「学校図書館における進路支援 ～備中地区高等学校の事例を中心に～」

発表者 稲葉 三千代 (岡山県立倉敷商業高校)

「資料提供班 ～子どもたちが興味を持つ資料提供～」

発表者 馬場 裕子 (倉敷市立真備東中学校)

助言者 岡本 里香 (岡山県教育委員会)

8 分科会

A分科会

「『つくる力』と学校図書館 ～アクティブ・ラーニングを考える～」

発表者 久戸瀬 瑞季 (岡山県立倉敷工業高校)

「環境整備班 ～利用しやすい学校図書館～」

発表者 小原 寛子(倉敷市立倉敷第一中学校)

助言者 高津 智子 (倉敷市立第四福田小学校)

B分科会

「資料作成班 ～学校図書館で使える資料作成と実践—図書の時間と国語授業の充実～」

発表者 佐藤 智美(倉敷市立琴浦南小学校) 小坂 純子(倉敷市立上成小学校)

「調べ学習班 ～調べ学習を円滑に進めるための学校図書館の役割—その方法と準備を考える～」

発表者 森分 信江 (倉敷市立児島中学校)

助言者 坂尾 幸一 (倉敷市立旭丘小学校)

C分科会

「マニュアル班 ～実務に即した図書館スタッフマニュアル作成をめざして～」

発表者 中村 敦美 (倉敷市立連島南中学校)

「学校図書館自己評価班 ～みんなでとりくもう！学校図書館自己評価—魅力的な学校図書館にするために～」

発表者 吉賀 静恵 (倉敷市立倉敷西小学校)

「選書班 ～選書を考える…5つのブックリスト作成～」

発表者 山口 薫 (倉敷市立琴浦北小学校)

助言者 藤田 哲彦 (倉敷市教育委員会)

*今年度の交流会は分科会に引き続いてそれぞれの会場で行います。

【全体会】

発表者	稲葉三千代	(岡山県立倉敷商業高等学校司書)
	馬場 裕子	(倉敷市立真備東中学校司書)
助言者	岡本 里香	(岡山県教育委員会指導主事 (主幹))
司会者	櫻井 郁美	(倉敷市立赤崎小学校司書)
記録者	阪田 寛子	(倉敷市立万寿小学校司書)
	三谷 弥生	(倉敷市立粒江小学校司書)
	加地久瑠美	(岡山県立新見高等学校司書)

I 事例発表 ①

学校図書館における進路支援

—備中地区高等学校の事例を中心に—

岡山県立倉敷商業高等学校 稲葉三千代

1 はじめに

私たち、高等学校司書部会は、備前・備中・美作の3地区に分かれて、さまざまな研修を重ねている。今回は、備中地区高等学校司書部会について報告する。備中地区高等学校司書部会は、普通科高校、商業高校、工業高校、定時制高校など、校種が異なる学校で構成され活動している。司書部会は年5回開催され、うち2回は備前・美作との合同部会である。研修内容については、日々の疑問や悩みから議題を検討し、各校の事例を紹介・討論し、各校へ持ち帰り、さらなる司書活動へ発展するよう取り組んでいる。

今回は、平成27年度に取り上げた進路支援研修について報告する。進路支援というテーマは、図書館に進路コーナーを設置はしているものの、資料内容に苦慮し、進路資料室との連携があまり出来ていないという各校の状況の中で、生徒の進路実現のために図書館ができることはないだろうかという問題提起により決まった。

2 進路支援研修

まず、研修の目的として、①進路支援サービスの状況と課題を考える ②いつどんな支援が必要かを考える ③進路資料室との協働と連携について考える、という3点を掲げた。つぎに、事前アンケートで、各校の進路支援の現状を確認し、集計した。研修当日は、集計結果の発表後、スライドを使い各校の現状や課題を共有した。

その後、普通科・商業科・工業科などの校種別でグループ研修を行った。グループ研修1では、各校の現状や課題をさらに話し合い、問題点を挙げた。グループ研修2では、模造紙と付箋を使用し、生徒が直面する問題を書き出し、それに対して図書館で可能な進路支援を時系列に書き出していった。*1

生徒に対する支援として大きく実用面とメンタル面との2つに分類してみた。実用面として、文理選択、勉強法、進路選択、受験対策、就職試験、資金問題、一人暮らし等が挙げられた。また、メンタル面として、自己啓発本、名言集、ストレス緩和、睡眠・健康法等が挙げられた。最後に、グループ毎に発表し全体のまとめを共有した。

研修を通して、断片的ではなく、入学から卒業までのスクールライフの中で、どの時期にどんな支援が必要かという、広い視野で進路支援をしていくことの必要性を共有できた。また、進路資料室や教員との協働・連携の必要性を認識できた。

3 各校での実践

○進路資料室や教員との連携

・倉敷青陵高校

図書館だよりの進路号、持ち帰り可能な小論文対策のパスファインダーを、進路資料室に設置した。

・笠岡商業高校

進路資料室に、関連本を別設する出張図書館コーナーを設置した。

・倉敷商業高校

卒業生が実際に就職した会社の社史、PR誌の展示をし、進路資料室で図書館だより進路版を貼付した。

・玉島高校

教員の3年生が新聞や小論文を読まないという相談から、教員と連携し、職業に絡めて新聞や小論文の切り抜きを展示した。教室に展示しているクラスもある。

・水島工業高校

教員が毎年、チャレンジノートと呼ばれる資格・検定ガイドを作成しており、そこで紹介された資格・検定の本を図書館で提供している。

○研修を受けての図書館での工夫

・倉敷青陵高校

進路コーナーを、注目を集める場所へ移動した。そして、隣接する掲示ボードへ進路関係の新刊情報や、新聞記事を展示し、時事問題を取り扱うコーナーにした。また、1年生の進路学習(学部・学科調べ)に合わせた展示を行い、月毎に職種を絞った関連本の展示を行っている。

・倉敷南高校

進路指導室にある資料を確認し、図書館に置く資料を選択している。また、進路コーナーを以前からあった小論文コーナーに加えて設置した。隔月で大学1回生が使用するテキストを大学HPで調べ展示し、入学後どのような勉強をするか目に見えるようにした。また、小論文ピックアップという、小論文でよく取り上げられるテーマの関係資料を隔月で展示している。

・倉敷古城池高校

進路コーナーの向かいに、大学入試に出題された本を展示した。1～2月の3年生の貸出冊数は、前年度の約2倍に増加した。

・玉島高校

小論文コーナーと進路コーナーが離れて設置されていたが、隣り合わせにし、また、机や椅子がある図書館奥へ移動し、落ち着いて利用できるようにした。次に、小論文の勉強の進め方をペーパーにし掲示した。隣には、ベネッセの偏差値ランキングを貼り、希望大学に小論文が必要か照合できるようにしている。

また、その他の高校でも、進路コーナーに心のケアに関連する本を展示したり、学内の掲示板を利用して進路コーナーの広報をしたりした。

○図書館だより進路版の作成

・矢掛高校

研修後に、進路支援に特化した図書館だよりを作成した。進路実現に必要な小論文対策等の本が紹介されている。また実用面だけでなく、メンタル面も支援できるような本も紹介している。

以前から図書館だより進路版を作成していた学校はあったが、研修後はさらに取り組む学校が増加した。また、進路版を作成しないまでも、通常作成している図書館だよりに、進路の項目を加え、進路関係の内容を図書館だよりの上部に掲載し目立つよう工夫をする学校があった。

○進路決定後の支援

・倉敷商業高校

進路コーナーにコミュニケーションの本や言葉づかいの本を加えたところ、貸出冊数が伸びた。

4 考察・今後の課題

図書館が進路支援をすることにより、生徒にとってのメリットが2点挙げられる。第1に、進路実現のために、より豊富な情報を得ることが出来る。第2に、図書館利用の機会が増え、図書館が読書や学習だけでなく、社会に対するあらゆる情報を入手できる場“情報センター”という認識を生み、生涯にわたり図書館の活用を促進することが出来るという点である。課題としては、進路資料室との連携について改善が見られるものの、まだ始まったばかりであるため不十分である。さらに教員とのコミュニケーションを図り、進路資料室では賄えない部分を図書館が支援していくという姿勢を伝えることが大切だと感じる。そして、図書館からの一方的な支援ではなく、生徒の進路実現が目標であることを念頭に置き、生徒や教員の要望に耳を傾けることが重要だと感じる。また、支援の効果が見えにくいという点がある。結果を数値で示すことはなかなか難しいが、利用状況をよく観察し、継続的に修正を加えていくことが必要と思われる。

参考文献

*1 このまとめ方は、鳥取県立図書館高橋真太郎司書が、派遣切りで生活に困窮している人に対し図書館ができることを考えるため作成したものを参考にした。(文科省HP内「労働者の直面する問題と図書館のできること」)

I 事例発表 ②

子どもたちが興味を持つ資料提供

倉敷市立真備東中学校 馬場 裕子

1 はじめに

学校図書館は学習関連や季節関連、学校行事など様々な形で資料提供を行っている。しかし、通年となると内容がマンネリ化し、児童生徒の興味が稀薄になっているのではと感じた。そこで研究を始めるにあたり、まず各校の資料提供の現状を報告しあった。その結果、「児童生徒が手に取らないような本も工夫によっては手に取るのではないか。」「学習・情報センターとして授業への資料提供も必要だ。」等の意見が出た。そこで、資料提供の方法として「行事等に対する司書側からの資料提供」と「授業への資料提供」に絞り実践、協議した。

2 行事への資料提供

まず、小・中学校共通のものとして「人権」をテーマに全学校が実践した。次に、各校でそれぞれのテーマを選び資料提供をした。その後、実践内容を報告し、児童生徒や教員の反応等の意見交換をした。各校の実践内容として、別置コーナーの設置、図書館だよりによる本の紹介、司書による本の読み聞かせ、図書委員会による校内放送での本の紹介、教員へのブックリストの配布、職員室への本の出張貸出があった。実践後の司書から、「本の展示だけでなく、図書館だよりや校内放送を通じて内容紹介をすることで本の貸出に繋がり、司書や図書委員の働きかけの大切さを実感した。」という意見が多く出た。また、形式を統一することで他校の実践を理解し、自校で取り入れやすくするため「実践記録シート」を作成した。また、教員との打ち合わせ時間が取りにくい中、教員の授業のねらいや思いを押さえておくため「ねらい」や「準備物」などの確認事項を実践シートの内容に入れた。

3 授業への資料提供

授業への資料提供をするにあたり、「どの学年が」、「どの時期に」、「どの単元で」図書館と連携可能な授業があるかを知る必要があるため、各校が以前から実践してきた授業への資料提供の事例を持ち寄り、「図書館授業利用表」を作成した。「実践記録シート」「図書館授業利用表」を活用し、各校それぞれのテーマで授業へ

の資料提供に取り組み、報告した。実践内容は、「図書の時間での本の読み聞かせ」、「家庭科の授業での本の紹介」や「教科教室へ出張貸出」、「総合的な学習の時間への資料提供」等があった。「実践記録シート」「図書館授業利用表」を活用しての実践を通じて「利用表により、早期段階で資料準備が可能になり司書側から教員に働きかけやすくなった。」「実践記録シートを活用することで教員と協議ができ、よりの確な資料提供が可能になった。」「他校の実践を自校でも取り組みたい。」等の意見が出た。

4 実践

赤崎小学校では3年生の国語の授業で、児童自身が疑問に思う事柄の答えを図書館の本の中から探し、報告するという作業を3時間行った。児童自身で答えを見つけることがねらいの為、司書は必要な本や情報にたどり着けるように手助けをした。具体的には、先に教諭から「疑問」のリストを提供してもらい、「疑問」を解決するのに役立つような本のリストアップをした。それをもとに書名や分類番号から資料を探し、情報を得られるようにした。児童は、答えにたどりつけた時、達成感を得たように感じられた。これは課題の発見と解決に向けて主体的に学ぶ学習にもつながり、授業における有意義な資料提供のひとつと考えられる。

次に、27年度乙島小学校が行った「倉敷市推薦図書」について報告する。倉敷市では、平成26年、市内のすべての児童生徒を対象に「倉敷市推薦図書」を策定した。選書基準は、1、心が豊かになる。2、学校生活の役に立つ。3、勉強の役に立つ。の3点で、小学校の低・中・高学年50冊ずつ、中学校50冊をそれぞれ冊子にまとめ市内の全小・中・特別支援学校に配布した。これは「第3次倉敷市子ども読書計画」をもとに教育委員会と教員、司書が初めて協働した取り組みである。

「第3次倉敷市子ども読書活動推進計画」の中には「倉敷市推薦図書に、文学や歴史、科学的読み物等幅広い分野の本を紹介し児童生徒が幅広い本に興味をもつことができるようにします。」とあり、私たち資料提供班の「手

に取られにくい本も読んでほしい。」という研修のテーマの一部にも当てはまる。そこで、乙島小学校では10月の「校内読書週間」から、低・中・高学年で推薦図書の見出しと読書目標冊数を決め、目標を達成できるよう教員と司書が連携し取り組んだ。まず、「推薦図書」が児童に認識されるよう本のリストを図書館に掲示するとともに、本の背表紙の下にふくろうのマークをつけて配架した。そして、推薦図書の貸出時には読書通帳に記入し、目標冊数に達した児童には賞状を渡し、昼の放送でお気に入りの本を紹介した。推薦図書をのせた読書の木も作り、読んだ本のところへシールを貼るようにもした。実施当初は自主的に推薦図書を手取る児童は見受けられなかったが、担任の声かけや読書の木の掲示等で全校児童が意欲的に目標達成に向かって取り組むようになった。児童生徒からは、「長いおはなしの本が読めるようになった。」、「いろいろなジャンルの本を知ることができ、本の幅が広がった。」、「これからもいろいろな本をしっかり読んでいきたい。」など、好意的な感想を多く聞くことができた。教員からも「児童生徒の読む本が変化した。」とか、「低学年でも絵本ばかりでなく多様な本を借りていた。」「早く本を決め静かに集中し読書するようになった。」等の感想があった。実践を通して推薦図書を読んでもらうためには、学校全体で取り組むことと、教員の協力が大切だと痛感した。しかし一方で、限られた数の本を全校児童に貸し出すのは難しく、推薦図書を含めたよりよい読書活動の形を検討していくことが課題だと感じた。

次に、真備東中学校で毎年2年生が行う広島平和研修についての報告をする。これは、学年行事と図書館の連携の機会ととらえたが、図書館との連携は検討していないとの返答のため、図書館内に特集コーナーを設置した。特集コーナーには、広島に関する資料として、2類の「地理」や3類の「原爆・戦争」の書籍のほか、旅行雑誌や広島のパンフレットもあわせて展示した。しかし、特集コーナーの資料を手取るのは、図書館によく来る決まった生徒だけであった為、特集展示の広報をし、まず興味を持ってもらうよう、さらに4つの取り組みを行った。

1、「ライブラリーナビ」の配布

広島研修に関連したライブラリーナビを作成し、2年生と全教員に配布した。広島研修に関連しつつ生徒の興味を引く5つの見出しを設定し、さらに主体的に資料探求できるよう、見出しに関連した図書館資料を使ったク

イズやミニ情報を掲載した。配布後、資料に関する問い合わせが増加し、教員からの反響も大きく、教室で紹介するクラスもあった。

2、新聞記事の紹介

その年の「原爆の日」に関連した新聞記事を切り抜き、パネルに貼り図書館入り口に設置した。入り口に置いたため多くの生徒が足をとめて新聞記事を読んでいた。真備東中学校がNIE活動に取り組んでいることもあり、教員の反応も良かった。

3、2年生限定図書館だよりの発行

図書館の「特集コーナー」、「ライブラリーナビ」、「新聞記事の紹介」のPRを掲載した。

4、広島弁おみくじの作成

広島の資料を見に来た2年生に、広島弁のおみくじを作成し、プレゼントした。それを目的に多くの生徒が来館するようになり、司書が資料へと誘導し関連本を読む生徒が増えた。

これらの活動を通じて、初めは手に取らなかった特集資料やそれ以外の関連資料が手に取られ、借りられるようになった。このことから、利用者に資料を手にとってもらうまでの工夫も資料提供のための司書の役割と実感した。その後、司書教諭から「広島平和研修の事後学習」への資料提供の依頼を受け、司書もレファレンスで授業に入ることになった。生徒が資料を活用する様子を見て「今、興味がある事柄についての資料がすぐ近くにあると、しっかり活用される。」「資料を手渡してくれる人がいることで、学習がスムーズに進み深まった。」と、教員からの感想があった。実践後、司書側からいくつかの資料提供のアプローチを行ったところ、生徒や教員の興味が図書館の資料に向き、資料の閲覧や貸出に大きく繋がった。そして予定外であった授業への資料提供にもつながった。資料がより活用されるためには、なにより授業など資料提供の「場」の確保と授業のねらいに合った資料提供が必要不可欠であると感じた。そのためにも日頃から司書がさまざまな取り組みの発信と働きかけをし、司書教諭をはじめ教員と連携が必要だと感じた。

5 おわりに

実践を終えて、子どもたちが興味を持つ資料提供をするには司書側から積極的に発信していくことが大切だと感じた。資料の展示だけでなく、教員にも声をかけリストを配付することで、予定外の授業での資料提供にもつ

なだった。そのためには、普段から司書と教員が資料提供についてしっかり話をしておくことが大事だと感じた。資料が行事や授業の中でどのように活用され、どのような成果があったのか、今後さらにより良い資料提供が可能かを考え、引き続き研修し、スムーズに資料提供をしていく必要があると思われる。また、「倉敷市推薦図書」の取り組みは、各校様々で、冊子の活用に疑問をもつ司書もいる。今回の実践の事例を紹介することで、「倉敷市推薦図書」の活用が活発になればと考えている。

II 質疑応答

Q 3年生のまだ進路が決まっていない生徒や、生徒が進路について考える導入部分として図書館の働きかけはないのか。

A 倉敷商業高校では、今年4月の3年生の授業で、将来について考える本を図書館で探し、レポートを作成する時間があった。その時に、まだ進路選択が決まっていない生徒に対し、働くとはどういうことかという本を紹介した。また、2年生でもほぼ同様のことを行った。しかしながら、低学年時は自身に迫ったことと捉えにくい生徒も多くいる為、その部分を図書館でさらに支援できたらと思う。

Q 昼の校内放送を通じて内容を紹介とは、どのようなことをしたか具体的に教えて欲しい。

A テレビ放送を行った。放送内容は、低・中・高学年に1冊ずつ簡単な本の紹介を作成させ、本とともに提示し視覚的に訴えた。児童自身が紹介することで、より興味を持ったように感じた。

Q 資料提供という定義をどのように捉えているのか。

A 様々な分野の本を生徒に薦める為に研修を重ねる中で、資料提供の場をつくる為にはどうするか、どのようなアプローチをするかという部分も資料提供の一環として話を進めた。定義が明確にできるようさらに検討していきたい。

III 助言

学習指導要領では、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童（生徒）の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」と示されている。そのため、学校図書館は、校内での協力体制、運営等の

工夫に努める必要がある。また、「児童・生徒が自ら学ぶ学習・情報センターとしての機能」と合わせて、「豊かな感性や情操をはぐくむ読書センターとしての機能」を發揮することも期待されている。発表を振り返ると、この2つの機能につながる取り組みがみられた。学校図書館について専門的な知識・経験を有する司書が積極的に児童・生徒や教員に働きかけ、児童・生徒の主体的な学習活動・読書活動に尽力しているのを感じた。

・高等学校の事例について

進路資料室との連携は、図書館と進路資料室の場所が離れている等ハード面の問題と、なかなか教員との話し合いがもてないというソフト面の問題があったが、図書館日より進路版を進路資料室に掲示したり、出張図書館として進路資料室にコーナーを作成したり等、司書のアイデアで、独立してしまいがちな図書館と進路資料室とが、生徒の進路実現という共通の目的のもとに連携していく姿がみてとれた。また、なかなか本屋では手に入らないような、卒業生が就職した会社の社史やPR誌、大学生が使用するテキストの展示は、情報センターとしての役割を見事に果たしていた。進路コーナーは、各校により設置場所が異なるとのことだったが、何が生徒にとって一番有効な方法かを司書が見ているからこそその違いと感じ、生徒の様子をくみ取る大切さを感じた。

・小・中学校の事例について

司書同士で、課題や連携を意識し共有していると感じた。各教科において、授業の資料提供工夫として、図書館の授業年間計画を作成し、授業との兼ね合いを考慮し資料提供が可能か把握する。まさに、計画的に教育課程と図書館をつなぐ取り組みだったのではないかと感じた。授業年間計画を用いて、学校司書からの積極的な関わりがみられた。また、「倉敷市推薦図書」を使用している取り組みは、様々な分野を読み、豊かな心を育てたいという読書センターとしての役割と、手に取りにくい本を幅広く紹介するという情報センターとしての役割を果たす上で有効なものであった。また、「広島平和研修」で予定にはなかった資料提供を行うことになったのも、司書の積極的な取り組みによって、連携につながった結果だと感じた。

【A分科会】

発表者	久戸瀬 瑞季（岡山県立倉敷工業高等学校司書）
	小原 寛子（倉敷市立倉敷第一中学校司書）
助言者	高津 智子（倉敷市立第四福田小学校校長）
司会者	坂本 保恵（倉敷市立富田小学校司書）
記録者	世良 真弓（倉敷市立真備陵南高等学校司書）
	川上 知代（倉敷市立岡田小学校司書）
	藤原 絵里子（倉敷市立乙島東小学校司書）

I 事例発表 ①

「つくる力」と学校図書館 ～アクティブ・ラーニングを考える～

岡山県立倉敷工業高等学校 司書 久戸瀬 瑞季

1 はじめに

倉敷工業高校の校訓のひとつである「創造」の理念に基づき、図書館のキャッチフレーズを「つくる力は考える力から、考える力は読む力から。」とした。ものづくりを大切にする本校において、学校図書館の活動を生徒の「つくる力」「考える力」の伸長につながるものにするには、どのようなことができるのか。昨今話題の「アクティブ・ラーニング」をキーワードに探ることとした。

2 アクティブ・ラーニングと学校図書館

1) 「アクティブ・ラーニング」とは？

まず、関連書籍や文部科学省の審議会答申などを確認し、アクティブ・ラーニングについての理解を深めた。もともとはアメリカで考えられた概念であるが、2012年の「質的転換答申」により、日本の大学で取り入れられ、浸透したものが、初等中等教育の現場にも導入されることとなった。知識基盤社会、高等教育の大衆化、産業界の要請といった背景がある。

中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」（2015.8）において、次期学習指導要領改訂の方向性が示され、アクティブ・ラーニングの意義が強調された。学び全体の改善の視点として、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の3つの学びが示されている。

2) アクティブ・ラーニングと学校図書館

学校図書館では、これまでも言語活動の充実に留意し、

探究学習・調べ学習などが行われてきた。言語活動はアクティブ・ラーニングの中核的活動と位置づけられるものと言える。また、探究学習・調べ学習はアクティブ・ラーニングとして取り組むべきものである。いわゆる高大接続改革により、大学入試が変わることから、高校教育も変わっていくことが期待される。学校図書館において、アクティブ・ラーニングの持つ可能性は大きい。これから取り組んでいくにも、よいタイミングであり、チャンスであると言える。

学校図書館での実際の関わり方としては、後述する事例のようなアクティブ・ラーニング型授業との連携のほか、図書館の基本的な機能として、貸出しなどの資料提供や環境整備、その他のサービスを通じての授業外での生徒の自主的な学習の支援も重要である。

<備中地区高校での授業事例紹介>

○総社南高校「絵本を読んで感想を書く」（家庭科）

絵本を読むことで童心に返り、幼児の理解を深めることを目的としている。「これ読んだことあるー！」など、盛り上がった。次の時間のカレンダー制作では、カット集、イラスト集、季節の写真集などの資料も活用した。

○笠岡高校「海藻標本しおりづくり・調べ学習」（行事）

昨年度の校内読書週間の行事を理科と連携して行った。海藻の名前や特徴を調べ、しおりに書き込んで作った。司書は参考文献収集、利用方法の説明を行った。

○倉敷商業高校「ビブリオバトル」(国語科)

国語科の授業でビブリオバトルに取り組んだ。生徒が薦めた本は図書館に展示し、広く紹介している。全国的にもアクティブ・ラーニングに関連して授業で取り入れる事例が書籍にも紹介されている。

○倉敷青陵高校「ポスター作成/課題学習」(保健体育科)

1年生AIDS啓発ポスター作成の事例は昨年度のSLA中国大会の公開授業でも行われた。2年生では10時間程度を使って、テーマ設定、調べる、まとめる、発表するという探究的な課題学習が行われている。

これら4校の事例では、図書館の基本である多様な資料や情報を活用し、プレゼンテーションなどにICT機器も利用している。また、生徒が楽しんで意欲的に取り組んでいる様子が印象的であった。司書は調べ方や情報の発信の仕方のコツといったガイダンスを行い、資料展示との連携なども行われている。今後のアクティブ・ラーニング型授業の展開のためには、このように参考になる事例を収集し共有することも有効であると考えられる。

3) 実践へのヒント

アクティブ・ラーニングに対応する図書館のあり方について、「知識の伝達から創造へ」「場としての図書館」「ICT環境の整備と活用」をキーワードとし、「施設」「資料」「職員」の要素について考察した。

ラーニング・コモンズとは、アクティブ・ラーニングに対応した学習環境で、大学では図書館内に設置されている場合が多く見られる。岡山県内でも多くの大学で設置が進んでいる。美作大学に今年1月に新しくできた図書館のラーニング・コモンズを例として紹介する。広々としたオープンなスペースでは、声を出してのグループ学習もでき、活発に利用されている様子である。従来の静かに学習するエリアとは区切られていて、用途によって使い分けができるようになっている。プレゼンテーションルームやPCエリアなども備え、様々な学習スタイルに対応できる、魅力のある空間になっている。

施設(学習空間)については、ラーニング・コモンズに見られるようにグループ学習や自習などのスペース、可動するテーブルやイス、ホワイトボード、ツールとしてのICT機器やソフトウェア、電子黒板などを備えることが有効であると考えられる。また、資料(コンテンツ)については、蔵書に加え、相互貸借(他館資料の利用)も活用し、学習に役立つ資料をそろえるほか、情報源としてのデジタルコンテンツの提供(整備・作成)が

望まれる。多様な本のある空間(総合的な知/学習する雰囲気)であることは、生徒の主體的な学習意欲を引き出す上での図書館の優位点であると言える。

また、職員(人的支援)については、レファレンス、情報活用支援、ICT活用支援といった学習支援、図書館を活用したアクティブ・ラーニング型授業への参画などの授業支援は、学校司書法制化以降の文部科学省の研究協力者会議での検討などでも重視されているところである。このような司書による生徒・教職員へのサポートがあることも図書館の優位点であると考えられる。

3 今後の課題と展望

最後に、今後の課題2点と展望を述べる。

1つ目の課題として、校内での共通認識の形成が挙げられる。「読書センター」機能や「読書教育」に関しては図書館がある程度中心的に進めていくものと位置づけられている学校も多いように思われるが、一方「学習・情報センター」機能やいわゆる「情報リテラシー教育」を行う役割に対して、図書館が主體的に関わるべきものと認識されているかどうか、疑問である。また、カリキュラムマネジメントの観点から、アクティブ・ラーニングの目指すものと「情報リテラシー教育」との関係も整理し、各教科・授業へ横断的に計画して位置づける必要がある。

2つ目の課題として、地域での共通認識の形成が挙げられる。参考事例の「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」は、鳥取県教育委員会が学校図書館活用教育を施策としてまとめ、県下全校に普及しているものである。アクティブ・ラーニングの充実のために学校図書館が不可欠と述べ、就学前から高等学校まで一貫した見通しをもった学校図書館活用教育のあり方を示している。このようなことは、個々の学校の対応だけでは難しい。岡山県の「どンドン読書プラン」の改訂時期が近いことなども視野に入れて検討を要すると思われる。

図書館は本来、自由・自発的な学習の施設であり、生涯学習の場である。生徒が生涯にわたって学び続ける力、主體的に考える力を身に付けられるよう、小中高～大学～公共図書館とのつながりを意識した上で、アクティブ・ラーニングを取り入れて対応していきたい。本校でも、図書館で会う本や人との交流が、生徒・教職員の学びの支援となり、なんらかの「つくる力」につながるような図書館となることを目指して、環境やサービスの改善・向上に努めたい。

I 事例発表 ②

「利用しやすい学校図書館」

倉敷市立倉敷第一中学校 小原 寛子

1 はじめに

環境整備班では、学校図書館の環境整備について小学校、中学校、特別支援学校の司書が研修を重ねてきた。テーマを「利用しやすい学校図書館」とし、利用者にとって使いやすい学校図書館を、司書の側から環境整備という視点で考えることにした。利用者にとって居心地の良い空間になるように館内や壁面の掲示を主に考える「掲示・展示グループ」と、利用者が本を探しやすくなるための整備について考える「空間デザイングループ」の2つに分かれて、研修を進めた。

2 ワークショップ

環境整備のためには、司書が、互いのアイデアを教え合う機会を持つことや、実際に掲示物を作ることでものづくりの技術の向上を図ることが必要であると考え、ワークショップを実施した。（※ワークショップで作成し、好評だった簡易豆本の作り方や活用例をスライドにて紹介した。）

ワークショップは、班員全員の良い交流の時間となり、環境整備について改めて考える機会にもなった。今後は、各学校の掲示や、委員会活動、夏休みの開館日の活動に応用していきたいと考えている。

3 掲示・展示グループ

掲示・展示グループは、利用者にとって「親しみやすい居心地の良い場所づくり」に重点をおいて、館内掲示についての話し合いを行った。実際に作成した掲示物や写真を持ち寄り、月別のテーマについて検討した。

掲示物のテーマは、季節に沿ったもの、学校行事や時事に関連したものがあり、本の紹介や新刊案内が引き立つように考えた。掲示場所は、それぞれの学校図書館の環境に応じて工夫した。掲示を計画するにあたって、季節や学校行事に合わせて作成準備のカレンダーを用意した。そうすることにより、製作や掲示のタイミングが把握しやすくなった。

作成は主に司書が行うが、時には委員会活動の一つにも取り入れた。掲示物を児童生徒と一緒に作成すること

で、彼らが学校図書館をより身近に感じる機会となった。こうした司書と児童生徒との交流の場を、選書や本の紹介のテーマ探しにも生かすようにしている。

同じ題材（テーマ）の掲示物を作成しても、折り紙、切り紙、リサイクル工作では、それぞれ趣の違う作品ができるということを、グループの研修において実感した。

（※冬をテーマにした実際の掲示物を紹介し、窓、書架、天井から吊るすなどの掲示場所によって工夫した点について説明した。）

4 空間デザイングループ

「利用者が本を探しやすくなるためのものを考えること」に重点をおいて、書架案内作りに取り組んだ。館内写真や現在使っている分類板を持ち寄り、協議した。

書架案内のパネルサインにはNDCの言葉が使われることから、それぞれの学校図書館の利用者の現状に合わせて言葉を変えたり、広い分野を意味する言葉を細かく分類したり、振り仮名を付けたりした。分類板や棚見出しは、蔵書量や利用頻度に応じて作成した。（※分類板と棚見出しを合わせた「棚見出し付差込式仕切板」を作成した小学校の事例を紹介し、補強の工夫や作り方のポイントを説明した。）

書架配置図や分類主鋼表は、書架案内のサインの表記と統一されているかを確認したり、学校図書館の独自の情報を加えたりすることもあった。

5 おわりに

環境整備班の「掲示・展示グループ」では、居心地の良い空間を作るために装飾的な掲示・展示物を作成してきた。児童生徒にとって気持ちが和む、そして本に期待感を持てるような環境につながったと考える。空間デザイングループでは、書架案内の表記やデザインを工夫することで、本を探せる実用的な案内のサインになったと感じた。改めて「利用しやすい学校図書館」をつくるために、この2つの視点でのものづくりが必要だと感じた。今後の課題は、利用者の様子を引き続き検証し、「利用しやすい学校図書館」の充実を目指したいと思う。

II 質疑応答

Q：小・中学校でアクティブ・ラーニングの事例があれば教えてもらいたい。

A：授業で協働学習に取り組んでいる。授業中机を「コ」の字にしたり、四人班をつくったりして、グループで教え合う学習をしている。こうしたことを受けて図書館でもわかる生徒がわからない生徒の勉強を教える学び合いの精神が見られる。

Q：小・中学校の研修メンバーの構成について教えてもらいたい。

A：新しい司書が多い。班別研修では、新しい人が積極的に実践を行っている。

Q：館内掲示・展示をすることで、本の貸出にどうつながっているかを知りたい。また、好評だった展示や貸出につながったか効果を教えてもらいたい。

A：入り口から表紙が見えるようにすること、季節に応じて、例えば、クリスマスやバレンタインのチョコレート作りなどのコーナーを作って展示すると見てくれて貸出もある。また、掲示板に人気シリーズの書名の一覧表を貼っておくことにより予約が入ってくる。

III 助言

「『つくる力』と学校図書館～アクティブ・ラーニングを考える～」の発表は、まさに旬な内容である。アクティブ・ラーニングの視点から授業改善を行うためには、学校図書館の活用度・充実度が上がらなければならない。発表にもあったように、特に高等学校では、大学入試改革も進んでいる中で、小・中学校以上にアクティブ・ラーニングを飛躍的に充実させることが求められている。今こそ、学校図書館の新化・進化・深化の3つの視点が必要である。そこには、アクティブラーナーとしての司書の役割がとても大きい。そして、それは司書一人がするものではなく、チーム学校としての取組の促進が必要である。

学習指導要領の改訂により、新しい時代に求められている資質・能力（「何ができるようになるか」）として3つの柱が掲げられている。まず、何を知っているか、何ができるか。次に、知っていること・できることをどう使うか。そして、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかの3点である。特に高等学校におい

ては、生きて働く知識や技能を育まなければならないし、社会で使える思考力や判断力等の育成が必要である。

こうした資質・能力を育てるためには、教育課程を実施・評価・改善していく（PDCAサイクルを回していく）という、カリキュラムマネジメントがますます重要となる。教育課程企画特別部会から出された論点整理において、カリキュラムマネジメントの3つの側面が示されているが、その3番目に、「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。」とある。この“人的・物的資源”が、まさに司書であり、学校図書館であると言える。そして、管理職のみならず全ての教職員がカリキュラムマネジメントに取り組む必要があることから、学校図書館を教育課程全体に位置付け、その活用を推進することができるよう、アクティブラーナーとしての司書が役割を果たしていかなければならない。

さて、アクティブ・ラーニングは、ある一つの授業の形を示すものではなく、「どのように学ぶか」の視点、具体的には、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すための授業改善の視点と考えるべきである。特に、学校図書館は、深い学びの実現に寄与すると私は考えている。

深い学びは、習得・活用・探究というプロセスの中で、4つの場面、①問題発見と課題設定の場面、②情報収集の場面、③情報の整理・分析の場面、④まとめ・表現の場面をスパイラルに繰り返しながら進んでいく。この4つの場面は、学校図書館と大いにつながると考える。

まず、①の場面では、図書館の活用により、先行学習の作品展示や探究型学習の具体的なイメージ化、データの提示等が可能となる。

次に、②の場面では、情報収集の仕方を学ぶ本の活用、課題解決のための資料の利用、図書・辞書・新聞・雑誌・インターネット等の多様な情報源の確保等、図書館の情報センター機能が有効に働く。

③の場面では、各種グラフの利用方法が示されている数量関係資料の活用、コンピュータを使った統計処理マップ・カードの作成方法を示す資料の利用等、図書館の豊かな書籍が効果を現す。

最後に、④の場面では、ポスター・プレゼン等の作成方法やレポート等の書き方について、司書が指導することも可能である。このことから分かるように、学校図書館の読書センター、学習・情報センターの機能は、深

い学びの実現にとっても関わっているのである。（※各場面の具体的な実践事例の紹介あり。）

対話的な学びの実現に向けては、ホワイトボードやiPad等のアナログ及びデジタルのツール・アイテムの活用、椅子の配置や可動式の机を利用した学習空間の工夫（発表でも示されていたように）、座談会等の実施によるコミュニケーションの場の設定など、生徒同士の対話が促進される環境整備の工夫が考えられる。

主体的な学びにおいては、生徒が学習に興味・関心を持ち、見通しを持って取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげることができるよう、司書が授業者と協働しながら、図書館内の掲示・展示を工夫することも大切である。

以上のように、学校図書館は授業を大きく変える可能性を秘めている。これからの学校教育を考えると、学校図書館を念頭に置くことがとても重要である。だからこそ、司書は、待ちの姿勢ではなく、アクティブな司書であってほしい。まずは、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえ、教職員と連携・協働しながら、授業改善のための支援に取り組んでほしい。また、カリキュラムマネジメントの視点からも、管理職への働きかけが必要である。さらに、図書委員会の活動等も生かしながら、生徒をアクティブラーナーの仲間育てることもよいのではないかな。

学校図書館を、「そこにある」といった固定的な位置・場所として捉えるのではなく、動くという発想をもつことも大切である。学校図書館自体にも、司書にも、アクティブラーナーとしての役割を期待している。

続いて、環境整備班の「利用しやすい学校図書館」の発表について述べる。学校図書館は環境が重要である。児童生徒にとって、また、教職員にとっても、ほっこりとする場所、居心地の良い場所であってほしいというのが私の願いである。司書自身も人的環境であり、重要な存在であると言える。学校図書館の環境を作っているのも司書である。そういう意味で、環境整備班がグループに分かれ、それぞれのグループ内で情報交換が活発に行われたことは意義深い。この発表から、「チーム図書館」としての成果が表れていることを感じた。

この写真は、連島東小学校の学校図書館である。ここに掲げられている言葉“まいにち おいで みんなのとしょかん”が、学校図書館の願いを現していると思う。学校図書館は児童生徒だけでなく、教職員にとってもオ

アシスになってほしい場所である。

まず、「掲示・展示グループ」では、タイムリーな情報の提供、季節感あふれる雰囲気づくり、学習に関連した図書の紹介、読書のすすめにつながる工夫がなされていた。作品は主に司書が作成しているが、司書だけでなく、図書委員の児童生徒が自ら工夫できる活動がされているのもよかった。

加えて、地域のボランティアの方など、外部の人とのコラボレーションも有効である。今、学校現場では、教育活動を進める上で、教職員以外の様々な人達とどのように連携を図っていくかがポイントとなっている。司書は、司書教諭や管理職と連携を深めることはもちろんであるが、それと連動して、地域人材との協働も取り入れてほしい。第四福田小学校では、地域ボランティアの方が、詩、慣用句やことわざ、オノマトペ、言葉クイズ等の掲示物を作成してくださっている。校内の教職員だけでなく、こうした外部人材の力を借りて、その技能を生かして、言語環境の整備を進めることもできる。こうした地域との連携、また校種を越えて、小・中・高等学校間の連携も重要である。

また、居心地の良い場とするためには、学習の約束の指導も大切である。すでにオリエンテーション等で、利用案内やマナーについて指導がなされているはずで、児童生徒だけではなく、教職員とも共有されていることが必要である。

さらに、掲示や展示の視点だけでなく、図書の時間には、児童生徒が個人で読書しているが、休み時間には、友達同士と一緒に本を読むことのできるコーナーの設置やレイアウト等の工夫も考えてみるのもよいと思う。孤読から共読に向かうコミュニケーションのための読書、学校図書館がそうした場になることも期待したい。

最後に、居心地の良い学校図書館が、様々な教育活動とますますつながることを期待している。例えば・・・、
○人権週間や給食週間、挨拶週間等、学校行事を意識した掲示・展示物の準備

○「朝読書ボックス」のような、読書の習慣化を図る工夫（新聞や書籍の充実）

○学び方の掲示による言語環境の充実

○学校図書館から飛び出して、「ことば」に接する機会の充実

などである。

次に、「空間デザイングループ」についてであるが、

本を探しやすくするための書架案内の工夫に取り組んでいる。これは、本に浸る子どもを育てたいという願いが前提にある取り組みである。先ほどの掲示・展示グループは、まず図書館に入ってみよう！と、児童生徒を誘う工夫であった。空間デザイングループは、図書館に来た児童生徒に、本を選んでみよう！借りてみよう！と促す工夫を考えた。つまり、本を探しやすくすることは、本との出会いをどう作るかを考えているのである。

したがって、書架案内をどのように作るかは重要な視点である。目的に応じて本を取り出せる工夫、児童生徒の実態に応じた工夫、地域資料の分かりやすい工夫、本に興味を持つことができる工夫などを考える司書の役割は大きい。特に現在、配慮の必要な児童生徒が増えている中で、情報が多すぎて本を探すことが困難になるという懸念もある。やはり手立てが必要である。これまで以上に、どの児童生徒にとっても本が探しやすい工夫、例えば、入り口付近やカウンターにおいて、手元で見ることができる一覧や全体図など、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた手立てが必要になってくる。だからこそ、小・中・高の異校種連携が、司書を通じて行われる

ことが望ましい。

また、本との出会いを作るためには、学習との関連は欠かせない。例えば、司書が、本の帯を集めておくことで、国語科の学習の言語活動の充実にもつながっていく。また、教職員や友達のお薦めの本の展示や紹介カードの掲示をすることも、単なる書架案内に留まらず、読書にいざなう取り組みとなる。本を探しやすくするための書架案内は、本の場所のお知らせだけでなく、主体的に自分の必要な本を選び、借りることができる児童生徒を育てることに発展させていくことが必要である。

利用しやすい学校図書館を目指して、環境整備班の2つのグループは様々な取り組みを行った。この取り組みは、司書単独の活動から、チームの活動へと広がった。学校図書館は、今後ますます教育活動の核となる。司書自身がアクティブラーナーとして、また、チーム図書館の中心となって、そして、チーム学校を支える役として、力を発揮してほしい。今日の発表の中に、たくさんのヒントやアイデアがあった。それぞれの学校に積極的に取り入れ、学校図書館の改革に向けてゆっくり少しずつ進んでいってほしい。

【B分科会】

発表者 佐藤 智美 (倉敷市立琴浦南小学校司書)
小坂 純子 (倉敷市立上成小学校司書)
森分 信江 (倉敷市立児島中学校司書)
助言者 坂尾 幸一 (倉敷市立旭丘小学校校長)
司会者 小林 仁美 (倉敷市立倉敷支援学校司書)
記録者 岡田 陽子 (倉敷市立味野小学校司書)
白神 弓子 (倉敷市立中島小学校司書)

I 事例発表 ①

学校図書館で使える資料作成と実践

～図書のと間と国語授業の充実～

倉敷市立琴浦南小学校 佐藤 智美

倉敷市立上成小学校 小坂 純子

1 はじめに

資料作成班は、利用者である児童生徒や教職員と学校図書館をつなぐため、様々な観点からの資料を作り活用していきたいと考えた。今回の研修では「図書のと間」を充実させること、国語の授業に活かすことを目標とし、パネルシアターを作成するグループと作家紹介の資料を作成するグループに分かれ、研究を進めてきた。

2 パネルシアターグループの研究

図書のと間の充実と、もっと絵本を身近に感じてもらいたいという思いから、児童にお馴染みの本を題材にパネルシアターを作成した。

最初にシムズ・タバック作『これはジャックのたてたいえ』を作成することを班内で決め、著作権の利用許可を得た後、絵本をもとに作成する絵人形を分担、各自作成したものを研修で持ち寄り実演した。一人でパネルシアターを作成するには、時間的にも作成数にも限りがあるが、多人数で分担することにより制作時間が大幅に短縮できた。この作品は、言葉の唱和がおもしろく研修で実演した時にも自然に唱和が起こった。各学校で実演しても、児童たちが言葉の繰り返しを司書と一緒に声に出して楽しみ、実演した本は予約でいっぱいになった。児童からは「何でくつつくの？ どうやって切ったの？」「全部覚えていてすごい」などの感想が出た。教諭から

も、「読み聞かせと違い、パネルシアターになると動きがでておもしろいですね。私も楽しませてもらいました。」との感想があった。

二作目に、あきやまただし作『へんしんマラソン』のパネルシアターを作成した。この本は、絵も単純で分かりやすく、言葉の並べ替えがおもしろい絵本。児童たちは声に出して言葉遊びを楽しんでいた。

絵本をパネルシアターの題材として使用する際には、著作権を利用するための許可を得る必要がある。今回は日本書籍出版協会のホームページから「著作権利用申請許可書」をダウンロードし、必要事項を記入して出版社に送付した。出版社から「図書使用許諾書」を受け取り、許可を得てからパネルシアター作成を始めた。

ブラックライトパネルシアターについて

自校にブラックライトがあるメンバーより、「ブラックライトパネルシアター」を作ってみたいと提案があった。まず、ブラックライトで表現するのに向いている作品とはどのようなものか、資料を持ち寄り話し合いを重ねた。候補にあがったのは、地の部分が黒いものや絵がはっきりしている作品。今回は、実演の時期が12月になることと蛍光色が映えるのではないかとすることを考慮し、いとうひろし作『さんにんサンタ』を作ることにした。

ブラックライトパネルシアターを実際に作った経験のある者がいなかったため、材料や作り方を調べるところから始めた。下絵はグループ全体で分担し、色塗りを担当者で行った。色の伸びが良い蛍光絵の具を使用することにし、なるべくムラにならないように塗り重ねた。ブラックライトパネルシアターは、余白を黒に塗る必要があるため、何回も黒色を重ね塗った。

—『さんにんサンタ』の一部を実演—

実演を行った際、ブラックライトパネルシアターを初めて見る児童・教諭が多く、とても盛り上がった。実践を終えたら、共通の実践シートに記入し報告し合った。

班で作成したパネルシアターは、倉敷市の学校図書館司書を対象に貸し出しを行っている。まだ数は少ないが今後も子どもたちに楽しんでもらえる作品を作っていきたいと思う。

3 作家紹介グループの研究

国語の授業で活用できる資料作成を目標に、教科書にでてくる作家の紹介を研究した。低・中・高の担当に分かれ「中川李枝子」「アーノルド・ローベル」「あまんきみこ」「新美南吉」「椋鳩十」「杉みき子」「星野道夫」「宮澤賢治」を、パワーポイントを使ってプレゼンテーションを作成し、実践を行った。パワーポイントの形式は統一したものとし、

- ①作家の経歴や顔写真を紹介する。
- ②教科書に載っている作品について、あらすじや作品の背景などを紹介する。
- ③作家や、作品にまつわるエピソードやクイズなどを紹介する。
- ④教科書の作品以外の本の紹介を載せる（学校により蔵書が異なるので自校にある本の紹介が中心になる）。

以上の基準形式を決め、それぞれが作成した。

実践の前には、授業の流れもあるので必ず授業者と相談をし、実践日を決めた。実践については、教室や図書館などで行いプレゼンテーションの後、ブックリストを配布したり、ブックトークをしたり、読み聞かせをするなど、個々に工夫した。

—アーノルド・ローベル『おてがみ』の実演—

アーノルド・ローベルの著作権・本の表紙などは事前に許諾を得ている。

- ① アーノルド・ローベルについて
- ② 『がまくんとかえるくんのシリーズ』を紹介
- ③ クイズ
- ④ 『がまくんとかえるくん』シリーズ以外の本を紹介（2冊）
- ⑤ その他の本の紹介（6冊）

実践を終えたら、共通の実践シートに記入をして報告し合った。自分が担当した作家は一人だが、それぞれが共有することで各学年が実践することができた。

教諭からは、「国語の時間に学習していたため、とても身近な作者として大変興味をもって視聴することができた。」「図書の時間の始めにいつもアーノルド・ローベルの『かえるくんとがまくん』シリーズを読み聞かせしていたので、同じ作者の他の絵本も借りて読んでみようという意欲を持った児童が多くみられた。』との感想があり、児童からは、「アーノルド・ローベルの顔が分かって良かった。」「色々なすごい賞をとっているのは、知らなかった。』との声が聞かれた。

作家紹介をすることで児童に興味をもってもらい、たくさん作品を借りて読んでもらったことは利用にもつながり、とても効果があったと思う。今後も、教科書に載っている作品の資料作成を続けていきたいと思う。

4 おわりに

今後の課題は、2つにグループ分けした資料作成班なので、お互いの情報を共有しながら学校図書館を活性化しつつ、授業に活かせる資料作成を研修していくことである。

I 事例発表 ②

調べ学習を円滑に進めるための学校図書館の役割

—その方法と準備を考える—

倉敷市立児島中学校 森分 信江

1 はじめに

自己解決が求められる現在、問題解決学習である調べ学習の役割は大きい。しかし現状では、図書館に来て参考資料を見つけ出すことすら難しい児童生徒が多い。そのような児童生徒が円滑に資料を見つけ、その中から問題を解決することができるようにするために、学校図書館と司書は何ができるかを考えたいと思いこの研究を始めた。

2 経緯

それぞれの学校では、各教科の年間指導計画を作成し、単元計画を基に学習活動が組まれている。学校図書館も学校の実態に合った図書を選定し、配架して、実際に授業で活用してもらうことが大切だと考えている。そこで、授業で活用しやすい環境を整え、学習に役立つ学校図書館『学習ステーション』として整備している。しかし、実際に授業で調べ学習が行われるとき、整備された『学習ステーション』がうまく活用されていない現状がある。児童生徒には『調べ方』が理解されていないようである。私たちは、短い時間で『調べ方』をわかってもらえるよう、パワーポイントを作成することとした。

最初に、参考資料として本やインターネットなどで調べ学習についてわかりやすく解説されたものを探した。また、倉敷市教育委員会より配布された図書館利用指導用提示DVDソフト『まかせて！学校図書館』も活用したいと考えた。それらを参考に、図書館に沿った内容でパワーポイント『図書館で調べ学習』にまとめ、その後各校の現状にあわせて改良した。

【パワーポイント「図書館で調べ学習＜3年生国語『本で調べて、ほうこくしよう』＞】

①表題

②調べ学習の方法

③学校の図書館で本をさがそう！

④～⑥本の探し方1～3

⑦パソコンで本をさがす パソコンで調べ学習

⑧パソコンを利用するときは…

⑨探調 TOOL-DX (児童生徒用)

⑩～⑫探調 TOOL-DX (児童生徒用) の画面

⑬ラベルのなりたち

⑭分類番号について

⑮日本十進分類表について

⑯本が探せたら…

⑰インターネットをつかいたいとき

⑱インターネットをつかうとき

⑲おわり

3 実践

A校・B校とも3年生国語『本で調べて、ほうこくしよう』の単元において、プレゼンテーション「図書館で調べ学習 <3年生国語『本で調べて、ほうこくしよう』>」を図書の時間を使って行った。司書から教諭に話をし、教諭からは「おまかせします。」ということで実践することとなった。

(1) A校の実践

1クラス目…説明に先立ち、館内の本の配置図を作成し、分類番号のわかりやすいものを新たに掲示した。パワーポイントは、探調のページに吹き出しなどを入れてわかりやすくした。また、『まかせて！学校図書館』を使いたい部分には目印をつけ、ワークシート「もくじの使い方シート」「本のならび方シート」を印刷した。図書の返却・貸出、説明でほとんど時間がなくなり、本をまとめて教室に持ち帰ることとなった。児童は本を探すとき、配置図と分類番号表に意識が向いていた。

2クラス目…教科書に「百科事典や図鑑などの本を使って調べる」とあるので、『まかせて！学校図書館』の「百科事典を使おう」に重点を置き、説明内容を減らし、言葉や吹き出しの内容をさらにわかりやすくした。調べ学

習の時間はなかったが、1クラス目よりスムーズに伝えられた。2クラス目は、司書が前回の児童の反応を体験していることからほんの少し余裕をもって取り組めた。説明後、児童が分類を気にするようになった。パソコンで検索後、分類番号が表示されていてもその意味が分かっていなかったが、説明後は理解していた。自分で検索し、配置図を見て、本が探せるようになった。見て、聞いて、体験すると理解するのが早いことを実感した。

(2) B校の実践

B校では4クラスに実践した。パワーポイントでの調べ方の説明のあと、掲示物を見せてクイズを出し、説明内容の確認をした。その後、図書室の時間という流れだった。説明後、児童が分類を気にするようになった。パソコンで検索時に分類番号が表示されるが、それが何であるか分かったようである。「時間があれば分類探しをさせたかったね。」と担当の教諭と話をした。明るい学年で、積極的にクイズに参加し、説明内容にも興味津々でワクワクしながら聞いていた。その時間中、ノリノリで授業に取り組んでいた。司書の反省として、最初のクラスは説明内容をつめこみすぎているが、徐々に慣れてきて、児童の反応を見ながら、内容を減らしたり、クイズで盛り上げたりして、説明内容の定着に努めた。児童の反応がよく、担当教諭から「もう少し時間が取れたら。」と言われた。その後、図書館との関係が密になり、図書館の利用が増えた。今後も司書側から発信していきたい。

(3) C校の実践

C校は4年生の総合的な学習の時間の授業（リサイクルについて）において実践した。前もってすべての児童がテーマを決めていた。パワーポイントを見せ、調べ方の流れを説明した。児童は静かに興味深く聞いていた。また、実際にパソコンを使って本の検索をする方法を説明した。キーワードを入力し、本を探す。具体的に「チーズ」に関する本を、児童生徒用のパソコンを操作し、画面を見ながら検索した。次に、ポプラディアなど、事典や図鑑を使って調べる方法を説明。索引・目次を使うことを説明した。索引から必要とする項目を探し出せることが理解できた。合わせて、出典についてきちんとノートに記すことを伝えた。また、求める本が探せるように、日本十進分類法、図書館の地図を説明し、実際に本を探した。

調べ学習を終えて、良い点として、調べ方が分かると、「児童だけで検索できる！」ということは、先生に聞かなくても自分でできるという喜びがあるということであ

る。自分が求めているものを、以前よりは的確に探せるようになっていた。もう一息な点としては、本が検索できても分類番号で探せない児童がいるということである。館内の説明はしているのに、聞いていないのか、本の位置が分かりづらいのか、探そうとしない児童がいることである。実践後の感想として、調べ方の説明はしたほうが何倍もよかった。事典の引き方は説明するのとしないのでは全然違う。司書の反省として、質問してきた児童自身が、求める項目のページを見つけなければいけないのに、忙しいとつい、司書が見つけてしまったこと。学年によっては、あまり時間をかけずにポイントだけを説明した方が効果的に思える。説明は簡潔にし、館内図を印刷して配布するのをもひとつの手段だと思う。

4 おわりに

実践を終えて、各校の共通した思いは、見て、聞いて、体験すると理解が早いということである。だからこそ、時間短縮と、児童の集中力維持のためにはさらに簡略化が必要と考える。しかし、簡略化すれば、必要なことまで伝えきれなくなるので、学年ごとに計画的に調べ学習の仕方を説明することが重要となる。繰り返し説明することで、何を使って、どうやって調べるかということ判断し、索引の引き方や辞書の使い方を理解し、使いこなせるようになる。そうすると調べ方ばかりでなく、調べたい「テーマ」についてさらに深めていくことができるのではないだろうか。

「調べ学習を円滑に！」という思いから「調べ方」をパワーポイントにまとめ、作成した。どこから手をつけたらよいのかさっぱりわからないというのではなく、調べ方をイメージしながら資料を探ることができればと考えた。なかなか調べていることが見つからないこともあるが、それも無駄ではない。多少時間がかかっても、だからこそ見えてくるものもある。とはいえ、学校図書館での調べ学習では、時間の制約があり、じっくり個々の時間で調べればよいというわけにはいかない。効率よく探している資料を見つけ、まとめなければならない。学校図書館だったら館内を一周するのは簡単である。書架に並んでいる本は限られている。資料の検索方法と図書を見つけやすい環境整備など、パワーポイント以外の様々な工夫も必要である。学校図書館は、情報を得るための一つの手段にすぎないが、とても魅力ある空間である。その空間をもっと授業で活用してもらえよう研鑽していこうと思う。

II 質疑応答

Q：著作物許可申請書はホームページからダウンロードしたとのことだが、どこか教えてほしい。またブラックライトが学校にあるとのことだが、他でも使用したのか。

A：著作物許可申請書は、日本書籍出版協会のホームページより。ブラックライトは専用の紙芝居があり、以前は委員会活動に利用していた。他の用途ではなく実演のために図書館に備えてあるとのこと。

Q：パネルシアターに選んだ本の理由と、選ぶ際の特徴があれば教えてほしい。

A：パネルシアターを作るためには、絵を各パーツに分けなければならない。そのため、絵がはっきりとして分かりやすいものがよいのでは。また子ども達に馴染みがあり司書も楽しめる本を基準に選んだ。

Q：紹介した作家以外で、教科書に載っている作家の本を子ども達が調べにきた例はあるか。

A：取り組みをする前と後で、特に変化がないように思う。自分から「他にどんな本を書いているのか」を知ろうとするのは、なかなか難しいのではないか。小学校低学年の児童は、教科書に載っている物語が全てで他の本も書いていることをイメージしにくいように思われる。図書の時間に本を紹介すればとても興味を持って借りている。アーノルド・ローベルの紹介の時は、クラスの半数が借りて読んでおり担任も驚いていた。その学年は作者を意識した本の借り方ができていると思う。5年生で紹介した椋鳩十も継続して貸し出されるようになった。パワーポイントを使用し映像化したため、子ども達の印象に残ったのだと思う。並行読書の効果的な時期を見極めて読書経験をさせてやりたい。中学生になった時、自分から「この作家は他にどのような本を書いているのか」、「どうしてこのような物語を書いたのか」ということを、知りたい、調べたいと感じるきっかけ作りの種を育てたいと思う。

Q：中学校では実践できなかったということだが、実践してみたいプランやアイデアがあったら教えてほしい。

A：紹介したDVDには中学校編があり、編集機能が付いているので、自校に合わせたアンケートなどに活用したい。小学校で使い方を説明し、中学校ではその復習や、実態調査に基づいた説明もできる。機会

があればやってみたい。

Q：担当の教諭とどんな打ち合わせをしたか。

A：司書側から提案し、快諾の上で実践した。綿密な打ち合わせではなく、同意を得たという形だった。

Q：課題として、検索はできても分類が分からないということだが、図書館内にそういう掲示があるのか。

A：配置図も分類番号も2か所以上掲示している。わかりやすい言葉にして掲示しているが、見ていないのか、興味がないのか？という児童もいる。

Q：情報の正確性についてどのような説明をしたのか。

A：今回は、3・4年生への実践で、「本を使って調べ学習」という方向で説明している。インターネットは便利だが、その場合の注意事項も簡単に伝えている。すべてが正しい情報ではないことと、理解できない言葉がでたら見ないという説明にとどまっている。

III 助言

まず最初の発表は、資料作成の実践に焦点をあてた取り組みをしてくれた。図書の時間の充実を図るためパネルシアターを作成したグループ、国語の授業に活かす作家紹介の資料作成グループ。この2つの目標に沿って実践が進められていったと思う。

図書の時間の充実で、もっと絵本を身近に感じてほしい、本好きな子を増やしていきたいという思いで取り組んでいたが、絵本を読むことのよさ、どうして本を読まないといけないかを子どもに問われた時、例えば1つは「心が豊かになる」、2つ目は「学校生活の役に立つ」、3つ目は「勉強の役に立つ」という柱を示すことで、子どもも本を読むことの大切さに気付いていくのではと思っている。また、本を読むことは語彙を獲得していく上でも重要で、これがないと思考力に影響が出てくる。文化的な生活をしていくためにも、子どもたちにとっては新しい力の獲得のためにも必要である。また利用者である児童生徒や教職員と学校図書館をつなぐ、この「つなぐ」ということがキーワードとして心に残っている。子どもたちに、どう図書館に来てもらうか、先生方と、どう関係を作って読書の時間を充実させていくかを考えていきたい。

パネルシアターの作成では大変な労力と時間がかかり、とても大変だったと思う。分担して作成し研修で持ち寄

って実践する。限られた時間の中で多くの学校が実践していくという発表だった。パネルシアターのよさも、子どもたちが非常に興味を持っていることも分かった。著作権についても、きちんと先にクリアしていくことが大切。教員も意識していかなければいけない。

『これはジャックのたてたいえ』『へんしんマラソン』の2冊とも声に出して読み、子どもたちとの掛け合い・子どもの顔を見ながら司書も楽しめるということ、それが子どもにも受け入れられていた。それぞれの作品のよさを効果的に実演している。そういう学校を今後も増やしてほしい。ブラックライトパネルシアターでは、新しい取り組みが斬新でよい。向いている作品をいくつか上げていてよかった。特に『さんにんサンタ』は、非常に分かりやすいストーリーでよかった。作り方から調べて、色の塗り方などパネルシアター以上に大変だったと思う。手間をかけて取り組んだ成果が子どもたちにも伝わっていくと思う。実践シートの活用はこれからもしていったらいい。

作家紹介は、小学校の文学作品が中心。教科書で変わらずに掲載されているものは文学作品が多く、着目している作者もよいと思う。今回、取り上げた作品は継続している作家が多い。4つの視点で紹介し、必ず教諭と相談し実践していた。担任との連携がよくできている。それが子どもたちにとっても効果を上げていると思う。小学校の国語の授業でしっかり紹介してもらいたい。

アーノルド・ローベルの例は興味深く聞いた。ずっと関連性で読んでいると、登場人物の理解にもつながる。本の紹介も丁寧で分かりやすく、題名だけでなく、話のことも紹介している点は有難い。クイズも用意して、子どもが関わられるような工夫も感心した。そういう紹介の後で作品を見ていくと、優しい気持ちになれ、心が落ち着く本だと思う。子どものコメントからも、作家が身近に感じられ興味が生まれている。

利用者である児童生徒・教職員と学校図書館をつなぐという意図のもとに取り組まれた資料作成と実践が、成功例として伝わったのではないかな。今後もいろいろな種類の本に取り組んでもらいたい。

今後の課題で出ていた2つのグループでの情報を共有し、学校図書館の活性化をしつつ、授業に活かせる資料作成で研修を通して、グレードを上げる取り組みをしてほしいと思う。

次の発表では、児童生徒・教職員の情報ニーズに対応

した学習センターとしての役割に着目し、問題解決学習での調べ学習に重点をあてていたのはよかった。

学習ステーションとしての有効な活用が現状ではうまくできていないということから、実態を基に各校に合わせてあり、とてもよくわかった。

A・B・C校の実践を興味深く聞いた。A校でのクラスごとの違いもよくわかった。やはり効果的に焦点化したりと、視覚化したりするのは大切だと感じた。

B校でいいなと思ったのは子どもの反応を見ながら、説明内容を簡略化して、クイズで興味を持たせながら内容を定着させていく、利用者の側に立っているのがすばらしい。行きやすい図書館として利用が増加していくのではないかと思った。

C校はパソコンを使ってのキーワード検索や日本十進分類法や図書館の地図の説明があった。先ほど質問にもあったが、分類表や本の配置図を掲示していても、見えない、聞いていない子がいる。「見て聞いて体験する」という重要なキーワードを聞いたが、それができない子もいるのでそういった子にどう関わっていくのかも大切だと思った。よくユニバーサルデザインと言われるが、指導の工夫だけではなく、個別の配慮も大切である。そういった子にどうアプローチしていくか考えてほしい。

実践を終えての感想で、「見て聞いて体験する」というのは本日の成果である。それを子どもたちに味わわせてほしい。そのためにはできるだけポイントを絞り、簡略化すること。情報が増えると聞けない子がでてくる。また、学年ごとの指導の系統性と積み重ね、どう身に着けるかにも関わってくると思うので、そのあたりを考えてほしい。

「見つからない時間も大切」との発言があったが、自分もそう思う。適度な困難も必要である。この取り組みをこれからも続けていくと、子どもたちの調べ学習もより主体的になるのではないかと思う。中学校では難しいかもしれないが、できることから取り組んでほしい。

司書教諭、校長、教頭とも意見交換しながら、よりよい学校図書館運営のため尽力してほしい。これからも司書の先生をバックアップしていきたい。

【C分科会】

発表者	中村 敦美	(倉敷市立連島南中学校司書)
	吉賀 静恵	(倉敷市立倉敷西小学校司書)
	山口 薫	(倉敷市立琴浦北小学校司書)
助言者	藤田 哲彦	(倉敷市教育委員会指導課指導主幹)
司会者	池田 順子	(倉敷市立倉敷南小学校司書)
記録者	清友 雅子	(倉敷市立玉島北中学校司書)
	木村 一女	(倉敷市立連島神亀小学校司書)
	塩田 紀子	(倉敷市立沙美小学校司書)

I 事例発表 ①

実務に即したスタッフマニュアル作成を目指して

倉敷市立連島南中学校 中村 敦美

1 はじめに

倉敷市では、小・中・特別支援学校の計90校全校に学校図書館司書が1名ずつ配置されている。しかし採用形態の変化により再受験可能な5年の有期雇用になったため、5年以上継続して勤務している司書の割合が、現在は全体の57.8%である。

この発表には2つのマニュアルが出てくる。1つは「学校図書館運営の手引き—倉敷市学校図書館スタッフマニュアル—」で、平成14年に倉敷市学校図書館協議会司書部会によって作成された。資料の選択から払出し(廃棄)までの流れが記載され、基本的な業務についての手引きとしてまとめられた資料である。もう1つは、学校図書館システム「探調TOOL DX」の操作マニュアルで、倉敷市に図書館システムが導入された平成24年から使われている。ソフトウェア会社作成の資料で、システム運用、パソコン操作、活用法について説明している。この発表では、「学校図書館運営の手引き—倉敷市学校図書館スタッフマニュアル」を「スタッフマニュアル」、「探調TOOL DX 操作マニュアル」を「システム操作マニュアル」と呼び区別する。

私たちが「実務に即したスタッフマニュアル作成をめざして」を研究テーマとした動機は、前述の図書館システム導入によって司書業務が変化したことと、新人司書の割合が多くなっているという雇用の現状に合う資料の必要性、大きくはこの2つの問題点が出てきたためである。新たなマニュアル作りに向けた研修をすすめて行く

中で意識した点、気づいた点、また他の司書から寄せられた意見がどのようなものだったかなどについて報告をする。

2 研修の経過

テーマの『実務に即した』を「学校図書館司書の日常業務において実質的な手助けとなるスタッフマニュアルである」と定義づけた。特に新人司書の割合が増えている現状を鑑み、初任者でもわかりやすいものを作成するということを目標にした。

まず始めに、既存のスタッフマニュアルに目を通し、同時にシステム操作マニュアルとの照らし合わせもして、修正や追加、更新が必要な箇所をそれぞれ洗い出した。その結果、スタッフマニュアルのほとんどになんらかの修正が必要であることがはっきりした。

次に改訂を進める上で、現在のスタッフマニュアルに対する意識とニーズを客観的に把握する必要があると考え、市内全校にアンケートを実施した。スタッフマニュアルとシステム操作マニュアルの活用状況と、既存のスタッフマニュアルを改訂するとしたら、どのようなことが必要だと思っているか、などを調査することにした。

アンケートから、スタッフマニュアルが部分的にしか活用されていない現状が把握できた。スタッフマニュアルの改訂が必要だと思う司書は、全体の97%という結果であった。重要な蔵書データである図書原簿の保管方法が統一されていないこともわかり、問題を感じた。

これらを踏まえ、改めて先に洗い出した項目について追加や修正が最も必要と思われるものを優先して、スタッフマニュアル改訂版（第1案）を作成することにした。

3 スタッフマニュアル改訂版作成上の工夫点

スタッフマニュアル改訂版（第1案）作成の手順は、現在のスタッフマニュアルを基に、班員各自が全項目について案を作成して持ち寄り、全員で検討するという形で行った。時間と手間はかかるが、いく通りものの中から文章表現の最も適切なものを選択したり、良い所を取り入れたりすることができた。また、多くの視点で見ることで見落としを防ぐこともできた。

作成上で工夫した点は、①システムの機能や運用ルールが変更することを考慮し、差し替えできるような項目ごとにページを区切ったこと ②手続きや作業を行う際、誰がいつどんな役割を担うのかが一目でわかるよう流れを図やフローチャートで表したこと ③システム操作マニュアルとの関連性がわかるように、参照するページ番号を載せたこと ④各種書類は複数の様式が可能な場合でもあえて様式例を示したことなどである。こうした工夫点により初心者でも作業全体がイメージしやすいよう配慮した。

スタッフマニュアル改訂版(第1案)は、

検収から配架まで

検収
受入れ（登録）
装備
配架

払出し（除籍）

蔵書点検

進級処理

新入生の登録

の流れで、28ページにまとめた。

何度も検討を重ね、平成28年2月にできあがった。そこで、これを司書全員に実際に使ってもらい、使い勝手等についてアンケートで意見を返してもらうことにした。

4 アンケート結果

全体平均では85%の人がわかりやすいと回答した。記述回答では、システム操作マニュアルにはない、作業前後も含めた注意点や、より詳細な処理の説明を記載する

よう求められていることがわかった。

図書原簿の管理について、データ化のメリットを生かすなら紙媒体の書類に手間をかける必要はないなどの意見も挙がったが、これには疑問を感じ、課題として改めて全体での協議と理解を進めなければならないと考えた。

スタッフマニュアルの作成の意義については、勤務年数5年以上と5年未満とで見解の差が見受けられた。5年以上の司書はおおよその流れがわかっているため、2冊のマニュアルを同時に見るよりもシステム操作マニュアルだけを行うほうが勝手が良いという意見の人がいた。一方5年未満の司書からは「参照ページを示したり、あえて重複して掲載している箇所を作ってリンクさせていることで、わかりやすくなっている」「文書の具体的な書式も示されており、初めて仕事については便利」など、わかりやすいという内容の意見が多く出ていた。これについては、目標としている「初任者にもわかりやすいものを作る」という点が評価され、良かったのではないかと。

アンケート全体からは、研究テーマである『実務に即したスタッフマニュアル作成』に向け大きな手ごたえを感じることができた。

5 まとめと今後の課題

改訂版作成のベースとなった既存のスタッフマニュアルは、倉敷市として最低限の事務処理の統一化を図ったものである。そのため、これまでは各校の事情や司書の知識や経験により、独自の処理を行っていた部分も多くあった。しかし現在では、システム化により自然に業務が広い範囲で統一化され、共通理解の必要性が大幅に増えているということが再確認された。ただし、アンケートで寄せられた意見等を反映させるには、スタッフマニュアルとして記載すべき範囲がどこまでなのかを定めるという問題がある。共通ガイドラインをどのあたりに設定していくのかも今後の課題となってくる。

アンケートにより、認識に異なる部分があることもわかり、倉敷市の学校図書館司書全体での検討が必要と思われる課題も見えてきた。今後は、アンケートで寄せられた意見を分析してさらに改良を重ね、全体への問題の提示もしながら、実務に即した新しいスタッフマニュアルの実用化に向け、より使いやすい改訂版の提案ができるよう引き続き研修に取り組んでいきたい。

I 事例発表 ②

みんなでとりくもう！学校図書館自己評価

～魅力的な学校図書館にするために～

倉敷市立倉敷西小学校 吉賀 静恵

1 はじめに

平成22年度から、学校図書館司書と教職員で行う学校図書館自己評価の作成に取り組んでいる。作成の目的は、○学校図書館司書の基本的な業務を統一化・標準化し、どの学校図書館でも利用者に対して同じサービスが提供できるようにする ○自校図書館の現状を把握し、良い所や改善すべき点を学校全体で検討することで、学校図書館の機能が発揮され、子どもたちの豊かな学びを支えられるようにする ○倉敷市内全小・中・特別支援学校で自己評価を実施し、全体の学校図書館のレベルアップをはかる である。

この自己評価を作成するもとにしたのは、倉敷市教育委員会・教育企画総務課から出されている「学校図書館司書の職務内容」で、それには仕事について項目のみが挙げられている。

2 「学校図書館自己評価 改訂版」作成に向けて

平成23年度に全校実施した自己評価に対するアンケートの分析結果と、24年度倉敷大会発表での意見から2点の改善点が明らかになった。(1)自己評価への理解を促す手立て (2)評価項目の改訂 である。

(1) 学校図書館司書や教職員に対して自己評価の理解を促す手立ての検討

倉敷市全体で自己評価を実施するには、学校図書館司書や教職員にその利点を理解してもらう必要があると考えた。そこで、取扱い文書「学校全体で『学校図書館自己評価』を活用するにあたって」を作成した。

作成にあたり、前回の倉敷大会で出た意見の中から「自己評価を行う目的、活用・分析方法、役立て方などを明記する」「多くの教職員が参加することで、評価の達成度や反省も共有できることを知らせる」の2点を参考にした。

その内容は、「私たちが考える学校図書館自己評価とは」「学校図書館自己評価の目的」「学校図書館自己評価の内容」「学校図書館自己評価の利用の仕方」「学校図書館自己評価をいかした学校図書館運営」とした。

(2) 評価項目の改訂

評価項目の改訂については、①シートに検討したことを記入できるようにする ②「探調 TOOL DX」を利用することができることの提案につながる内容にする ③基本的業務の統一につながる内容にする ④学校全体で取り組める内容にする の4点に重点を置いて見直すべきだと考えた。

①については、シートの変更を行った。結果を示す円グラフのシートに、自己評価実施後、検討したことを残せるように「見えてきた課題」「自校図書館の良い点」「今後も伸ばしていきたい点」を記入する欄を追加した。

②については、「探調 TOOL DX」の導入で各種統計の抽出が簡単にできるようになった。その中の「利用統計」と「受払統計」の2つの統計の項目を見直した。「利用統計」からは、各学年の分類別貸し出し冊数、予約件数、時間別利用人数が分かる。「受払統計」は、正確な数での蔵書管理ができる。この2つの統計をもとに、活動報告を年度末に作成すれば、教職員に図書館の現状を伝えることができるからである。

③については、実態調査を行った。自己評価の項目のもとにした「学校図書館司書の職務内容」には、仕事についての項目のみが挙げられている。そのため、各項目の具体的内容については、学校や学校図書館司書によって受け取り方がまちまちである。自己評価の項目に挙げたものを、どのくらいの学校図書館司書が「司書の職務」として捉えているかを把握したいと考えたからである。調査は27年2月に全校対象で行った。

調査内容は、「学校図書館司書の職務内容」について学校図書館司書が行っているかどうかを○×方式で回答

する実態調査①、業務について詳細な内容を選択回答する実態調査②の2種類である。

実態調査①では、業務と認識しているものに差があることが分かった。私たちは、回答率が100%の項目は、業務として認識されているもの、それ以外の項目は、必ずしも業務として捉えられていないものとした。そして、その項目が100%になるためにはどのようなものが必要かを検討した。

回答の割合が低かった項目は、A. 図書館活動のまともに関わるもの B. 図書の蔵書構成に関わるもの C. 市の規定に関わるもの に分け、それぞれ参考資料などを明記することにした。

実態調査②の結果については、検討中である。その中から図書館からの配布物についてどのように検討したかについて述べる。

図書館からの配布物に「図書館だより」と「新着図書案内」がある。私たちはどちらも学校図書館司書が作成するという前提で、1年間の発行回数のみを自己評価の項目にしていた。しかし、調査結果を見ると、「図書館だより」の作成者は100%学校図書館司書が作成していたが、「新着図書案内」については、「司書以外が作成している」「作成していない」との回答があった。

自己評価シートは、学校図書館司書にとって仕事の指針となるもので、実態調査結果に評価を合わせる必要はないと考えている。しかし、図書館運営をしていく上で、図書館からの配布物を「誰が」「1年間にどのくらい」作成し発行すべきなのかについても検討し、項目に反映していく必要性も感じている。

これまで検討してきたことや実態調査などから見えてきたのは、業務の取り組み方へのばらつきがあるということである。その要因は、学校図書館司書と学校側両方にある。学校図書館司書側については、業務内容の共通認識ができていないということ。学校側については、各校の取り組みに違いがあるということ。これについては、4年前の倉敷大会でも倉敷の現状として発表している。そして昨年行った中間発表で今回の実態調査の結果を伝えたが、それを受けての意見や感想にも、同様のことが書かれていた。「一人職なので、毎年今のままで合っているのかと思う部分がある」「本校と他校の実態の違いが分かって参考になった」「項目、回答者によって判断が変わってしまうものがあると思う」「学校の実情によっては100%にならない項目がある」「学校全体で取り組

む内容については簡単に変えることはできない」などだ。

学校図書館司書が業務内容についてよく理解したうえで改善していけること、学校全体で検討し取り組むべきこと。学校図書館について学校図書館司書と教職員がともに考えるきっかけとなる「学校図書館自己評価」の必要性を改めて考えさせられた。

3 今後の課題

「学校図書館自己評価 改訂版」の完成に向けて検討を進めていきたい。学校図書館の積極的、計画的な運営のために学校図書館司書と教職員が取り組むことは何かを検討する。その資料として「新学習指導要領」、「第3次倉敷市子ども読書推進計画」を使う。また平成27年に学校図書館法が改正され「専ら学校図書館の職務に従事する職員」として「学校司書」が法で明記された。また文部科学省のリーフレット「みんなで使おう！学校図書館」では、学校図書館の役割、司書教諭と学校司書の協働、学校司書の資質能力について言及している。これらの資料から、今の教育で求められる学校図書館、学校司書の役割について検討していきたい。

そして自分たちの班が考える「学校図書館自己評価」とはどのようなものかを改めて共通認識した上で、項目を見直し、改訂版を完成させ、全校実施できる内容にしていきたい。

I 事例発表 ③

選書を考える・・・5つのブックリスト作成

倉敷市立琴浦北小学校 山口 薫

1 はじめに

多くの児童・生徒が図書館を訪れ本に興味を示すようにするためにはどうしたらよいか、司書は常に念頭において日々様々な工夫をしている。図書館に行ってみようと思わせるには、図書館に利用してみたい本があること、訪れた時にその期待に応えられていることが重要である。そこで、選書班では調べ学習などで利用する可能性が高いテーマを決め、そのテーマごとに選書しブックリストを作成することに決定した。司書同士の意見交換で、選書の幅も広がり、選書の偏りも修正できるのではと考えた。また、研修を進めるにあたり児童・生徒の「読みたい・調べたい」という要望にしっかりと対応するのはもちろんのこと、教師の要望にも応えて調べ学習や学校行事に対応できる選書を目指した。前回の平成26年度までの研修の反省もふまえながら内容を検討し、どの学校からも調べ学習で希望が多かった「人権」「修学旅行」「戦争」「ネットマナー」「環境」の5つのテーマに絞って選書をし、ブックリストを作成することになった。

2 これまでの研修内容

作成するブックリストのテーマを「人権」「修学旅行」「戦争」「ネットマナー」「環境」の5つに決定。まずブックリストの形式を考案した。各回ごとに1つのテーマの本を持ち寄り紹介し合い、意見交換を行った。「人権」ではともだち、いじめ、法律、国際関係などの本が集まった。「修学旅行」では重複する本もあったが、小・中学校で利用できる本が集まった。「戦争」ではヒロシマ、ナガサキ、沖縄、戦争の歴史の本が集まった。「ネットマナー」ではSNSトラブル、ネットいじめ、依存症などの本が集まった。「環境」では資源、動植物、エネルギー、ゴミ問題などの本が集まった。これらの本を検討してブックリストを作成した。

3 選書の方法

なるべく出版年の新しいもの、もしくは出版年が古いものでも購入可能ならば選んでいる。持ち寄った本については、その本を選ぶ際に内容はもちろんのこと、注目した点や児童・生徒などの反応も選書の参考になるように紹介した。

4 ブックリストについて

ブックリストの形式は、NDCは3桁で表示、書名はNDC順に並べ、本体価格を表示している。

(1) 人権に関する本

「人権」はどこの学校でも毎年挙げられるテーマなので、各校とも人権に関する本は多くあった。読み聞かせに適している絵本、児童・生徒の反応が良かった本、内容が分かりやすい本などが紹介された。

(2) 修学旅行に関する本

「修学旅行」は小・中学校で使えるものがそれぞれあったが、狭い分野のため重複する本もかなりあった。また行き先によって、各校揃えている本が違う。調べ学習での利用が多かった本を紹介し合い、また実際に調べ学習に使った感想なども報告した。さらに、調べる資料だけでなく読み物として楽しめる本などもあった。

(3) 戦争に関する本

「戦争」は毎年夏ごろに各学校で関心が高くなるテーマである。戦争といっても範囲が広いので選ぶのが難しかった。そのため、司書が本を持ち寄ることで、幅広い内容の本を集めることができた。資料の形式を問わず戦争の悲惨さを訴える内容の本が多く集まった。それ以外では、最近のイラク戦争関連や戦争と平和を問う社会科学の本、戦争の影に隠れた弱者に注目したものなど、違う視点から戦争を伝えている本も多く紹介された。

(4) ネットマナーに関する本

小学校ではパソコンの使い方を学び始め、中学校は個人で携帯電話を持ち始める時期である。また、大人でもトラブルに巻き込まれるおそれがあるのがネット世界で

ある。そこで、早いうちからネットに関する正しい知識と認識をもつことで、少しでもトラブルに遭うリスクを減らそうと選んだテーマである。社会科学の分野での本が多く集まった。携帯電話、パソコンの正しい使い方、著作権問題、ネットいじめ、裏サイト、情報モラルや情報流出問題など、ネット社会への関心の高さから小・中学校問わずいろいろな観点からの本が紹介された。

(5) 環境に関する本

小学校では4年生の社会科でゴミについて学習することもあり、多くの本が紹介された。ゴミ問題からリサイクル、自然破壊や生態系の破壊、新エネルギー、エコ活動など多岐にわたる本が集まった。ただ、目まぐるしく変化していく分野なので、資料が古くなってしまうことが多く、最新の情報が載っている資料を収集することが課題となる。

5 反省

ブックリストに研修時のコメントを載せることができた本の内容をより詳しく伝えることにつながったのではないと思われる。実際には時間的に数人のコメント発表で終わり、コメントの内容まで検討することができなかった。

毎日たくさんの新刊がでていますが、それらをすべてブックリストに加えることは難しく、またブックリストが古くなっていくことに対応する方法を考えたい。

6 まとめ

今回の選書班では、児童・生徒の「読みたい・知りたい」にしっかりと対応し、教師の要望にも応え、調べ学習や学校行事にも対応できる選書を目指した。そして選書の幅が広がる研修ができるように、テーマを絞って本を持ち寄り、ブックリストを作成した。研修時、購入して評判の良かった本は実物を紹介し合ったので、各校の司書が手に取って確認でき、自校で購入する時の参考とすることができた。自分一人の視点よりも複数の司書の視点からみた幅広い選書ができたと思われる。

選書は本が出版され続ける限り、完成されることはない。現実問題として予算などの関係で資料不足になることもあるが、そこで諦めたり「ここまででいい」と妥協したりしてしまうと、図書館は倉庫と成り果ててしまう。予算の面で、たとえ小規模校であろうとも、利用者が必要とする資料を提供するための努力を続けていってこ

そ、図書館の役割を果たしているといえるのではないだろうか。また、各学校の教師の求めている点も各々違うので同じテーマでも幅広い選書が必要である。小学校と中学校でも利用できる本が違うので、転勤時のことを考えると校種の違いを感じることもできたのも大きな収穫であった。これからも、基本を押さえながら新しい情報に対応して様々な方向から選書について考えていきたいと思う。

II 質疑応答

Q : スタッフマニュアルについて

岡山市も3回スタッフマニュアルを作成している。今回、実務に則したスタッフマニュアルの作成を目指しているとのことだが、丁寧に改訂を進めていると思う。倉敷市は司書が全校配置されているので、実務だけでなく倉敷市の学校図書館が果たすべき機能も記載し、そこを全員で共通理解をし、もう少し踏み込んだスタッフマニュアルが望ましいのではないかと。

A : 今後、改訂を加えていき、新しいものを作っていく土台を作成する時に、今のご意見を参考にさせていただきたいと思う。

Q : 学校図書館自己評価について

市教委の職務内容に基づいて項目を考えたとのことだが、岡山市の学校図書館自己評価は、はたすべき活動がすべて網羅されているものとなっている。学校図書館は教師と一緒に作りあげていくものなので図書館の活動がすべてわかる、教師が評価しやすい項目がよいのではないかと。そうすれば、学校全体で項目を検討でき、図書館の改善策がでてくるのではないかと。

そして自己評価が、その学校でどう変わっていったかを経年経過で見っていくのもいいと思う。

参考資料の件だが、『ユネスコ学校図書館宣言』や塩見昇先生の『教育を変える学校図書館』、2014年3月31日に文部科学省が出した『これからの学校図書館担当職員に求められる役割・職務およびその資質能力の向上方策等について(報告)』はどうだろうか。他にも参考になる資料を会場から教えてもらって、全県下の学校司書の専門性を高めていけたらと

思う。

Q : 自己評価班に所属しているが、助けてもらいたいことがあるので発言する。岡山市の自己評価シートは教諭・教務・校長・市教委も一緒に作っていったと聞いている。倉敷市は学校司書だけで考えている。

今後どのようにしていったらよいか、意見を聞かせて欲しい。

A : さまざまな資料の紹介や、倉敷市の学校図書館の足りない部分を教えてもらった。司書だけでなく教師と共に評価していく、作っていく学校図書館について考えていきたい。

Q : 選書について

学校図書館の役割として、ユネスコ学校図書館宣言をふまえると、もっと豊かなねらいができるのではないかと。選書の「ネットマナー」を考えるうえで情報リテラシーをしっかりとつかまえることで「ネットマナー」のとらえ方もより深まるのではないかと。思うので、そのような視点も入れたらどうか。「戦争」の本も、伝える時に「平和」の本も一緒に紹介したらどうだろうか。

A : ユネスコ学校図書館宣言や「ネットマナー」と「戦争」の選書についてのご意見は これからの参考にしていきたい。

Q : 倉敷市推薦図書で、読書貯金通帳に記入させる、賞状を出す活動を紹介していた。岡山市では、賞状は出さないことにしている。そして本来児童・生徒が自由に選択して読むべき本を市が推薦図書という名で、固定してしまうのは、個人的には疑問である。

A : 応答は助言のところに記載。

III 助 言

3本とも大切な発表をしてもらった。口頭だけではなく、パワーポイントのスライドを振り返りながら、良かった点・改善すべき点などを話したいと思う。

最初のマニュアル班の発表で、現在使っている学校図書館運用の手引の『スタッフマニュアル』と『学校図書館システム操作マニュアル』を紹介していた。今の『スタッフマニュアル』は、司書業務の変化によって限界がきている、そこを何とかしたいという自分たちの身近な疑問点、関心から研修が始まったことと、初任者でも分

かりやすいものを作成するという点が評価できる。

そしてマニュアル活用の実態アンケートの結果から、2つのマニュアルを学校司書が使い分けている事、現状に合わなくなっていることを大勢が感じている事が浮き彫りになっている。

マニュアル改訂版作成上の工夫に、初心者にも分かりやすくするため、フローチャートを取り入れた点も良かった。改訂版第1案作成後、使ってみてのアンケート調査を効果的な時期に行っている。アンケート結果で出た分かりにくい点や要望をどのように反映していくか、共通のガイドラインをどのあたりに設定するか、スタッフマニュアルとシステムマニュアルをどのくらいのバランスで取り込んでいくかが今後の課題だ。倉敷市の学校司書の思いを受けて、現状から作っていったことは大きな成果だと思う。

次に学校図書館自己評価班の発表では、学校図書館自己評価作成の目的をきちんと示している。倉敷市として一つの基準を作って、小・中・特別支援学校全ての学校で実施し、そのことによって倉敷市全体のレベルアップを図るという提案が評価できる。

自己評価の目的、利点を知らせる文書「学校全体で『学校図書館自己評価』を活用するにあたって」を作成し、自分たちが考える学校図書館自己評価を分かりやすく説明している。評価項目の改訂では、自己評価シートに枠を追加検討したことを記入できるようにしているが、その3つの枠の中の「見えてきた課題」の部分が大切だと思う。データを取っただけでは不十分で、そこからどのような課題を自分たちで考えていくか、今後どのように伸ばしていくか、課題をどのように克服していくかを各学校で考えていくことが非常に大事なことだ。現在、岡山県および全国学力・学習テストのまとめをしており、各学校に学力に対する改善計画を出してもらっている。学力・学習テストの点数に一喜一憂するのではなく、データに基づいて見えてきた課題を活かし、自分たちで分析して、そこに手立てを加えていくことが大切になってくる。データから分析して手立てを行うということは、今回の発表でも同じことが言えるのではないだろうか。

業務の実態調査では、○の回答の割合が低かった項目を、内容によって3種に分けて具体的な提案をしているところが分かりやすかった。実態調査の結果を、どのように活かしていくかがこれからの課題だ。もちろん評価のための評価になってはいけない。評価した上でどのよ

うに子どもたちの読書生活に活かしていくかが一番大切だ。経験も大切だが、データに基づいて手を加えていくといういい提案をしてもらった。

選書班の発表について、「調べ学習などで利用する可能性の高いテーマでブックリストを作る」とあるが、このようなブックリストがあると現場の先生方は助かると思う。市内共通で、どの学校にもブックリストがあることが強みとなる。先生方にも周知されていると授業の見通しがたつ。

選書方法で、なるべく出版年の新しい入手可能な本とか、出版年は古いが、現在も入手可能な本というのは実際作るにあたって大切なところだ。本を選んだポイントをそれぞれ挙げているが、視点が明確に書いてあることは重要な点だ。子どもの本に関して非常に知識があり、普段の子どもの様子を把握している学校司書が選ぶ本だから説得力があると思う。

反省・まとめに、ブックリストに研修時のコメントを載せれば良かったとあったが、加えて子どもからどんな声があったかを拾い上げていくと、さらに良いものになっていくと思う。なかには、良いと思って選んでいても子どもからしたらそうでもない、実はこっちの方が良かったということもあるかもしれない。是非そのあたりの子どもの生の声を取り入れて、より良いものを作って欲しい。

最後に倉敷市推薦図書について補足したい。質疑での推薦図書についての発言は率直な意見だと思う。2年前に市教委の主導で、現場の学校司書も参加して作った。これを作った経緯は、まず少しでも子どもたちに本を好きになって欲しい、なかなか読まない子に少しでも成功体験をさせてあげたいという思いからだ。だから、推薦図書とか、これくらい読んで欲しいという読書目標を作っていた。私どもとしても、ある意味で目標ではあるが、最終的な目的だとは考えていない。1つの考え方だと思って欲しい。市が本を選んで薦めるのはどうかという意見は分からないではないが、あくまでもこれは子どもたちのために何とかしてやりたいという気持ちで選んでいる。いろいろな意見はあると思うがその点のご理解をお願いしたい。

第62回読書感想文岡山県コンクール

I 日程

- 6月23日(木) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議席上
- 9月29日(木) 応募締め切り(必着)
応募先・事務局
*小・中・・・岡山市立上南中学校
永守 志帆
*高校・・・岡山県立総社高等学校
柳井 典子
- 10月6日(木) 第1回合同審査会
《審査期間》
- 10月25日(火) 第2回合同審査会(最終審査)
- 12月15日(木) 表彰式

- 審査委員 小林 咲紀 (倉敷市立菌小学校)
" 山本 蓉子 (浅口市立金光小学校)
" 川上 和子 (笠岡市立陶山小学校)
" 山下 朋子 (高梁市立高梁小学校)
" 濱ノ園 志保 (新見市立高尾小学校)
" 須田 めぐみ (津山市立一宮小学校)
" 浅野 みのり (鏡野町立南小学校)
" 片岡 朋香 (鏡野町立南小学校)
" 長尾 早苗 (真庭市立美川小学校)
" 須江 美智代 (真庭市立米来小学校)
" 近藤 加菜 (岡山市立旭東中学校)
" 奥田 雅代 (岡立瀬戸中学校)
" 瓜生 紗知子 (玉野市立玉中学校)
" 藤本 久美 (倉敷市立東中学校)
" 三上 元子 (新見市立新見第一中学校)
" 井上 直美 (赤磐市立桜が丘中学校)
" 榎原 淳幹 (津山市立中道中学校)
" 永守 志保 (岡山市立上南中学校)
" 金田 益美 (岡山市立山南中学校)
" 若狭 真司 (倉敷市立倉敷翔南高等学校)
" 神崎 良造 (県立玉野光南高等学校)
" 堀田 昌一 (岡山学芸館高等学校)
" 平松 綾子 (朝日塾中等教育学校)
" 鷹取 智子 (県立邑久高等学校)
" 妹尾 樹代子 (倉敷高等学校)
" 横山 倫子 (県立鴨方高等学校)
" 天野 浩美 (金光学園高等学校)
" 安部 沙織 (県立笠岡高等学校)
" 布田 美笛 (おかやま山陽高等学校)

II 県審査委員

- 県SLA会長 福田 邦男 (岡山県立倉敷古城池高等学校校長)
- 副会長 高田 恵子 (岡山市立馬屋下小学校校長)
" 門田 正充 (岡山市立岡輝中学校校長)
前田 幹夫 (毎日新聞社岡山支局長)
- 審査委員 勝浦 由子 (岡山市立加茂小学校)
" 岡村 美雪 (岡山市立伊島小学校)
" 河原井 裕美 (岡山市立操南小学校)
" 西尾 ルミ子 (岡山市立西大寺小学校)
" 中村 さつき (岡山市立甲浦小学校)
" 小川 薫 (岡山市立芳田小学校)
" 竹内 満里奈 (赤磐市立豊田小学校)
" 池畑 誠一 (備前市立日生西小学校)
" 吉野 英樹 (備前市立日生東小学校)
" 村木 高子 (玉野市立山田小学校)
" 河本 政道 (玉野市立第二日比小学校)
" 古谷 恵津子 (倉敷市立倉敷西小学校)
" 妹尾 清 (倉敷市立中州小学校)
" 三宅 瞳 (倉敷市立第一福田小学校)
" 広畑 ひとみ (倉敷市立赤崎小学校)
" 三宅 千尋 (倉敷市立南浦小学校)

Ⅲ 岡山県指定図書

	書名 (シリーズ) 著者名	発行所
小 (低)	『ぼくは、チューズデー』 ルイス・カルロス・モンタルパン	ほるぶ 出版
	『あっ!みーつけたっ!!』 くすのき しげのり	光村教育 図書
	『にゃんともクラブ』 竹下 文子	小峰書店
小 (中)	『なかよしヤギー家のECOプロジェクト』 深山 さくら	佼成出版社
	『おばけ道、ただいま工事中!?!』 草野 あきこ	岩崎書店
	『あたし、アンバーブラウン!』 ポーラ・ダンジガー	文研出版
小 (高)	『幸せとまずしさの教室』 石井 光太	少年写真 新聞社
	『ニレの木広場のモモモ館』 高楼 方子	ポプラ社
	『ひみつの校庭』 吉野 万理子	学研プラス
中 学 校	『渋谷ギャル店員ひとりではじめた アフリカボランティア』 栗山 さやか	金の星社
	『白をつなぐ』 まはら 三桃	小学館
	『ウソつきとスパイ』 レベッカ・ステッド	小峰書店

2) 特別賞受賞者 (最優秀賞受賞者)

岡山県知事賞

岡山県立倉敷青陵高等学校 2年 井上 愛梨

岡山県議会議長賞

笠岡市立吉田小学校 2年 洲本 朝陽

岡山県教育委員会教育長賞

倉敷市立天城小学校 4年 田中こころ

岡山商工会議所会頭賞

赤磐市立山陽北小学校 6年 福本 瑞季

岡山市長賞

就実中学校 3年 武島 萌乃

岡山県読書推進運動協議会会長賞

総社市立総社小学校 1年 河野こころ

備前市立吉永小学校 2年 竹田慎之介

岡山県立倉敷天城高等学校 2年 吉田 悠花

毎日新聞社岡山支局長賞

赤磐市立山陽東小学校 3年 伊永 百花

岡山市立宇野小学校 3年 寺澤ひな乃

就実中学校 2年 森 円香

岡山県学校図書館協議会会長賞

岡山市立御南小学校 5年 藤田 宣哉

倉敷市立連島神亀小学校 5年 金田 羽功

岡山市立芳田中学校 2年 泉村 紗英

Ⅳ 結果

1) 応募作品数・応募校数

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
小学校低学年	6,370編	6,362編	6,678編
小学校中学年	10,457編	10,313編	10,675編
小学校高学年	11,716編	11,653編	11,518編
中学校	28,339編	28,734編	27,233編
高等学校	15,229編	15,800編	16,024編
計	72,111編	72,862編	72,128編
応募校数	632校	598校	605校

第62回青少年読書感想文コンクール入賞者

サントリー奨励賞

就実中学校 3年 武島 萌乃

岡山県立倉敷青陵高等学校 2年 井上 愛梨

審査概評

小学校低学年の部

●自由読書

今年度の県審査対象作品は、1年生が31編、2年生が46編、計77編であった。

感想文に取り上げられた内容は、家族や友達、命、食や健康、動物や生き物、乗り物に関するものなどと多岐に渡っていた。物語が大半を占めているものの、説明的文章やノンフィクション、伝記を読んだ作品もあり、低学年から読書の幅が広がっていることを感じ、嬉しく思った。

中でも、家族や友達に関する内容は、低学年の児童にとって最も共感できる身近な世界である。自分のこれまでの経験や気持ちと、本の中の出来事や主人公の気持ちとを比べながら読み進めていた。そして、改めて家族や友達の大切さに気付いたり感謝の念を抱いたりしたことを、素直な言葉で表現できていた。さらに、相手に対して自分がどうしていくかという、今後の自分の役割についても述べられている作品が多く、低学年ながら、考えの深まりに感心した。

また、長年に渡ってずっと人気のある絵本を取り上げて書かれた作品もあった。大好きな登場人物と自分を重ね合わせながら、物語の世界に浸り、心地よく読み進めていることが伝わってきた。児童にとって、大好きな本の好きな場面には、文章や言葉、挿絵、さらにそれらが合わさって生み出す香りや空気があるのだろう。低学年の児童の豊かな感性で、それらをしっかりと受け止めることができている作品もあった。新しい図書が日々出版され、今の時代を捉えた内容の本も多く目にする。しかし、再版を重ね長年多くの読者に親しまれてきた本には、時代は移り変わっても色あせることのない味わいや魅力がある。読書の奥深さを、児童の作品から改めて感じさせてもらった。

文章構成については、本との出会いや読むきっかけから書き始め、あらすじを交えながら感想を書き進め、自分の生活と結び付けてまとめる基本的なものが多かった。低学年において、このような構成でまとまった文章を書くことができている点については、大変好感をもった。しかし、自分の生活と結び付けて感想を書くということを意識し過ぎたせいか、本の内容についての取り上げ方が浅く、自分の経験や思いの方が前面に出過ぎてしまっている作品もあり残念に思った。あくまで、一冊の本に出会った喜びや感動を伝える感想文であってほしいと思う。

文章表現においては、登場人物に話しかける文体を取り入れた作品が多かった。登場人物の気持ちに寄り添った低学年らしい素直な書きぶりである。一方、説明的文章を取り上げた作品には、切れ味のよい常体で書き進めているものもいくつかあり、児童の思いが実にすっきりと読み手に伝わってきた。低学年でありながら、このような表現ができることに驚かされた。

今回の審査にあたり、一つ一つの作品に目を通すごとに、児童の読書に対する誠実な姿勢を感じることができた。また、低学年児童の感性の豊かさや表現力のみずみずしさに感心させられた。低学年の時期に、大好きな本に出会った児童は、その後もきっと読書に親しんでいくであろう。そして、成長していく中で悩んだり疑問にぶつかったりしたとき、本の世界にも解決の道を見付けていくことができるのではないだろうか。児童が多くのおい本と出会い、その感想を回りの人と交流しながら、さらに心豊かに成長していつてくれることを願っている。

●課題読書

今年度の県審査対象作品は、1年生22編、2年生24編、合計46編であった。図書別に見ると、次のようになっている。

『ひみつのきもちぎんこう』	29編
『アリとくらすむし』	9編
『ボタンちゃん』	6編
『みずたまのたび』	2編

審査対象作品の半数以上が『ひみつのきもちぎんこう』を読んで書かれたものであった。

それぞれの課題図書について、感想の傾向をまとめてみると、次のようになる。

『ひみつのきもちぎんこう』

主人公ゆうたのもとに届いた手紙に書かれていた「ひみつぎんこう」。それって何だろうという気持ちで読み始め、心の中が「黒コイン」でいっぱいになったゆうたのことを心配したり応援したりしながら読み進めていく様子が素直な言葉で表現されていた。さらに、もし自分にも気持ちの通帳があったら、中はどうなっているだろうと想像したり、自分の行動を振り返って反省したりすることを通して、今後の自分の目標を決め、宣言してしめくくるという構成の作品が多かった。

この本との出会いを通して、子どもたちの心の中に、「チャリーン」という「ぎんコイン」の澄んだ音が響くことを期待している。

『アリとくらすむし』

小さなアリといっしょにくらす虫たちをアップで大きく写した数々の写真に目を引かれて、虫好きの子どもたちがわくわくしながら読み進めていった様子が伝わってきた。内容としては、この本を読んで初めて知った自然界の不思議に驚いたことが、低学年らしい言葉で表現されているものが多かった。また、アリと共存する虫たちの関係を、自分と家族や友だちとの関係と結びつけて考え、周りの人たちと助け合ってくらしていきたいというまともをしている作品も見られた。

小さなアリのくらしを知ることで、子どもたちの世界が大きく広がったことが、とてもおもしろく感じられた。

『ボタンちゃん』

アンナちゃんの服からはずれてしまったボタンちゃんが、転がった先で出会う思い出の品たちとの会話。その会話を読みながら、自分の思い出の品や大切にしているものを思い浮かべ、それらに対する思いを表現した作品が多かった。この本を読んだことをきっかけにして、家族から自分が小さかった頃の話の聞き、家族の愛情を感じたりものを大切にしようと考えたりしたことを書いている作品も見られた。大切なことに気づかせてくれたボタンちゃんに感謝の気持ちを表して結んでいる作品もあった。

作品を読むこちらの心も、ほのぼのとあたたかい気持ちにさせられる作品が多かった。

『みずたまのたび』

雲、雪、しずく、といろいろな形に姿を変えながら地球を巡るみずたま。その旅を追いながら想像をふくらませ、自分もいっしょに旅をしているような気持ちになったことが表現されていた。小さなみずたまが、広い世界を巡ることに驚きながら読み進めていった様子も伝わってきた。

全体としては、本を読んで思ったことや、本の内容と自分の生活や体験を結びつけて考えたことなどが、低学年らしい素直な言葉で表現されている作品が多かった。また、家族といっしょに本を読み、対話をしながら感想を深めていった様子が伝わってくる作品も多く見られた。

これからも、子どもたちには、いろいろな本との出会いを大切に、心豊かに成長していつてもらいたいと願っている。

●指定読書

今年度の県審査対象作品は、1年生11編、2年生24編、合計35編であった。

これを指定図書別に見ると、次の通りである。

『ぼくは、チューズデー』

17編

『にゃんともクラブ』

10編

『あっ！みーつけたっ!!』

8編

どの本も写真や挿絵が親しみやすく、題名に興味をもって手にとった児童も多かったようである。犬と人間とのふれ合い、ねこと人間とのおつき合い、家族への思いやりといった内容は、児童の生活や体験と重ねやすく、作品の世界に入り込み、登場人物の気持ちや行動に共感しながら読み進めることができたのではないかと思われる。

それぞれの指定図書について、感想の傾向をまとめてみると、次のようになる。

『ぼくは、チューズデー』

特別な訓練を受けた介助犬チューズデーは、戦争で大きなけがをしたルイスといっしょにくらしている。チューズデーは、ルイスがこわくないようにアパートの入り口の階段にいっしょに腰掛けたり、町の中を歩いて出かけたり、地下鉄に乗ったりしている。そんな介助犬のすばらしさや優しさに感動し、ルイスがチューズデーを公園で遊ばせたりブラシをかけたたりして、家族のように大切に、愛情を注いでいることに共感した感想が多かった。また、互いに気持ちの分かり合えるパートナーとしての関係に気づき、感じ取った安心感や幸福感についての感想も多く見られた。さらに、介助犬の訓練や介助犬を必要とする人がたくさんいること、介助犬を連れた人への関わり方などにも視野を広げた児童もいた。

『にゃんともクラブ』

「ぼく」は、公園で一びきのねこと出会い、「にゃんともクラブ」に入る。「にゃんともクラブ」には、にゃんともが昼寝中や食事中にじゃまをしないこと、しっぽは触ってはいけないことなどさまざまな規則がある。こんなお話の展開から、児童は、ねこの習性やその愛らしさに引き込まれながら読み進めたと思われる。「ぼく」とねことの間を自分と友達との関係に置きかえたり、友達になったねこを大切に思い、やさしく接する「ぼく」の行動に共感したりした感想が多く見られた。身近な生き物に親しみを感じて大切にするとともに、言葉や気持ちを通わせて仲良くしたいという児童の素直な思いを表現した作品が目についた。

『あっ！みーつけたっ!!』

「あっ！みーつけたっ!!」学校からの帰り道、ぼくは、見つけた石を家に持ち帰って色をぬり、強そうなライオンに変身させる。毎日毎日、見つけた石をポケットに入れて持

ち帰り、カバやキリン、ペンギンなどを作り、入院している妹のために動物園を完成させるという話である。妹のために何か喜ぶことをしたいという気持ちは、低学年の児童が日頃感じる思いであり、非常に共感しやすかったと思われる。話の中の登場人物に自分自身や家族を重ね合わせながら読み、家族への思いやりや優しさ、愛情についての感想を書いた作品が多かった。また、妹へのプレゼントが両親に元気を与えたことに着目して感想を書いている作品もあった。

全体として、本の内容と自分の生活や体験とを重ね合わせながら読み深め、自分の思いを素直に表現した作品が多く見られた。一冊の本との出会いから、自分のことや家族、友だち、生き物とのかかわりなどを見直したり、よりよい自分になりたいと願ったりすることは、自分を成長させることにもつながる。

これからも、さまざまな本に出会い、心豊かな人に成長して行ってほしいと願っている。

自由読書の審査概評

村木 高子

課題読書の審査概評

川上 和子

指定読書の審査概評

池畑 誠一

小学校中学年の部

●自由読書

今年度の県審査対象作品は、3年生28編、4年生55編、計83編であった。

感想文に取り上げられた本の内容については、家族、友情、夢や目標、人物記、動物や自然の命など幅広く、読書に対する興味や関心の広がりを感じられた。本との出会いについては、家族の薦め、本の題名や表紙・写真に心をひかれて、物語の主人公が自分と似ている、自分の夢や興味から、小さい頃に読んだ本をもう一度読んでみたなどが多かった。

内容としては、全体的にノンフィクション類を扱った作品が多く見られた。動物の命を取り上げたものでは、人間の身勝手な行動で命を奪われている動物がいることや、命をかけて人間のために働いている動物がいることについて命の大切さを中学年なりに表現している作品が多く見られた。人間だけでなく、動物も安心して暮らせる未来をつくりたい、人間の命も動物の命もどちらも同じ命であることなどを感じる中で、命の尊さや世界中の平和を願うことについて深く考えることができていた。素直に自分の気持ちを表現した作品が多く、読む者の心をひき付けた。今年は

オリンピック・パラリンピックが開催された年であり、活躍する選手の姿に感銘を受け、アスリートや障害のある人の体験記の感想文も多かった。主人公と自分の「生き方」「考え方」を比べながら読むことで、絶対に夢を叶えたいという信念をもつことや自分を支えてくれている人への感謝について考えることができていた。読書を通してこれまでの自分をふり返り、成長につなげようと考えたことがよく表現されていた。ノンフィクション類以外では、疑問に感じたことを表現している作品や、これまでの自分の生活を見つめ直している作品が目立ち、中でも『ココロ屋』が多く読まれていた。読書を通して失敗や後悔をした自分の経験をふり返り、気持ちの変化について具体的に書かれている作品が多かった。「自分には悪いところもあるが、良いところもたくさんある。」「自分の心を成長させていきたい。」と読後感を自分なりの言葉で表現できていて、改めて自分の良さを感じたことが伝わってきた。その他にも、十歳をテーマにした本も広く読まれていた。今の自分を大切に思う気持ちや将来になりたい自分をめざして目標をもって努力していきたいという気持ちが文章によく表現されており、好感がもてた。

文章表現については、本と出会ったきっかけ、あらすじ、読後の感想といった内容の構成が多かった。そのため、どの作品も似ている印象を受けてしまう。自分の作品をさらに魅力的なものにしていくためには、結論の部分に読書を通してどのようなことを考えたのか、どのように自分の人生に生かしていきたいのかなどを、自分なりの言葉で素直に表現することが大切である。難しい言葉でまとめようとするのではなく、自分自身の考えをしっかりと表現できている作品については、その子の思いが伝わり印象に残った。

今年度の県審査に携わり、読書は人の心を豊かにすることを改めて感じた。夢や目標に向けて努力をしている子、家族や友だちを大切に思っている子、どの子もすばらしいものをもっており、成長を楽しみに思わせてくれる。読書を通して改めて自分を見つめ直し、思いを言葉や文字にして表現できることはとてもすばらしいことである。今回、感想文に綴った気持ちをいつまでも忘れず、ぜひ実現して行ってほしい。以前、最優秀賞をとった子が受賞の感想で、「本は時や場所を越えてたくさんのことを教えてくれる。」と述べていた。まさしくその通りである。今後も本との出会いで感じたことを大切に過ごしていつまでも願っている。

●課題読書

今回の県審査対象作品は、3年生25編、4年生29編、合計54編であった。これを図書別にみると、次の通りである。

『二日月』	13編
『さかさ町』	16編
『木の好きなケイトさん』	10編
『コロッケ先生の情熱！古紙リサイクル授業』	15編

作品全体として、自分の経験や体験を重ねながら、素直に感動や感想を書いている作品が多かった。図書別にまとめると、次のようであった。

『二日月』

障がいのある妹、妹で手一杯で構ってくれない母親。頭では分かっているが現状を受け入れられない少女の不満や葛藤と、それを乗り越えて成長していく姿、さらに障がいをもった人への思いを穏やかに描いている作品である。

感想では、同じような歳の妹や弟がいる経験を重ね合わせながら、主人公杏の、揺れ動く気持ちに、共感しながら読み進めているものが多かった。また、この本との出会いで、障がいについて知るきっかけになったという意見も多く寄せられた。障がいがあるなしに関わらず、「誰か困っている人がいたら何かできる人になりたい。」「障がいがあってもなくても、生まれた命を愛したい。」など前向きな姿勢が感じられた。

『さかさ町』

純粋に物語のおもしろさが味わえる作品である。いわゆる常識を疑ってみることで、違ったことが見えてくるとというテーマの読み取りができると、より一層イメージが広がっていく作品である。

感想では、一つのことにとらわれず、自由に発想してみる。そうすれば、思いもよらない魅力的なアイデアが生まれる。今まで当たり前と感じていたことを見直してみると、新しい発見に出会える。「さかさ町」だったらどうかと考えて、もっと良い考えや方法がないかためしてみたい等、この本との出会いをきっかけに新しい見方や考え方に迫る姿が見られた。

『木の好きなケイトさん』

百年前の南カリフォルニア、砂漠の町サンディエゴの緑化に取り組んだ女性科学者の半生の伝記絵本である。感想では、ケイトさんの生き方から、夢を絶対かなえる強い思いやあきらめない強い気持ちが大切なのだと分かった。難しいことをやり遂げるには、信じる力が必要。なかなか成功しないことがあっても、自分を信じて、チャレンジし

ていきたい等、自分自身を見つめ直し、成長しようとする姿が見られた。また、自然を傷つけず、今自分の周りである環境を大切にしていきたい等、環境問題について考えを深めている児童もいた。

『コロッケ先生の情熱！古紙リサイクル授業』

古紙の再資源化というテーマで、リサイクルの大切さや資源問題・環境問題を考え、行動に移すきっかけとなり、新たな知識を得る喜びが感じられる作品である。岡山県の小学校で実際にリサイクル授業を行っているという点からも、児童は親近感をもちながら読み進めることができる。

感想では、「紙はゴミじゃない」というコロッケ先生のことばが心に残ったという意見が多くあった。50キロの古紙を集めれば1本の木が助かることや、6枚の牛乳パックからトイレットペーパー1つができることに興味をもち、本を読む前と読んだ後では、リサイクルに対して関心が大きく変わったことを多くの児童が書いていた。また、実際にコロッケ先生に自分たちの学校に来て、楽しいリサイクルの授業をしてほしいという意見も多く寄せられた。

●指定読書

今回の県審査対象作品は、3年生19編、4年生18編、計37編であった。これを図書別に見ると、次の通りである。

『あたし、アンバー・ブラウン！』	2編
『おばけ道、ただいま工事中!?!』	27編
『なかよしヤギ一家のECOプロジェクト』	8編

作品数には偏りが見られたが、どの図書も中学年の子どもには読みやすく、内容や著者の意図などが捉えやすかったように思われる。主人公の行動や気持ちに共感しながら読んだり、自分の生活と結びつけて考えたりしていることが感じられる作品が多く、自分なりの考えを書くことができていた。

それぞれの指定図書について、感想の傾向をまとめてみると、次のようになる。

『あたし、アンバー・ブラウン！』

小学校3年生のアンバー・ブラウンとジャスティンは幼稚園からの親友だったが、ジャスティンが転校することになり、二人の関係は変わってしまう。「さみしい」という気持ちを伝えられず、ついには一言も口をきかなくなってしまった二人が、改めて互いの大切さを確認し、素直になろうとしていく話である。

今回の2作品は、どちらも人とのかかわり方について書かれており、「素直になること」の大切さを考えていた。

アンバーやジャスティンのように、素直になれない自分と向き合い、勇気を出して大切な人に思いを伝えていこうという前向きな気持ちが表現されていた。そして、親友とはどんな存在なのかを問い直し、これからも大事にしていきたいという願いが強く感じられた。一緒にいても離れていても、互いを思いやる必要があると捉えている作品もあり、友達について深く考える機会となったように思われる。『おばけ道、ただいま工事中!?!』

小学校4年生の翔太の部屋に、1週間だけおばけが通る「おばけ道」が通ることになる。そこを通るおばけたちとかわるうちに、生きている人もおばけも様々な後悔をしていることを知り、少しでもその後悔をなくせるようにと、翔太は行動し始める。

もしも「おばけ道」が通れば、死んだ人や生き物にもう一度会って話したいという作品が多かった。自分のこれまでの生活でかわった人や生き物への感謝や心残りなど、登場人物の心情と重ね合わせて読むことがしやすく、自分ならどうしたいかがよく考えられていた。また、翔太の行動に着目し、翔太の優しさや一生懸命さに気づき、深く共感していることが伝わってくる作品もあった。後悔しないように生きることは難しいかもしれないが、今の自分のできることを精一杯していこうという強い思いが表れている作品が多く、自分の力で明るい未来を創り出してほしいという願いをもった。

『なかよしヤギ一家のECOプロジェクト』

鉄道の駅舎周辺の草刈りのためにヤギを飼うことになった駅の話。駅員のアイデアで始まったヤギの取り組みは地域へと輪が広がり、人とヤギ、人と人との交流へとつながる様子が温かく描かれている。

ごみを減らしたり電気を使わないようにしたりするなど、小さなことからエコに取り組もうと考えている作品が多かった。また、人や動物にとって住みよい世界を作りたいという作品もあり、環境問題についてより広い視野で考えていることが感じられた。

本との出会いを通して、今までの生活をふり返ったり、自分を取り巻く世界に目をむけたりと、視野が広がっていく経験をすることができる。様々な本に親しみ、新しい見方や考え方をもち、心豊かに成長して行ってほしいと願っている。

自由読書の審査概評

小川 薫

課題読書の審査概評

三宅 千尋

指定読書の審査概評

山下 朋子

小学校高学年の部

●自由読書

今回、自由図書の部で県審査の対象となった作品は83編であった。学年別にみると、5年生が37編、6年生が46編であった。

感想文に取り上げられた内容は、戦争、動物、障害、友情、人物記など多岐にわたっていた。特にこの夏、現職アメリカ大統領が戦後初めて広島を訪問したニュースと絡めた、戦争についての作品が目立った。また、人間の勝手な都合で、命を粗末に扱われる動物がテーマの本も多かった。人物記では、オリンピック選手を取材した図書から、いつの時代にも読まれてきた偉人の伝記まで様々であった。高学年らしく幅広く多様なジャンルの図書が読まれていた。心に響く本との良い出会いによって、大きな主題も身近なものとして考えることができたのであろう。

審査を通して感じたことは、全体的にノンフィクション類を読んだ作品が多いことである。戦争に関する作品では、自分と年齢が近い人物が登場する図書を選んだものが多かった。自分だったらどうか。年齢という共通点から時代の違いを乗り越えて、自分のこととして考えを書いている。また、ペットを捨てる飼い主に憤りを感じ、一方でその動物たちを助けようとネットワークを広げて活動する人々に共感する。その素晴らしい考えや行いに影響され、これからの自分の生き方を堂々と述べる。どの作品も、読んだ本の内容と重なる、自分の生活体験や考えをもとに、読後の自分の意見を書くことができていた。さすがに高学年らしく、一貫した内容となっていた。

さらに、表現方法にも工夫が見られた。本の表紙に惹かれて、内容を空想する場面からの導入。心に残る言葉の引用。これらは、読み手を作品の世界に引き込む印象を与えた。また、自分の考えを数点に絞り、言いたいことへと核心に近付いていく、構成のしっかりした作品もあった。短い文章をテンポよく連ね、まるで語りかけるような独特の世界を作り上げている面白い作品もあった。読み手に分かりやすく、効果的に伝えていくためにどうすればよいか、書き手の意図の感じられるものとなっている。

精一杯に自分の考えを述べ、工夫された作品が多いのだが、課題もある。粗筋紹介に終わるのではなく、きちんと自分の生活体験と重ねて書かれている。高学年ともなれば、様々な体験や知識を蓄えているであろう。いかに共感する理由となった体験を自分がしてきたか、一生懸命書いてい

る。しかし、その体験を語った部分が全体の大半を占め、読後の自分の考えについての記述が数行となり、一般的な考えが述べられて終わってしまう場合があった。読書体験が、自分の考えにどのように影響を与えたのか、もう一度自分の心を見つめ直してみると良いのではないか。

その本を読む前の自分と、読んだ後の自分とでは、何が変わったのか。自分の心の変容を見つめる作業はとても苦しくエネルギーを必要とする。しかし、それだけ自分の心を突き動かすような本に出会ったならば、その感動を誰かに伝えたいと思うはず。読書感想文を書くことは、まさにその感動を書いて伝えることである。時がたってもその感動が色あせないように、自分の心の中に、今までとは違う自分の考え、新しく湧き起こった気持ちを書き残してほしいと思う。

一冊の本を読むことで、様々な体験ができるのは、読書の素晴らしいところである。たくさん本と出会って、心豊かな人間に育ってほしい。

●課題読書

今回、課題図書部の県審査対象になった作品は45編で、学年別では、5年生が25編、6年生が20編であった。図書別に見ると、次の通りである。

『茶畑のジャヤ』	13編
『ワンダー』	13編
『大村智ものがたり』	8編
『ここで土になる』	11編

どの図書も平易な文章で読みやすく、高学年の児童が自分の生活と重ね合わせて読んだり、生き方について考えたりできる内容である。

4編の課題図書について、それぞれの感想の傾向をまとめると、次のようになる。

『茶畑のジャヤ』

日本の小学校で成績が良いことがきっかけでクラスメートからいじめられてきた主人公の周が、祖父が滞在しているスリランカを訪れ、そこで出会った人々や経験したことから自分を見つめ直し、成長する物語である。周の経験から自分や周りの友だちとの関わり方を考えながらよんだ児童が多かった。また、スリランカの内戦や民族対立のエピソードから、読後に世界の子どもの現状について興味を持ち、調べたり考えたりした児童もあった。

『ワンダー』

顔に大きな奇形を持って生まれてきた主人公オーガストの葛藤と成長の物語である。児童は、オーガストの立場で

考えたり、周囲の人の立場で考えたりしたようである。オーガストの痛みや喜びに共感しつつ、ストレートに障がいについて取り上げるのではなく、「ふつう」とは何だろう、自分は偏見をもっていないだろうか、と自己を見つめ直す作品が印象深かった。

『大村智ものがたり』

ノーベル賞を受賞した大村智さんのノンフィクションである。どの児童も、スポーツなどの自分が取り組んでいることで、負けたり苦しかったりした時のことを思い返していた。そして、子どもの頃は農作業やスポーツに没頭し、大人になってからは、自分が良いと思ったことにあきらめずに挑戦し続け、世界中の人々に感謝される研究を成し遂げた大村さんの生き方に共感し、自分も努力しようと決意を新たに感じた感想が多かった。

『ここで土になる』

ダム建設で沈むはずだった村にたった二人きりで住み続ける尾方さん夫婦の実話である。児童が住む町や地域の昔と今の様子や住む人々のつながり、自分のふるさとの将来について考えた作品が多かった。大きな写真と簡潔な文章から、村の現実と夫婦の思いを感じ取ったようである。

今年の課題図書は四編とも、「自分らしい生き方」がテーマの中の一つになっている。どの作品も、その図書との出会いを通して、自分の生き方や考え方を深めたことがわかる高学年らしい作品ばかりであった。また同じ作品を読みながら、感銘を受けて感想文として伝えようとした観点が児童によってそれぞれ違っており、個々の生活体験に根ざした個性あふれる作品が多かった。

●指定読書

今回、指定図書部の県審査対象となった作品は35編で、学年別では5年生が18編、6年生が17編であった。これを図書別に見ると次の通りである。

『幸せとまずしさの教室』

～世界の子どものくらしから～ 21編

『ニレの木広場のモモモ館』

4編

『ひみつの校庭』

10編

作品数には偏りが見られたが、どの作品も自分の経験や生活と結び付け、考えを述べることができている。それぞれの指定図書について感想の傾向をまとめると、次のようになる。

『幸せとまずしさの教室 ～世界の子どものくらしから～』

苦しい生活の中で楽しみを見つけ、夢を抱き、幸せをえようとしている貧しい国の子どものくらし。その姿が多くの子

真と共に紹介されているこの本は、日本で生活している子どもにとっては衝撃的なものであったようだ。感想には「きれいな水がいつでも使えること」や「毎日学校へ通い、勉強したり遊んだりできること」など、日頃当たり前だと思っていたことは実はとても恵まれていて幸せなことなのだと気付いた、という内容が多くあった。また、そのことに気付けたこと自体が何よりも幸せだ、という感想もあった。どの児童もこの作品を通して、世界中の人々が幸せになるために自分にできることを考えたり、自分自身の幸せについて考えを深めたりすることができていた。

『ニレの木広場のモモモ館』

ニレの木の下で出会ったモカ、モモ、カンタ。三人がかべ新聞「モモモ館」作りを通して協力することの喜びや楽しさを知り、何でも話し合える本物の仲間へと成長していく物語である。感想の中には、主人公が感じるドキドキワクワクする気持ちや、新聞を作り上げた時の達成感に共感するものが多く見られた。また、新聞作り等、自分の経験と照らし合わせながら、友達と話したり協力したりすることの楽しさや大切さを改めて感じた、というものもあった。物語の中の三人の姿を通して、日々共に過ごしている友達の存在についてじっくりと考えることができたようである。

『ひみつの校庭』

葉太の学校では入学した時に自分の木が決められる。観察ノートを1冊書き終えた時、「ひみつの校庭」への扉を開けるカギを手にするができる。5年生になった葉太はそのカギを受け取り、「ひみつの校庭」へと入る。そこで8年前に亡くなった父親と出会い、貴重な時間を過ごす。不思議な植物や幽霊となった人々が登場するこの物語はとても興味深く、一気に読み進めたという感想が多くあった。また、「植物と人間は似ている」という本文中の父親の言葉をもとに、「自分もしっかりと根を張り、成長していきたい」「周囲の人たちが教えてくれることを吸収し、自分らしく生きていきたい」など、自分の生き方について感想を述べたものも多くあった。

今年度の指定図書は、自分自身や身近な人々の存在について改めて考えてみるきっかけを児童に与えていたように思う。これからも様々な本との出会いによって多くのことを感じ、自分の想いをもち、心豊かに成長して欲しいと願う。

自由読書の審査概評

古谷恵津子

課題読書の審査概評

須田めぐみ

指定読書の審査概評

須江美智代

中学校の部

●自由読書

今年度、自由図書の部において県審査の対象となった作品は98編であった。感想文の主な内容の内訳は、昨年度と同様に、平和・戦争、生命・夢・仕事、家族・友達などの人とのつながり、人物記、自己啓発などである。たとえば、平和・戦争をテーマとした感想文では、平和学習やオバマ大統領の広島訪問などの事柄を契機として読書をし、戦争について知ろうとしていた。戦争体験のない生徒たちがこのようなテーマを選び、平和について考えたことに大きな意味があるのではないかと思う。次に、生命に関する作品では、東日本大震災や闘病、障がいに関する内容が多くみられた。続いて、夢や仕事について書かれた作品では、自分のやりたいことに気づき、読書により夢への気持ちを強くもつことができていた。また、人とのつながりについて取り上げていた作品からは、他者の存在の大切さに気づき、改めて現在の日々を大切に、自分のできることを返していこうとする前向きさが感じられた。

図書の選定に関しては、映像化された図書を取り上げたものが目立ち、それぞれ登場人物の境遇や心情を自分と重ね合わせることで、考えを新たにしていた。登場人物の思いに共感する意見が多かったが、自分であれば違う選択をしたであろうと、新たな可能性を示す作品もあった。加えて、自分のもつ疑問を解決するために選んだものが多くみられ、感想文を書くことを自らの心の成長の糧にしようとする意志が感じ取られた。また、リオデジャネイロオリンピックの影響もあり、スポーツ選手の人物記を取り上げたものも多かった。スポーツ選手の生き方と自分の部活動への思いを比較し、志を新たにしていたようだ。先述したオバマ大統領の例のように、時事的な事柄をふまえた図書の選定も今年度の傾向ではないかと思う。

文章の構成・表現については、全体として、作者の伝えたいことの中から、着目する点を精選し、感想を書くことができていた。さらに、冒頭に会話文や心に残った文の引用をしたり、比喻や倒置法を用いたり、読者を惹きつける工夫がなされていた。読書前と読書後に気づきや成長がみられ、感想文を書くことで自分の気持ちを整理することができていたように思う。ただし、伝えたい事柄が複数ある作品は伝えたいことが絞られておらず、理解しにくいものもあった。また、自分の体験と照らし合わせて書かれている作品が多かったが、取り上げる体験の選定や文量など

が不自然なものがあつた。共通する題材から書かれた作品でも、自分の素直な気持ちや体験を描き、等身大の生徒の姿が感じ取られるような作品が印象に残つた。

読書は日常生活のみでは、味わいきれない体験ができるものである。特に、思春期の時期における読書は、生徒の心に大きな影響を与えるものであろう。生徒が選んだ一冊の本から始まる読書感想文は、読書の意義や楽しみを教えてくれるものであつた。それと同時に、言葉のもつ力を改めて考えさせられた。自分が感じ取つたことをどのように他者に伝えるのか、考え悩むことは、生徒の心の成長に大きく寄与するのではないだろうか。この夏、生徒が味わつた読書体験を、この読書感想文集を読みぜひ感じ取つてほしい。

●課題読書

今年度の課題図書は『ABC!曙第二中学校放送部』『白いイルカの浜辺』『生きる 劉連仁の物語』の三冊である。県の審査対象となつた感想文は全部で48編で、出品数の内訳は『ABC!曙第二中学校放送部』22編、『白いイルカの浜辺』7編、『生きる 劉連仁の物語』19編であつた。また、学年別では、1年生が14編、2年生が20編、3年生が14編であつた。

『ABC!曙第二中学校放送部』は、その題名が示すとおり、ABCという名をもつ廃部寸前の放送部の部員たちが、悩み奮闘する姿を描いている。主人公の中学生たちは、放送コンクール出場に向けて、台本作りや日々の練習の中で、自分たちの思いをぶつけ合いながら友情を深めていく。

感想文は、主人公たちが同じ中学生であり、取り上げている内容が部活動ということで、同じ目線で自分たちの部活動の体験と重ね合わせて読んだ作品がほとんどであつた。主人公たちの心の葛藤や行動から、失敗を恐れず挑戦することや自分を貫く勇気をもつことの大切さに着目した作品が多かつた。また、本文からの引用「今きみは 世界の先頭にいる」や、禅の公案『隻手の声』の解釈や意図について考えを巡らした作品も多数あつた。

『白いイルカの浜辺』は、主人公の少女カラが、傷ついたイルカの子どもを何とか助けたいと思い、次第に周りの人たちを巻き込みながら、ふるさとの海や生き物を守ろうとする姿が描かれている。母親を亡くしても力強く生きる子イルカを見て、カラは自分もたくましく生きていこうとする。本書はカラの心の成長を見つめると同時に、海の環境破壊が進んでいることへの警鐘を鳴らしている。

感想文では、主人公カラの心の成長をたどることで、現

実を見つめたり一歩を踏み出したりする勇気をもちたいなど、前向きな気持ちになつたという作品が多くあつた。また、私たちの気づかないところで破壊が進んでいる海に目を向け、小さなことでもいいから海を守る努力をしたいと切実に訴える作品もあつた。

『生きる 劉連仁の物語』は、劉連仁という実在の中国人の物語である。平穏で幸せな日々を送っていた劉連仁は、日本軍により強制的に北海道に連行された。彼は過酷な労働と暴力から逃れ家族の元に戻るために仲間と逃亡し、最後にはたった一人になり13年間の逃亡生活を送る。中国人劉連仁を通して、日本の「強制連行」という歴史的事実を描いている。

感想文は、本書の内容が、第二次世界大戦中に密かに行われていたことであるため、身近な体験とつなげて自分の思いを述べるのは難しかったようである。しかし、家族から聞いた戦争時代の話や、沖縄への修学旅行や広島平和学習での体験などと結びつけて捉えようとしている作品が幾つかあつた。初めて知る日本の負の歴史に激しい憤りや反発をおぼえながらも、これからの社会や自分のあり方を模索しようとする作品には、中学生らしい率直さや純粹さを感じた。

●指定読書

今年度、県の審査対象となつた作品は41編。『ウソつきとスパイ』3編、『白をつなぐ』13編、『渋谷ギャル店員 ひとりではじめたアフリカボランティア』25編である。学年別では、1年生が11編、2年生が17編、3年生が13編であつた。

『ウソつきとスパイ』

この作品は、ニューヨーク在住の弁護士が書いた翻訳作品である。自分はスパイだと嘘をつく不登校のセイファーと、学校でいじめに遭っているジョージが、共に成長し、今起きている事態を乗り越え真の友となる話である。しかし、題名からミステリーの要素が強いためか、読者が期待しているような話ではなく、また感想文に仕上げるには難しい感があるため、応募者が少なかったのではないかと思われる。

その中であつて特別賞作品は「書く視点」が秀逸であつた。ジョージの両親が好きなスーラの絵(点描)から、「人生は小さな点の集まり。自分も誰かの人生という絵に点を描き続けていることを肝に銘じなければ」。文章を何度も練り咀嚼しながら仕上げていないと、ここまで書けないような表現である。

『白をつなぐ』

この作品は、毎年1月に広島で行われる、都道府県対抗男子駅伝のことが書かれている。年齢も境遇も違う選手たちが、故郷福岡を背負って走るそれぞれの思いと、それに関わるすべての人を「たすき」が繋ぐ様子が描かれている。

多くの作品が、題名の「白」に着目し、自分なりの「白」をもとに考えをまとめていた。その中でも「無心で走る（無の境地）」がやはり多かった。また、自分の生活体験と結びつけて考えられるので書きやすかったようだ。（陸上、野球、水泳、テニス、吹奏楽など）

『渋谷ギャル店員

ひとりではじめたアフリカボランティア』

親友の死をきっかけにし、生きる意味を求めて約60ヶ国を巡り、辿り着いたのはアフリカのモザンビーク。アフリカの中でも貧困や暴力、犯罪の多い地域。そこでのボランティアだけでなく、医療学校を首席で卒業し、さらにはNPOをたった一人で立ち上げたという実話。

多くの作品が、この破天荒な生き様に感銘を受け、自分のこれからの生活や人生について考えていた。特に、「ボランティア同好会」を立ち上げた人や「ユニセフのつどい」に参加した人など、ボランティアに携わった人が多いこと。そして、福祉や医療関係の仕事に就きたいと将来の目標を明確に示していた人が多く、この本が一つの契機になり、様々な可能性が出てきているのは頼もしく感じた。

指定図書に選ばれた3冊のテーマはそれぞれ「いじめ・信頼・友情」「団結・仲間・信念」「平和・世界・福祉」という身近にあるもので、自分たちの日常生活と比較しながら興味深く読み進めることができたようだ。その中でも特に『渋谷ギャル店員 ひとりではじめたアフリカボランティア』に多数の応募があった理由としては、初めて知る世界の現状、そしてたった一人で社会貢献をする勇気ある女性のドキュメンタリーに心が引かれたのではないだろうか。読書を通して、知識を得たり心を豊かにしたりしながら、「自分を見つめる」ことは、これからの人生において重要な通過点となるであろう。

高等学校の部

●自由読書

自由読書の部には、県審査へ41校から278編の応募があった。学校数・応募数ともに昨年とほぼ同数であった。一昨年までは310編を超える応募があったので、各校とも日々の授業や行事などで忙しいであろうが、読書指

導の一環としてぜひとも感想文に取り組んでもらいたい。

ここ数年この概評に書いているように、今年の審査を終えての印象としても、生徒の読んでいる作品が多様になっていると感じた。ただ今年もノンフィクションジャンル、特に新書本を対象とした感想文がほとんど見られなかった。かつて読まれていた『バカの壁』『ゾウの時間 ネズミの時間』『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』『国家の品格』『生物と無生物のあいだ』など、自然科学から社会科学、経済学まで高校生も興味を持つであろう作品は少なくないはずである。新書も各社ごとに特色があり、新書大賞も毎年選ばれている。ぜひ読書感想文の方でも新書の復権を目指してもらいたい。

戦後70年であった昨年に比べると、戦争物を読んでの感想文は減ったものの、『夜と霧』『海と毒薬』『永遠の0』など定番作品は読まれているようだ。

今年目についたのは、『世界でもっとも貧しい大統領ホセ・ムヒカの言葉』を取り上げた作品が少なからずあったことである。世界会議で衝撃的なスピーチをしたウルグアイの元大統領が今年来日するにあたって、ニュースで特集されたことが影響したのでであろう。また本屋大賞受賞作も注目を集めるのだろう、本年度の1位『羊と鋼の森』2位『君の臓腑をたべたい』の感想文が目についた。ただし、前者は自分の進路に絡めて感想を書きやすかったであろうが、後者は内容的にもやや難しかったと思われる。

県審査も全国での審査基準に沿っておこなっている。

○発達段階に応じた適切な本を選んでいるか

感想文自体が良くても対象図書があまりにも幼いものや偏った内容のものは、低い評価とならざるを得ない。

○事実と著者の意見とを区別してとらえているか

○自分の意見・感想を率直に述べているか

特にノンフィクション作品を読んでの感想文の場合、事実と筆者の意見の区別だけでなく、筆者の意見と自分の意見・感想を混同して書いているものが少なくない。

○読書によって得た自己の変革がみられるか

作品内容から自分の行動や生活を見直すような姿勢がほしい。実体験が書かれているとより説得力が増す。

○規定の文字数を十分に生かし、自分の思いを表現しているか

例年お願いしているが、2000字をできるだけ一杯使ってもらいたい。3～4行少ないというだけで、どれほど内容が良くても、優秀候補にさえ選ばれない。

本年度の最優秀に選ばれたのは井上愛梨さんの「岩屋の

囚人達」である。昨年度課題読書の部で最優秀を受賞しただけあって、文章力は文句なし。岩屋に閉じ込められた山椒魚の孤独と蛙の残した許しの言葉を私たちの人間関係にまで敷衍させて考えることができおり、特にオバマ大統領の広島訪問の用例が効果的で、論理に説得力を与えている点が高く評価された。

優秀作品の藤田竜正くんの「『蠅の王』を読んで」は、本のテーマである集団が恐怖に囚われた時の悲劇をきちんと捉えるとともに、そうならないための方法を模索してゆく姿勢が優れていた。杉原優子さんの「『海と毒薬』を読んで」は、異常な環境下で行われた罪を、個人の心の中の後悔という面と世間の罰という集団の中での道徳という面から広い視野で考察できていた。弦本夏実さんの「人間の本质とは何か―『夜と霧』を読んで―」は、捕虜収容所の惨劇を筆者の心理学的視点を通して見つめ、人間の感情の弱さとそれを乗り越える未来への希望を読み取っている。現代の私たちにも無縁でないと言及している点も優れている。赤堀由季さんの「『人間失格』を読んで」は、葉蔵がネット社会における現代若者の孤独に通じると考えた点がユニークである。葉蔵に欠けていた「自分を認める」ことは最後の自己考察にうまく繋がっている。金子くるみさんの「何もかも憂鬱な夜を越えろ」は、登場人物の苦しみと自分のそれとをぴったり寄り添わせ、主人公のもらった言葉によって自分を変革させることを学んでいる。作品との距離感の近さが良かった。杉本優友くんの「Noblesse Oblige」は、自身の中国短期留学と大原總一郎氏の中国への技術供与がうまく符合し、その経営理念から社会貢献の精神を学ぶという作品と自己体験がぴったり重なり合った感想文になっている。赤木里帆さんの「『ガールズ・ブルー』は色褪せない」は、まず抜群の文章力で読ませてくれる。かけがえのない今という時間を惜しみつつ、未来へ歩む高校生の戸惑いを自らと重ねて実感とともにうまく捉えている。松永ことのさんの「『ベッカライ・ピオプロートのパン』」は、本との出会いによる感動や喜びが本人の行動力とともに一番感じられた感想文である。自分の進路選択にもきちんと結びつけているところも良い。

●課題読書

S L A が最近1年以内に発行された新しい本から選んだ3作品の課題図書を読んで書くもので、自由読書とは別に審査される。今年の応募作品数は、昨年よりやや減少し、26校から82編の応募があった。（昨年は、27校から94編の応募であった。）

応募作品の内訳は、3作品にばらつきがあり、『タスキメシ』が38編と一番多く、『シンドラーに救われた少年』が34編、『ハーレムの闘う本屋』は、わずか10編の応募しかなかった。（当初から感想文の書きにくそうな本だとは思っていたが、予想通りの結果であった。）

今年の最優秀作品に選ばれたのは、『シンドラーに救われた少年』を読んだ吉田悠花さんの作品である。「当たり前とは何だ」という問いかけから始めて、当たり前であるはずの道徳心を失ってしまう恐さを語る。そして当たり前思いやりの心を持つ優しい強さを持ちたいと結ぶ力強い作品である。

優秀賞4編中同じく『シンドラーに救われた少年』を読んだ感想文は、秋山恵里さんの作品である。「二人の英雄と出会って」のタイトル通り、著者レイソンとシンドラーの二人と出会い「生の声」を知ることの重要性を語る頼もしい感想文である。

『タスキメシ』を読んだ感想文のうち、唯一の優秀賞男子入賞者は、柳川春斗さんである。陸上競技や、優秀な兄の弟という所に、小説との共通点を見出して、回り道でも答を探すために人生と向き合いたいと述べる爽やかな感想文である。

もう1編の『タスキメシ』の感想文は、日高亜希子さんの作品である。走高跳をやっていた自分自身の足の故障を紹介し、母の料理で禰と飯とのつながりを確認する。支えられたからこそ、誰かの支えになりたいと決意する優しさあふれる感想文である。

数少ない『ハーレムの闘う本屋』の感想文で入賞したのは守安美乃さんの作品である。主人公と交流のあったモハメド・アリも引き合いに出しながら、「行動を起こす勇氣」と「言葉の力」を学んだと、本から得たものがよく書けている前向きな感想文である。

最近よく思うのは、守安さんの感想文でも出てきた「言葉の力」というものについてである。極端な場合、たった一言の言葉で人の命を救うこともできれば、場合によっては、人を死に追いやることもある。言葉とは本当にものすごい力を持ったものである。願わくは日々の読書を通じて感性を養い、優しさや思いやりにあふれた言葉を人にかけてあげられるような人になって欲しいものである。間違っても、人の心を深く傷つけるような言葉を平気で発するような人にはなっていて欲しくない。一人でも多くの生徒が、一冊でも多くの良書に出会うことを願ってやまない。そんなことをしみじみと思いつつペンを置く。

自由読書の審査概評

倉敷市立倉敷翔南高等学校教諭 若狭 真司

課題読書の審査概評

岡山県立玉野光南高等学校教諭 神崎 良造

第28回読書感想画岡山県コンクール

I 日 程

- 6月23日(木) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議席上
- 1月10日(火) 応募締め切り(必着)
応募先・事務局 *小学校・・・岡山市立大野小学校
上岡 弘明
*中学校・・・岡山市立石井中学校
川阪 理智
*高 校・・・岡山県立総社高等学校
大野里江子
- 1月13日(金) 小学校の部審査(岡山市立大野小学校)
中学校の部審査(岡山市立石井中学校)
高等学校の部審査
(岡山県立総社高等学校)

II 県審査員

- | | | |
|--------|--------|----------------|
| 県SLA会長 | 福田 邦男 | 岡山県立倉敷古城池高等学校長 |
| 副会長 | 高田 恵子 | 岡山市立馬屋下小学校長 |
| | 門田 正充 | 岡山市立岡輝中学校長 |
| 審査委員 | 田中 満史 | 岡山市立馬屋下小学校 |
| | 難波 学 | 岡山市立甲浦小学校 |
| | 木下 舞 | 岡山市立千種小学校 |
| | 今出 美沙 | 岡山市立三門小学校 |
| | 田村 敬子 | 岡山市立豊小学校 |
| | 中野 博充 | 岡山市立彦崎小学校 |
| | 山下 真季 | 岡山市立大野小学校 |
| | 平坂多恵子 | 岡大教育学部附属小学校 |
| | 大倉 佳子 | 岡山市立浦安小学校 |
| | 佐藤 泰之 | 岡山市立七区小学校 |
| | 難波 伊津美 | 岡山市立福島小学校 |
| | 清廣 玲子 | 岡山市立三勲小学校 |
| | 稲田 智恵 | 岡山市立岡山中央中学校 |
| | 岡田恵利子 | 岡山市立御南中学校 |
| | 三宅 綾子 | 倉敷市立福田南中学校 |
| | 川井 益美 | 倉敷市立多津美中学校 |
| | 眞賀 芳郎 | 岡山市立瀬戸中学校 |
| | 川阪 理智 | 岡山市立石井中学校 |
| | 藤井 雅美 | 倉敷市立東中学校 |
| | 藤井 弓子 | 倉敷市立北中学校 |
| | 澁谷 奈津子 | 岡山市立高松中学校 |
| | 河本 昭政 | 岡山県立岡山朝日高等学校 |
| | 高取 亨一 | 岡山県立瀬戸高等学校 |
| | 西村 毅 | 岡山県立高梁城南高等学校 |
| | 小野 恭子 | 岡山県立倉敷天城高等学校 |

III 結 果

1) 応募作品数・応募学校数

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
小 学 校	1,019点/30校	1,461点/28校	901点/23校
中 学 校	92点/12校	92点/13校	101点/10校
高等学校	32点/7校	108点/7校	33点/8校
計	1,143点/49校	1,661点/48校	1,035点/41校

2) 最優秀賞受賞者

- 小学校低学年の部・自由**
岡山市立南輝小学校 1年 西岡 奏真
瀬戸内市立邑久小学校 3年 今吉 敬大
- 小学校低学年の部・指定**
瀬戸内市立美和小学校 1年 神谷 さくら
岡山市立南輝小学校 1年 中野 結
- 小学校高学年の部・自由**
瀬戸内市立邑久小学校 6年 田淵 梨乃
倉敷市立万寿東小学校 6年 貝原 衣音
- 小学校高学年の部・指定**
倉敷市立赤崎小学校 6年 向井 詩乃
岡山市立南輝小学校 6年 岡田 夏美
- 中学校の部・自由**
倉敷市立琴浦中学校 3年 毛利 海朗
倉敷市立北中学校 2年 岡本 久瑠美
- 中学校の部・指定**
倉敷市立庄中学校 2年 赤木 美優
新見市立新見第一中学校 2年 眞壁 美羽
- 高等学校の部・自由**
岡山県立総社南高等学校 1年 篝 佑伽
岡山県立総社南高等学校 2年 池元 真白
- 高等学校の部・指定**
岡山県立岡山朝日高等学校 1年 増田 百香

3) 第28回読書感想画中央コンクール入賞者

- 小学校低学年の部 指定図書 優良賞・学校賞**
瀬戸内市立美和小学校 1年 神谷 さくら
- 小学校低学年の部 自由読書 優良賞・学校賞**
岡山市立南輝小学校 1年 西岡 奏真
- 中学校の部 自由読書 大和証券賞**
倉敷市立琴浦中学校 3年 毛利 海朗

IV 審査の結果

【小学校の部】

岡山市立大野小学校 上岡 弘明

○ 審査事務の流れ

第28回読書感想画岡山県コンクールへの応募校は23校と前年度より5校減り、応募作品総数も560点減りました（応募作品総数は応募された学校の児童数や取組状況によって大きく変動するので、一喜一憂する必要はないと思いますが、応募校数が3年連続で減っているのは、気になることです）。その中から、応募要項にもとづいて各校の校内審査を経た作品95点（30点減）が県コンクールに出品されました。

審査会は、1月13日（金）に岡山市立大野小学校で行いました。図画工作・国語等に造詣の深い12名の先生方が集まり、厳正かつ慎重に審査をしていただきました。審査委員の先生方には、3学期はじめのお忙しい中、快くご協力くださり本当にありがとうございました。

○ 審査概評・今後の課題等（※審査員の声を総括）

・「読書を通して興味を持ったたり感動したりしたことをもとに、思いを広げながら工夫して絵に表現すること」は、子どもが想像力や創造力、自らの感性を働かせながら造形表現する学びの原動力となり、また読書に一層親しみきっかけづくりとしても、素敵な体験である。今回、出品作品数は減ったが、子どもたちの感動した気持ちの表れた作品や、思いがよく伝わるように構図や色や表現技法を工夫した作品が多かった。高学年の部では物語の主人公の気持ちや表したい情景がよく伝わるように表現を工夫した絵、低学年の部では子どもたちが本の世界で友達になったり気になったりした主人公たちの気持ちや様子をのびのび表現した絵が、それぞれ上位に選ばれた。子ども自身の感性やこだわりを大切に自分なりの形や色や表し方で表現している作品はやはり魅力的で、審査していてとても楽しかった。

・同じ本を読んでも、一人一人の生活経験や心に残った場面、文章描写を読み取りながらふくらませた人物・事物等の形や色、構図や表し方の違いで、全く異なる絵として表現されていておもしろかった。一方で、審査会において書籍と照らし合わせて見ると挿絵や表紙絵を参考にして（組み合わせ）描いたものや、経験豊かな審査員たちが協議して明らかに大人の手が入っているのではと判断される表現は、たとえ絵として描き込まれていても、「独創的で個性的な表現であるか」「自分の力量で描いているか」といった審査基準に照らして選外とせざるを得ず、残念であった（審査にあたっては、事前にほとんどの図書を取り寄せて、挿絵と見比べながら審査して

いる）。表現する前に応募の決まりや趣旨をきちんと指導しておかないと、子どもがかわいそうである。

・子どもの想像力の豊かさには毎回驚かされる。構図を工夫した作品、色彩豊かな作品、細部まで大切に丁寧な描いた作品など、一点一点をじっくり見たり、裏返して「子どものつけた題」や「作画感想」から子どもの思いや感動を読み取ったりしながら丁寧に選んでいった。授業作品であれば、「どのように声かけをして指導したのだろうか」「子どものイメージをどのようにふくらませていったのだろうか」と想像したり他の審査員と話し合ったりしながら審査することができ、審査員自身の研修の場にもなった。本を読んだ後に、誰かと話し合ったり、心に残った場面や言葉を記してみたりする活動を取り入れるなどすれば、読書感想画自体も一層豊かになるかもしれない。

・審査にあたっては、発達段階を考慮しながら、物語の内容とともに子どもの思い（感動）が伝わってくるような構図や登場人物の動き・表情などを工夫している作品を選定するように努めた。子どもの思いや意図を酌み取るためには、作品裏の「作画感想」を参考にしたが、絵はよく描けていても「作画感想」から読書の感動が読み取れないものもあり残念だった。応募にあたって、「作画感想」に読書の感動とともに、その感動をどのように工夫して絵に表現したのかを、学年なりに記述するようにご指導いただきたい。ただし、読書感想文はあまり得意でなくても、絵に表すことは生き生きと取り組めるといふ子どももあり、そういった子どもたちにとって、このコンクールが読書の喜びと自己表現を広げていくきっかけになることを願っているので、「作画感想」が負担となりすぎないような配慮もしていただきながらではあるが、「本を選び、読み込んで、その思いを絵と文に表現する」という表現過程や取組時間などに個人差の出やすいコンクールなので、授業だけでは取り組みにくく、応募校の広がりが厳しいのが現状である。各地区の学校図書館協議会や小教研図書館部会・司書部会などの集まりにおいて、このコンクールの趣旨やよさ（ゴシック体参照）を一層啓発しながら、司書の先生と連携して「指定図書の紹介や読み聞かせをしていただくこと」「自由読書の部だけでも夏休みの課題として紹介する」等の提案を広め、本コンクールへの取組の広がりに努めていく必要性を感じている。関係の皆様のごさらなるご配慮やご尽力をと改めてお願いする次第である。

【中学校の部】

岡山市立石井中学校 川阪 理智

○ 審査事務の流れ

募集要項に基づき、各校で応募作品を募り、校内審査を経た作品が、コンクールに出品されました。

本年度は参加校10校、全応募作品数101点、県コンクールへの出品数は61点でした。昨年度に比べて、参加校は3校減数となりましたが、全応募作品数は増加となりました。昨年度はなかった3年生の応募作品を何点か見ることができたことは、コンクールの幅を広げることであり、嬉しく思いました。

審査会は1月13日(金)午後2時30分から、岡山市立石井中学校図書館にておこないました。県内の国語科・美術科担当の9名の先生方に審査をお願いし、厳正な審査の結果、最優秀作品4点を中央コンクールへ出品しました。審査を担当して下さった先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

○ 審査概評・作品について

- ・指定図書の発表が夏季休業前であれば、夏休みの制作として取り組むことができ、出品校・出品数の増加や、作品のレベルアップにつながるのではないかと。
- ・応募票感想文の誤字や記入漏れが多く、残念に感じた。「読書感想画」であることをもっと大切にしたいと思う。
- ・ライトノベルが多くなり、本の内容も軽くなってきている印象がある。また絵もアニメ的な絵が多くなり、似通ってしまい、模倣かオリジナルかの判断が難しくなっているのを感じる。
- ・作品のサイズが八つ切りであったり、応募票の感想文が未熟だったりするものは、優秀作品以上にするのがためられる。
- ・作品数は少なかったが、よく描けており、半数以上の作品に見るべきところがあった。また、作風も細密に描き込んだ物や、アニメ風・平面的な物、カラーージュした物やデザイン的に構成された物など、バラエティーに富んでいた。
- ・最優秀賞に選ばれた作品は素晴らしいが、それに続く良い作品が何点もあった。
- ・選ばれた作品について、自由図書は、対象図書の世界観を自分の解釈を通し、細部まで細かに描かれていました。
- ・課題図書は、限られた時間の中でしっかりと読み込み、登場人物の様子が伝わってくる構図を考えたり、人物イメージを練ったりしているのを感じた。
- ・単に本の感想というだけではなく、生徒が本から感じた世界を、自分なりの表現で視覚的に仕上げていく作業

は、本人にとっても楽しく刺激的な経験になったと思います。

◇ 参加校が減っている一方、全応募作品数が増えていることから、コンクールへ関わっている方は熱心であるが、応募の裾野が広がっていないのを感じました。

また、生徒が夏休みを利用して読書や制作に励むことができるよう、課題図書の発表が夏休み前になることを要望されている声が多くありました。

応募用紙にいくつか不備がありました。感想文の誤字確認や模倣作品のチェックなどを考えたとき、冬休み明けすぐの応募は適切なものか、一考の余地があるかと思えます。

今年度もコンクールに応募・参加して下さった多くの学校の先生方に御礼申し上げます。来年度も、さらに多くの学校で、このコンクールに取り組んでいただけるよう、よろしく願いいたします。

【高等学校の部】

岡山県立総社高等学校 大野 里江子

○ 審査事務の流れ

読書感想画岡山県コンクールは、2004年度から小学校・中学校・高等学校の部に分かれて事務局を置き、県SLA事務局と連携して審査事務を行っている。

本年度は支部事務局長会議で岡山県コンクールの募集要項を配布し、支部内の各校への要項配布と説明を支部事務局に依頼した。9月末には中央コンクールの募集要項が配布され、指定図書が発表された。『車夫』（いとうみく・作）、『白をつなぐ』（まはら三桃・著）、『戦火の三匹：ロンドン大脱出』（ミーガン・リクス・作、尾高 薫・訳）、『すしのひみつ』（日比野光敏・著）、『誰も知らない東京スカイツリー：選定・交渉・開業・放送開始…10年間の全記録』（根岸豊明・著）の5冊が今年度の中学校・高等学校の部の指定図書であった。

1月10日(火)に締め切られた県コンクールへの応募数は以下の通りである。

県コンクール応募総数

応募校数	自由読書	指定読書	作品合計
8校	26点	7点	33点

岡山県コンクール審査会は、1月13日(金)岡山県立総社高等学校の図書室で行われた。国語・美術の担当教諭で、特に学校図書館に造詣の深い4名(備前支部2名、備中支部2名)に審査をお願いした。

事務局から応募点数・審査基準などの説明・確認をした後、指定読書・自由読書の順に審査を行った。応募作品の対象図書を手元に用意し、作品と参照しながら対象

図書の表紙や挿絵の引き写しなどが無いが、対象図書が「募集要項」に適合しているかなどを確認した。自由読書の応募作品の中で、映画やTVドラマになって映像が流布している図書を対象にしたものについても、映画ポスターや広告の画像・インターネットで手に入る画像を可能な限り入手して厳正かつ慎重に審査を行った。

その結果、自由読書2点、指定読書1点、計3点の最優秀作品を決定し、中央コンクールに出品することができた。

入賞作品数

	自由読書	指定読書
最優秀	2点	1点
優 秀	2点	3点
入 選	10点	3点

○審査概評・今後の課題

審査の先生方から以下の講評をいただいた。

- ・今年指定読書の部の出品が増え、しかも優秀な作品が多くとても喜ばしいことであった。
- ・今年指定図書は読みやすい本であったことも出品数の増加に影響していると思われる。今後もそのような図書選定を全国SLAにはしてもらいたい。
- ・上位の作品はどれもよく描けていて甲乙付けがたく審査が難しかった。感想画は本を読んで心に湧いてきたイメージを絵で表現するという、面白いジャンルでもある。多くの学校に宣伝して、より多くの生徒が出品するようになることを願う。
- ・今回は指定と自由の両方に出品した生徒もいた。それも可能なので、ぜひ積極的に応募して欲しい。
- ・絵の力に感心し、楽しく審査ができた。本の内容をしっかり読み取って、自分の中でイメージを膨らませて描いていることが伝わってきて嬉しかった。感想画コンクールは良い取り組みである。
- ・アニメのような描き方の作品は上手でも優秀作品には選ばれにくい。指導する上で気を付けてほしい。
- ・応募校がもう少し増えてほしい。中央コンクールや県コンクールで選ばれた作品を県内の各校に紹介して、先輩の作品をモデルとして取りかかれるようにすることも広報活動としてやってみてはどうだろうか。

第28回読書感想画岡山県コンクール最優秀作品
小学校低学年【指定読書の部】



「ペンギンみつけたよ」



「くじゃくがどうぶつえんから
にげだしたよ」

小学校低学年【自由読書の部】



「ケムリンさんとダンスパーティー」



「ぞうのエルマー エルマー友だちいっぱい」

小学校高学年【指定読書の部】



「届け、うろこの光」



「夕日とクジラ」

小学校高学年【自由読書の部】



「ジャガーがねむるジャングル」



「ぼくのうろこ知ませんか？」

中学校【指定読書の部】



「愛情と信頼」



「昔から今」

中学校【自由読書の部】



「ノーチラス号から見た未知の海」



「あの日々をもう一度…」

高等学校【指定読書の部】

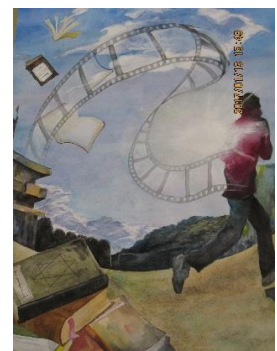


「抵抗」

高等学校【自由読書の部】



「波打つ心を瓶に入れて」



「飛翔」

絵 本 研 究 部 会

1. 平成 28 年度の活動状況

本年度は 22 年度から続けている「心をつなぐ絵本」というテーマで特に「昔話絵本」を中心に研究を進めました。

研究部会では新刊絵本を中心に幼稚園から高等学校までの実践報告を持ち寄り、報告し合いました。

また、1 つのお話に対する昔話絵本の読み比べを行い、昔話の魅力について考え、話し合いました。

紹介文研究も引き続き進めており、毎年発行している「読み聞かせたい絵本」は No33 を発行・配布しました。

2. 研究部会絵本研究部会設置要綱

(1) 設置について

岡山県学校図書館協議会規約第 4 条 2 項により、絵本研究部会を設置する。

(2) 目 的

この部会は、絵本の指導のあり方を研究し、児童・生徒・父母の読書活動を促進する。

(3) 活 動

①毎月に関く部会で、研究する内容

- ア. 絵本の見せ方・選び方
- イ. 絵本の読ませ方・読み聞かせのあり方
- ウ. 絵本作りのあり方
- エ. その他 絵本研究のための必要な活動

②研究成果の発表

- ア. 各郡市地区事務局を通じての内容紹介
- イ. 研究収録への収録
- ウ. 研究大会での発表
- エ. その他 絵本実践を推進するための発表

(4) 構 成

① (部員の委嘱)

部員は、地区組織を通して募集し、会長が委嘱する。

② (部員数)

部員の人数は約 10 名とし、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭・司書を含める。

3. 平成 28 年度絵本研究部会委員

(敬称略 順不同)

部会長	高田 恵子	岡山市立馬屋下小学校長
事務局長	勝浦 由子	岡山市立加茂小学校教諭
研究員	六車 美加	岡山大学教育学部附属幼稚園教諭
〃	篠 崇敏	岡山市立吉備西幼稚園教諭
〃	枝松 尚美	岡山市立高島小学校教諭
〃	難波 真	倉敷市立南中学校教諭
〃	遠藤 裕美	倉敷市立南中学校教諭
〃	山本 泉	岡山市立後楽館高等学校教諭
〃	高槻 美保	岡山県立総社南高等学校教諭
〃	岡部 香	岡山県立倉敷商業高等学校

4. 今後の取り組み

来年度も「昔話絵本」を中心に研究していく予定です。

平成 29 年度に開催される県大会に向けた 1 年として、「わたしたちのおすすめの昔話ベスト 10」というテーマの元実践を重ねていきます。子どもたちがよりよい絵本と出会えるよう、得られた情報をより多くの教育現場で実践にかけていただくために、紹介文研究も引き続き進めていきます。

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会では、「心をつなぐ絵本」という研究テーマのもと「昔話絵本」を中心に研究と実践を続けてきました。研究を通して確認された絵本と新しく出会った絵本の中から、読み聞かせたい絵本をお知らせします。

書名	著者	出版者	価格	出版年	実践学年
----	----	-----	----	-----	------

みんなから みえない ブライアン

トルーディ・ラドウィッグ作 くもん出版 ¥1,400

さくまゆみこ訳 2015 小高～高

ブライアンは絵を描くのがとっても上手で優しい男の子ですが、クラスの中ではまったく目立ちません。だから、休み時間もお昼のお弁当の時も、みんなの輪に入れません。でも、ある日、転校生のジャスティンと友だちになることができました。どうやって友だちになることができたのでしょうか？

もう ぬげない

ヨシタケシンスケ作 ブロンズ新社 ¥980 2015 幼～高

服が脱げなくてジタバタする「ぼく」。インパクトのある表紙に、まずはクギツケ。「できもしないのに」は大人の論理。子どもには子どもの言い分があるのです。オチも必見。ほのぼのとした絵に心癒されます。

あかにんじゃ

穂村弘 作 木内達朗 絵 岩崎書店 ¥1,300 2012 幼～高

赤忍者は、なんと全身真っ赤っかの忍者です。そう、目立っちゃいけないのに、とっても目立ってしまう忍者なのです。赤い色が災いして毎回窮地に立たされるため、得意の変身の術でいろんなものに変身しますが……。テンポのよい文章とオシャレな絵で、最後のページまで楽しめます。

かさじぞう

瀬田貞二 再話 福音館書店 ¥900 1966 幼～高
赤羽末吉 画

絵本を開けると、その中にまた絵本を開いたような構図の挿絵が、ぐっと昔話の世界に誘い込みます。純朴で優しいおじいさんとおばあさんの人柄が伝わるような会話、方言の残るやわらかな語り口が心地よく、絵本を閉じた後も、心にあたたかく残る作品です。

くわずによぼう

稲田和子 再話 福音館書店 ¥900 1980 幼～高
赤羽末吉 画

よく働いて、飯をくわない女房がほしい—そんな欲張り男の所へ、本当に飯を食わない嫁が来ました。女房のほどいた髪の間から大きな口がざくっと出てくる場面など、見事に構成された画面が読者を昔話の世界に引き込みます。力強い語り口も手伝って、しとやかな女房の態度が一変して、握り飯をがつつ食らう場面も爽快です。昔話の持つ迫力が詰まった一冊です。

かちかちやま

小澤俊夫 再話 福音館書店 ¥1,200 1988 幼～高
赤羽末吉 画

爺さんに捕らえられた狸が、縄をほどいて婆さんを殺してしまいます。狸は「ばあ汁」をこしらえ、だまして爺さんにそれを食べさせてしまいます。婆さんを喰ってしまった爺さんが嘆いていると、兎が仇をとってくれます。これは人間が自然と対峙するお話です。自然と共存していた頃の生きるか死ぬかのリアリティと、その残酷ともいえる命の在りようが画面に溢れ語られています。

うごいちやだめ

作 エリカ・シルヴァマン アスラン書房 ¥1,500

絵 S. D. シンドラー

2011 幼～小中

訳 せな あいこ

泳ぎが得意なあひると飛ぶことが得意ながちょう。2羽の鳥がチャンピオンの中のチャンピオンを決めるために選んだのが「うごいたらまけ競争」。蜂が来ても、ウサギにいたずらされても、動かないあひるとがちょう。そこへやってきたのが2羽を食べようとする1匹のキツネ。うごいたらまけ競争の結果は？最後までハラハラドキドキ、楽しい1冊です。

むねがちくちく

長谷川集平 作・絵 童心社 ¥1,400 2015 小中～小高

私は「リリちゃん」と動物園の前で待ち合わせ。ところが、リリちゃんは水族館の前で待っていたのです。ほんの少しの行き違いで、一日悲しい気持ちになってしまった私、腹を立ててしまったリリちゃん。誰にでもありそうな小さなけんか。次の日二人は？

たべてあげる

ふくべあきひろ文 教育画劇 ¥1,500 1996 幼～小低

おおのこうへい絵

「ピーマンいやだ。」嫌いな食べ物があつて困っていると、「たべてあげる」と現れたのが小さなりょうたくん。小さなりょうたくんは、何でも代わりに食べてくれます。次第に、小さなりょうたくんはりょうたくんのきらいじゃないものまで食べていき、どんどん大きくなり、ついに……。少し怖いけど、とってもおもしろい絵本です。

とんでもない

鈴木のりたけ作・絵 アリス館 ¥1500 2016 幼～高

ぼくは、サイの立派な鎧のような皮がうらやましい。でも、サイは「とんでもない。」サイはウサギがうらやましくて……。クジラ、キリン、鳥、ライオン、みんな自分にはよく見えるけれど、あったらあったで大変。リアルでコミカルな絵にも心ひかれます。

とべバッタ

田島征三 作 偕成社 ¥1,400 1988 幼～小高

天敵におびえて隠れ住んでいたバッタ。そんな一匹のバッタが一大決心をして大空に向かってはばたいたとき、自分の持っている力に気付き、新たな世界を知ります。繊細で迫力ある絵、力強い言葉、何よりバッタの勇気や自分を信じる気持ちに思わず引き込まれます。

まあちゃんのながいかみ

たかどのほうこ作 福音館書店 ¥900 1995 幼～小低

まあちゃんはおかっぱの元気な女の子です。でも、髪をうーんと伸ばすつもり。なぜなら、ながい髪で次々と楽しいことができるからです。たとえば、髪の毛でソフトクリームを作ります。他には、いったいどんなことができるのでしょうか？わくわくしながら、読み進められる本です。

バナナじけん

高畠那生 作 B L出版 ¥1,300 2012 幼～小高

バナナじけんって、どんな事件？「あ、くるまからバナナがひとつおちましたよ」から始まるこのお話は、3匹の動物たちが食べる・滑る・載せるを繰り返す、何ともいえないおかしさのあるナンセンス絵本です。最後に登場する運転手さんの表情にも注目してくださいね。

おばあさんのしんぶん

文・絵 松本春野 講談社 ¥1,300 2015 小高～高
原作 岩國哲人

戦争で田舎に疎開してきたてつおが、新聞配達を始めた理由は……。てつおの素直さ、おばあさんの優しさが伝わってきて、心が温かくなります。絵のタッチも柔らかく、人とのつながりを改めて感じさせる絵本です。

優良図書研究会

1 活動内容

当部会では、5月、6月、8月、10月、11月、2月の年6回、県立図書館の御協力において、新刊図書の中から、小学校・中学校の児童・生徒のための「おすすめの本」を選定しています。

研究員は、小学校（低学年・中学年・高学年）と中学校の4グループに分かれ、下記の選定基準に沿って、また、過去の傾向や、価格面、ページ数、字の大きさなど、いろいろと配慮しながら、それぞれのグループで意見交換した上で選定作業（書評の記入等）をすすめています。

ただ、インターネットの利用拡大に伴い、本の現物が少なくなっている現状もあります。そのため、選定月により新刊本の出版数に多い少ないがあり、また、学年によっては、分類が偏る傾向があるなど、年間を見通した選定も必要となります。

長期休業中を利用して、児童・生徒に「こんな本を読んでもたらどうですか」と、お勧めの本も紹介しています。このお勧めの本は、読書感想文のための本とは限らず、各学年に応じて、読んでおいてもらいたいなどという本の最新刊をそれぞれ選定しています。

これは、それまでの各月の選定図書の中から選ばれ、夏休みと冬休み前に、県下の小・中学校に「みなさんにすすみたい本」として、本の書評をつけて、配布しています。（カラー版ではないのが残念ですが・・・）

これらの本は、岡山県青少年保護育成条例に基づく推薦図書の中にも入れられ、「岡山県公報」に載せられて広く紹介されています。

岡山県青少年読書感想文コンクールでは、岡山県独自のものとして、昭和55年から指定図書を設けていますが、ここでも、当部会の選定図書をもとに、毎年3月、岡山県指定図書選定委員会が県立図書館にて開かれ、優良図書として選定された本の中から、小学校低・中・高学年・中学校向けに、3冊ずつを選んでいきます。

この研究部会の活動が、県下の小・中学校の児童・生徒の読書、先生や保護者の方々の読書指導の道標として、今後も、より効果的に機能するように活動していきたいものです。

2 選定基準

1 内容事項

- (1) 教育課程によく合っていて、その内容を豊かにするものであるかどうか。
- (2) 子どもたちが、興味をもって読め、小（低）、小（中）小（高）、中学生の発達段階に合ったものであるかどうか
- (3) 分かりやすく、正確で、現代の進歩に応じてい

るかどうか。

イ) 統計は正確で、調査年度、出典が正確であるかどうか。

ロ) より新しい知識であり、新研究であるか、新しい方法であるかどうか。

ハ) 事実の叙述は、科学的に正確で、実地的であるかどうか。

ニ) 引用文、挿し絵、写真、図表などは、正確、鮮明、適切であるかどうか。

ホ) 翻訳は原意を伝え、分かりやすく、原著者、年代、原著書が明記されているかどうか。

ヘ) 断片的な知識でなく、体系的にまとまりのあるものであるかどうか。

(4) 主題を単に解説したものはとりあげない。

2 編集・出版事項

(1) 短編集は採用しない。

(2) 多くの合さんのものは採用しない。

(3) 新刊書であること。

(4) 辞典、事典類は採用しない。

(5) シリーズ全巻を対象としない。

3 図書群の構成事項

(1) 特選図書全体を通して、ある分類ばかりに片寄り過ぎない。できるだけ広い分野で考慮する。

(2) 小（低）、小（中）、小（高）、中学生向けのバランスを考慮する。

4 装丁・体裁事項

(1) 製本、外観、大きさが適切で、書體的体裁が整っているか。

(2) 用紙は上質、印刷は鮮明、色彩は美しく、字の大きさ及び行間の余白が適切であるか。

3 優良図書研究会部員

部会長 高田 恵子 岡山市立馬屋下小学校長
部会事務局長 勝浦 由子 岡山市立加茂小学校教諭
<部会員>

小学校の部

木下 由布子 岡山市立興除小学校教諭

大谷 彰子 岡山市立豊小学校司書

小川 薫 岡山市立芳田小学校教諭

松本 由美 岡山県立図書館主事

稲田 智恵 岡山市立岡山中央中学校教諭

中学校の部

高島 智恵子 岡山市立上道中学校司書

片岡 史昭 岡山市立福浜中学校教諭

虫明 涼子 倉敷市立水島中学校教諭

川井 益美 倉敷市立多津美中央中学校教諭

みなさんにすすめたい本

平成28年 7月
岡山市教育委員会
岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい夏休みがやってきます。新しく発行されたたくさんの本の中から、みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方に選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることになります。

しょうがっこう ていがくねん む
小学校低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
913	間瀬 みか	森ねこのふしぎなたね	ポプラ社	68 ページ・1080 円

あなたのまわりのもので、木でできているものはありますか。森ねこがくれるふしぎなたねは、のせるだけで小さな森をつくることのできるようです。さて、どんなものから森がつくられていくのかたのしみですね。



E	エリック・カール	いちばんのなかよしさん	偕成社	25 1512
---	----------	-------------	-----	------------



この本の表紙の二人。なかよしでしょ。ぎゅっとだきあって、何をお話しているのかな。二人だけのひみつのやくそくでしょうか。あなたのなかよしさんはだれ。なかよしさんといっしょなら、いつだってたのしいですね。

913	花田 鳩子	わすれものチャンピオン	PHP 研究所	79 1188
-----	-------	-------------	------------	------------

あなたはわすれものをよくしますか。ひろきくんは友だちとチャンピオンをあらそうくらいのわすれんぼうです。ひろきくんは、図工の時間にクレヨンをわすれてしまって、大あわて。クレヨンがない！ひろきくん大ピンチです。どうなるのでしょうか。



小学校中学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
916	佐伯 元子	天井からジネズミ	学研教育出版社	144 ページ・1404 円

七月の暑い日、作業所の天井から、ぼとりと落ちてきたのは、わずか三センチの小さな「ジネズミ」でした。動物好きの作者が、いろいろ工夫しながら小さな命を2年間守り育てていく感動ノンフィクションです。



913	小手鞠 るい	シナモンの おやすみ日記	講談社	92 1296
-----	--------	-----------------	-----	------------



フライトアテンダントのさやかママが NY のお土産にくれた日記。ページを開くと、すみにねこがかいてある。そのねこは、2年前にいなくなったシナモンにそっくり。なつみは毎晩日記を書きました。すると、その日記に返事が…。一体だれが返事を書いたのでしょうか。心温まる一冊です。

619	森枝 卓士	干したから…	フレーベル館	31 1512
-----	-------	--------	--------	------------

干した食べ物って何があるかな？ほししいたけは浮かぶかな？野菜、肉、魚、いっぱいあるよ。日本だけでなく世界中のビックリするような食べ物、干すことのふしぎとその目的と一緒に紹介されています。



913	山本 省三	脱走ペンギンを 追いかけて	佼成出版社	96 1404
-----	-------	------------------	-------	------------



広太は、小笠原から東京に転校し、新しい暮らしになじめないでいました。ある日、近所の水族館からペンギンが脱走したニュースを見ました。ひとりぼっちのペンギンを自分と重ね、心配になった広太は、ペンギンを探しはじめました。

小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
916	山本省三	深く、深く掘りすすめ！ 〈ちきゅう〉	くもん出版	128ページ・1512円

「ちきゅう」とは、世界に誇る日本の地球深部探査船の名前です。高さは30階建てのビル、長さは列車10両分。目指すは地下1万メートルの地球のマントルです。「ちきゅう」誕生までの秘話や東日本大震災の解明への道のりなどのエピソードも満載。



913	むくげ 権 なほ	ガラスのベーゴマ	朝日学生新聞社	207・1296
-----	----------	----------	---------	----------



小学5年の蓮人は、弟あおいのぜんそくを治すためお父さんの故郷で暮らすことになる。そこは、70年前の海軍航空隊遺跡が残り、町は空襲で焼け野原になったのだという。新しい町になじめなかった蓮人だが、新しい友だちと友だちのひいおじいさんとの出会いで町になじみ、戦争のことも自分の身近なものとして感じるようになる。

916	高野 祐太	〈10秒00の壁〉を破れ！	講談社	190・1296
-----	-------	---------------	-----	----------

最も速い人間を決める男子100メートル競走。日本では未だに10秒00のタイムが破られていません。今、その記録に最も近づいている若きライバル同士の山縣選手と桐生選手。その挑戦の日々をつづっています。オリンピック年にぴったりです。



933	エリザベス・レアード	世界一のランナー	評論社	197・1566
-----	------------	----------	-----	----------



走ることが大好きなエチオピアの11歳の少年ソロモンは、世界一のランナーになることが夢です。ある日祖父の秘密を知り、事件が起きます。不安や失敗を重ねる少年の葛藤に共感します。祖父と友との絆が感動的です。

中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
916	八東 澄子	ちいさなちいさな ベビー服	新日本出版社	155ページ・1512円

早産などで、生まれてすぐに亡くなってしまふ赤ちゃんがいます。医療大国と言われる日本でも、悲しいことに何人かはいるのです。そんな小さな赤ちゃんに合う、小さなベビー服をつくるというボランティア活動をしている倉敷中央病院の「グリーンはあと」。作家・八東澄子さんがこのグループを取材し、実際に体験したことを描いたノンフィクションです。



933	ダイアナ・ウィン・ジョーンズ/作 アーシュラ・ジョーンズ/作 田中 薫子/訳	賢女ひきいる魔法の旅は	徳間書店刊	320 1836
-----	--	-------------	-------	-------------



強い力を持つ“守護獣”が国を守り、不思議な力と多くの知識を持つ“賢女”が活躍する世界。見習い賢女衛リーンは、ベック叔母さんとともに大王様の極秘任務を受けて、極秘の旅に出ることに！？作者ダイアナ・ウィン・ジョーンズさんは、『ハウルの動く城』の原作者でもあり、「ファンタジーの女王」と呼ばれた人です。

913	石川 宏千花	墓守りのレオ	小学館	190・1404
-----	--------	--------	-----	----------

墓地で犬のバーソロミューと暮らす黒髪の少年レオ。孤独な少女や悪に手を染めた大学教授の魂を救っていく。3編の物語がそれぞれ謎に満ちていて、驚きの結末が用意されている。死後の世界に興味ある人にもおすすめ。



916	城島 充	義足でかがやく	講談社	190・1296
-----	------	---------	-----	----------



表紙には、陸上トラックの上で肩を組んで笑っている3人の子どもの写真が使われている。足を失っても自分達の夢に向かって前向きに努力を続ける子ども達と、それを支える義肢装具士臼井二美男さん達の活動の記録。

みなさんにすすめたい本

平成28年 12月
岡山市教育委員会
岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい冬休みがやってきます。新しく発行されたたくさんの本の中から、みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方に選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることになります。

しょうがっこう ていがくねん む
小学校低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
E	瀧上 サトリーノ	ねこの看護師ラディ	講談社	32 ページ・1620 円

ラディがどうぶつほごしせつにやって来たときは、きずつきやせ細っていました。じゅういさんも「ラディはもう生きられない。」と思っていました。でも、三ヶ月後、ラディはきせきのように元気になりました。そして、ラディのきせきはそれだけではなかったのです。ラディは人間の心にきせきをおこします。



E	くすのき しげのり	ぼくのにいちゃん すごいやろ!	えほんの杜	32 1296
---	-----------	--------------------	-------	------------



ぼくのおにいちゃんは4年生。いつもえらそうに話をする。そして、かっこわるい。おとうととして、はずかしいと思っていた。だけど、いじわるな二人組の6年生に立ちむかっていくおにいちゃんのすがたを見て…。

913	佐藤 まどか	日がさ 雨がさ くもりがさ	フレーベル館	80 1080
-----	--------	---------------	--------	------------

マミちゃんってわがまま！未央はなかよしのマミちゃんとかんかをしてしまい、心の中はすっきりしません。外の天気もどんよりくもり空。そんな未央の前にふしぎなかさのしゅうりやさんが、心にきく「くもりがさ」をかしてくれました。未央の心は晴れるのでしょうか。



小学校中学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
486	館野 鴻	つちはんみょう	偕成社	40 ページ・2160 円

ツチハンミョウの幼虫は、生まれてすぐにコハナバチの体にとりつき旅をする。寿命は4日。その間に寄生先のヒメハナバチの巣にたどり着かなければ生き残れない。こんな生き方をする虫がいたのかとビックリ。生態調査に8年も費やし、すばらしい挿絵で描かれた絵本です。



913	くすのき しげのり	三年一組、春野先生!	講談社	126 1404
-----	-----------	------------	-----	-------------



勉強なんてきらい。いつも先生におこられてばかりのぼく。でも、急に学校を休むことになった担任の先生の代わりに、3週間だけやってきた春野先生に出会ってから、ぼくは変わりはじめた。それは、ぼくにとって本当にミラクルなことだったんだ。

E	パトリシア ポラッコ	がらくた学級の奇跡	小峰書店	48 1620
---	------------	-----------	------	------------

新しい学校で、新しい友だちをつくろうと胸をふくらませるトリシャ。そこで彼女はピーターソン先生や個性豊かな仲間たちと出会います。自分たちのすばらしい才能に自信をもつようになった奇跡をぜひ読んでみてください。



913	茂市 久美子	アンティーク・シオンの小さなきせき	学研プラス	155 1512
-----	--------	-------------------	-------	-------------



人があまり行かないような林の中、ひっそりと骨董品のお店“アンティーク・シオン”が建っています。お店にはご主人のシオンさんが、世界各地で出会った品物が並べられています。このお店で起こる、不思議で心あたたまる6つのお話です。

小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
E	山本 美香	これから戦場に 向かいます	ポプラ社	50ページ・1728円



2012年シリアで取材中銃撃され、亡くなった作者の写真集。子どもを中心に弱い立場の者にいつくしみのまなざしを向け、一方でリアルな戦争の恐ろしさを描き出している。使命感にあふれた文にも心うたたれる一冊。

913	嘉成 晴香	セカイヲカエル	朝日学生 新聞社	213・1296
-----	-------	---------	-------------	----------

突然転校したアヤは、タイムスリップして20年前の世界に行く。残されたレンは、身近に起こったいじめ問題に立ち向かう。一年間離れて生活した二人の少年がたどった、それぞれの成長を描いた物語です。



913	久保田 香里	駅鈴 (はゆまのすず)	くもん出版	347・1728
-----	--------	-------------	-------	----------



奈良時代の通信は、馬を乗り換えリレーして伝達されていました。小里は幼い頃から駅子にあこがれています。大伴家持など実在の人物も登場し、さまざまな困難を乗り越えて、成長していく少女の姿を描き、一気に読ませます。

494	臼井 二美男	転んでも、大丈夫	ポプラ社	188・1296
-----	--------	----------	------	----------

義手や義足を作る仕事をする著者は、何十年もかけ、一人一人の痛みや不安によりそいながら、心身ともに患者さんを支えています。そんな著者と夢や目標をあきらめず一生懸命生きる人々から、力をもらえる一冊です。



中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
913	草野 たき	Q→A	講談社	244ページ・1512円

あさこ、せいじ、まさえ、ゆり、よしみ
朝子、征児、雅恵、由里、義巳の五人は中学三年生。彼らはそれぞれの質問(Q)に出会い、回答する。そして、卒業間際にたどり着いた答え(A)は一。お互いに少しずつ影響を受けつつ、成長していく等身大の姿が描かれています。最後の「A」に前向きな気持ちになれる一冊です。



913	今関 信子	大久野島からのバトン	新日本出版社	222・1944
-----	-------	------------	--------	----------



YMCAの活動で大久野島に来た香織と清海は、毒ガス資料館の元館長だった柳沢進一さんと出会い、14歳で毒ガス作りに加わった体験談を聞く。「消されようとする歴史」を掘り起こし、反戦の思いを強くする二人の成長の物語が描かれている。

913	千葉 朋代	さくら坂	小峰書店	152・1512
-----	-------	------	------	----------

主人公・美結はかわいい普通の高校生でした。自慢は“長い脚”。しかし、突然の病に倒れ、16歳の少女にとっては残酷すぎる「人生の選択」を迫られることとなります。「より良く生きる」ってどういうこと？病気が治ったあかつきにしたいことは？大きな手術を経た後でも、それはできるか？全力で自分の命と向き合おうとする美結の強さが感じられる本です。作者・千葉さんは看護師で、その経験がこの作品の執筆にも活かされています。



指定図書選定委員会

平成29年3月3日(金)、岡山県立図書館において、指定図書選定委員会を開き、平成29年度第63回青少年読書感想文岡山県コンクールの「県指定」図書を選定した。

指定図書選定委員

県SLA会長	福田 邦男	岡山県立倉敷古城池高等学校長
副会長	高田 恵子	岡山市立馬屋下小学校長
〃	門田 正充	岡山市立岡輝中学校長
小教研事務局長	勝浦 由子	岡山市立加茂小学校
小教研事務局長	山根和佳子	岡山市立馬屋下小学校
中教研事務局長	永守 志帆	岡山市立上南中学校
中教研事務局補佐	金田 益美	岡山市立山南中学校
県SLA事務局長	末吉美加子	岡山県立倉敷古城池高等学校
アドバイザー	三宅 健夫	県教育庁義務教育課指導主事(主幹)
選定委員	木下 由布子	岡山市立興除小学校
〃	大谷 彰子	岡山市立豊小学校
〃	小川 薫	岡山市立芳田小学校
〃	松本 由美	岡山県立図書館
〃	高島 智恵子	岡山市立上南中学校
〃	川井 益美	倉敷市立多津美中学校
〃	片岡 史昭	岡山市立福浜中学校
〃	虫明 涼子	倉敷市立水島中学校
〃	稲田 智恵	岡山市立岡山中央中学校

岡山県指定図書について

- 1 内容

読書感想文コンクールの自由読書と課題図書の他、岡山県独自の応募区分「県指定」を設ける。
- 2 目的
 - (1) 岡山県の状況に応じた読書普及を推進する。
 - (2) 何をどう読ませるか、図書の選択や読書指導の手がかりにする。
 - (3) よりよい図書をより多くの子どもたちに読ませ、読書生活を豊かにさせる。
 - (4) 岡山県優良図書選定委員会の選定した図書の有効活用を図る。
- 3 方法
 - (1) 岡山県指定図書は、指定図書選定委員会を設けて協議し、決定する。
 - (2) 岡山県学校図書館協議会優良図書研究部会の選定した図書などから選定する。
 - (3) 冊数は、小学校低学年3点、小学校中学年3点、

小学校高学年3点、中学校3点とする。

4 その他

- (1) 字数、用紙、応募作品、出品数、締め切り、送付先、審査、その他の注意事項については、他の区分の応募要項に準ずる。
- (2) 全国コンクールの応募については、自由読書と一緒にして再度審査し、規定どおり出品する。
- (3) 岡山県指定図書は、昭和55年度(第26回)から設けている。

平成28年度岡山県指定図書(県指定)

小学校低学年	<p>『ぼくは、チューズデー』 ルイス・カルロス・モンタルバン (ほるぷ出版)</p> <p>『あっ!みーつけたっ!!』 くすのき しげのり(光村教育図書)</p> <p>『にゃんともクラブ』 竹下 文(小峰書店)</p>
小学校中学年	<p>『なかよしヤギー家のECOプロジェクト』 深山 さくら(佼成出版社)</p> <p>『おばけ道、ただいま工事中!?!』 草野 あきこ(岩崎書店)</p> <p>『あたし、アンバーブラウン!』 ポーラ・ダンジガー(文研出版)</p>
小学校高学年	<p>『幸せとまずしさの教室』 石井 光太(少年写真新聞社)</p> <p>『ニレの木広場のモモモ館』 高樓 方子(ポプラ社)</p> <p>『ひみつの校庭』 吉野 万理子(学研プラス)</p>
中学校	<p>『渋谷ギャル店員ひとりではじめたアフリカボランティア』 栗山 さやか(金の星社)</p> <p>『白をつなぐ』 まはら 三桃(小学館)</p> <p>『ウソつきとスパイ』 レベッカ・ステッド(小峰書店)</p>

平成28年度 岡山県学校図書館協議会事業報告

	実施事項	期 日	会 場	内 容
5月	新旧代表役員会及び研修会	5/12(木)	倉敷古城池高等学校	・役員の確認 ・総会提出議案の協議
	第1回司書部会理事会及び研修会	5/20(金)	倉敷古城池高等学校	・学校司書実態調査について ・倉敷大会について ・各地区情勢報告
6月	第67回総会及び研修会	6/9(木)	ライフパーク倉敷	・平成27年度事業・決算報告 ・平成28年度事業計画・予算案
	第1回支部事務局長会議及び研修会	6/23(木)	倉敷古城池高等学校	・総会議決事項報告 ・事務連絡 他
7月	平成28年度岡山県学校司書研究協議会	7/28(木)	水島愛あいサロン・ 倉敷市環境学習センター	・全体会、分科会、交流会 その他
9月	第2回司書部会理事会及び研修会	9/14(水)	倉敷古城池高等学校	・研究協議会(倉敷大会)報告について ・平成29年度研修会について
	読書感想文コンクール審査準備会及び研修会	9/30(金)	上南中学校	・小中の感想文仕分けと審査準備
10月	読書感想文コンクール第1回合同審査会	10/6(木)	倉敷古城池高等学校	・審査日程・審査基準について
	読書感想文コンクール第2回審査会	10/25(火)	馬屋下小学校	・小中高別の審査
		10/25(火)	上南中学校	
		10/25(火)	総社高等学校	
12月	読書感想文コンクール最終校正会議	12/1(木)	倉敷古城池高等学校	・「読書感想文集2016」最終校正
	読書感想文コンクール表彰式及び研修会	12/15(木)	岡山県立図書館	・表彰式
	第3回司書部会理事会及び研修会	12/7(水)	倉敷古城池高等学校	・平成29年度研修会について ・学校司書実態調査について ・各地区情勢報告 他
1月	第2回支部事務局長会議及び研修会	1/12(木)	倉敷古城池高等学校	・平成28年度事業中間報告 ・事務連絡 他
	読書感想画コンクール審査会	1/13(金)	大野小学校	・小中高別の審査
		1/13(金)	石井中学校	
2月	代表理事会及び研修会	2/16(木)	倉敷古城池高等学校	・平成29年度総会提出議案の協議
3月	指定図書選定委員会	3/3(金)	岡山県立図書館	・平成29年度青少年読書感想文岡山県 コンクールの県指定図書の選定
	第4回司書部会理事会及び研修会	3/6(月)	倉敷古城池高等学校	・平成29年度研修会について ・学校司書実態調査について ・各地区情勢報告 他

平成28年度 岡山県学校図書館協議会支部協議会事業報告

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
岡山	第1回 正・副会長研修会	5月17日(火)	建部小学校	・平成27年度事業報告・決算報告 平成28年度事業計画・予算案等	6名
	総会並びに第2回区別研修会	5月31日(火)	御津文化センター	【総会】 ・平成27年度事業報告・決算報告 平成28年度事業計画・予算案 【区別研修会】 ・第1回区別研修会(情報交換・読書感想文コンクール審査会日程調整)	173名
	第1回 研究部会	6月28日(火)	岡輝中学校	・今年度の活動内容について	12名
	第1回 理事研修会	6月28日(火)	建部小学校	・第62回読書感想文コンクール 岡山市一次審査に向けて	20名
	第2回 研究部会	7月5日(火)	岡輝中学校	・全体研修会に向けて	13名
	全体研修会並びに第2回区別研修会	7月29日(金)	御津文化センター	【全体研修会】「学校における読書活動の推進」 岡山市教育委員会 指導課 指導副主査 森 祐子先生	178名
	第62回岡山市読書感想文コンクール 第一次審査会(区)	9月6日(火)	北1区 伊島小学校		39名
		9月6日(火)	北2区 石井中学校		28名
		9月6日(火)	中区 操南公民館	・岡山市2次審査に出品する作品の選考, 入賞者作品名簿の作成	26名
		9月8日(木)	東区 西大寺小学校	・各区の応募総数の確認, 二次審査の審査員の推薦	27名
		9月8日(水)	南区 芳田小学校		38名
	第62回岡山市読書感想文コンクール第二次審査会(市)	9月20日(火)	建部小学校	・岡山市学校図書館協議会会長賞(県出品)・協議会賞・入選作品の選考	33名
	第2回理事会研修会	11月22日(火)	建部小学校	・第2回区別研修会について・研究部について	29名
		2月8日(水)	北1区 伊島小学校	・研修会 (岡山市立灘崎小学校 校長 長瀬 尚樹先生)	
		1月31日(火)	北2区 石井中学校	・実践報告	
	第3回区別研修会	1月31日(火)	中区 操南小学校	・図書サービスと著作権の基礎について (県立図書館 職員 笠原 和美先生)	200名
2月7日(火)		東区 西大寺小学校	・実践発表		
2月2日(木)		南区 芳田小学校	・情報交換		
第3回 理事会研修会	2月16日(木)	建部小学校	・読書感想文集代金集金 ・各区別研修会の反省	11名	
第2回 正・副会長会	2月27日(月)	建部小学校	・平成28年度事業報告・平成29年度事業計画案	10名	
反省と課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・各区別研修会では, 研究に向けて実践報告をしたり, 研修をしたりすることができた。また, 事前に各区で会員の要望を聞いてから研修内容を計画するなど, ニーズに合わせた研修ができた。 ・研究については, 研究部員が少なく今後増やしていく必要がある。また, 計画的に研究部会を開催することができなかった。しかし, 総会では全校に向けて今年度の研究テーマを伝え, そのテーマに基づいた実践を各学校で行うことができた。 ・今年度は, 全体研修会の時間を十分に確保するため, 総会とは別日に開催した。 ・読書感想文の出品について, 書き方や文字数など細かい点も各校へ周知徹底ができていないことがあった。全体の中で, 細かいところまで伝えていく必要がある。 					
赤磐	赤磐市小中教研情報(図書館)部会総会	5月2日(月)	赤磐市立吉井中学校	前年度の事業報告・決算報告 今年度の事業計画・予算計画 役割分担 など	19人
	読書感想文審査会	9月13日(火)	赤磐市立軽部小学校	審査について 審査会 県佳作・入選作品について 読書感想文集の注文について など	19人
反省と課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・2年後の研究実践、3年後の研究発表について計画を立てていかないといけない。 ・学級担任や教科担任の読書感想文への指導力をどのように高めていくか。 					
和気	第1回和気郡学校図書館協議会研修会	4月28日(木)	石生小学校	○平成27年度の事業報告と平成28年度の事業計画について話し合った。	8人
	第2回和気郡学校図書館協議会研修会	7月29日(金)	藤野小学校 および山田小学校	○学校統廃合に向けて, 備品についての打ち合わせや, 図書館教育全体計画の見直しを行った。	10人
	和気郡読書感想文審査会ならびに研修会	9月12日(月)	本荘小学校	○読書感想文の審査を行い, 読書感想文への取り組み状況と課題について, 各校の実態をもとに, 話し合い, 研修を深めた。	10人
反省と課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・読書感想文審査会においては, 字数制限に満たない作品や, 超えている作品が複数あった。あらすじが大半を占めている作品も多かった。夏季休業前に各校で指導する機会がもてたらよい。また, 応募区分を間違えている作品があったため, 担任や審査員が再度確認する必要がある。 ・読書については, 学校で「朝読書」を実施したり, 読書週間を利用して「家読」を実施したりして, 本に親しむ場や機会を増やす取り組みを続けている。今後も続けていきたい。 					

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数	
備前	第1回 研修会	5月6日(金)	伊里中学校	○平成27年度事業報告、平成28年度の組織作り・事業計画作成 ○各校の情報交換		
	第2回 研修会並びに読書感想文コンクール審査会・研修会	小学校の部 9月13日(火) 中学校の部 9月13日(火)	神根小学校 日生中学校	○各校の読書指導情報交換 ○読書感想文の審査と反省		
	司書部会 第1回研修会	5月6日(金)	三国小学校	○平成27年度図書館活動報告 ○平成28年度学校図書館司書研修会の活動計画について ○おすすめの本の紹介		
	司書部会 第2回研修会	6月28日(木)	吉永小学校	○おすすめの本の紹介、○パネルシアターについて ○授業実践例及び資料提供リストについて ○図書館活動報告書保存と引き継ぎ書について		
	司書部会 第3回研修会	9月21日(木)	西鶴山小学校	○自己紹介 ○おすすめの本の紹介 ○共通理解事項について ○引き継ぎ事項について ○自主研修について		
	司書部会 第4回研修会	12月26日(月)	神根小学校	○移管図書選書 ○相互貸借、紙芝居、おすすめの本、部会の記録、県役員選出について ○情報交換等		
	司書部会 第5回研修会	2月23日(木)	日生東小学校	○進級業務伝達講習 ○活動報告書、紙芝居、おすすめの本、29年度部会について ○自主研修について		
	<p>反省と課題</p> <p><読書感想文審査会より></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実体験を多く書いていたが、本の内容とは離れてしまって感想文ではなくなっている作品があった。また、あらすじが多くを占め、自分の意見や感想に乏しい作品があった。 ○ 自分の考えを述べることで作品の内容に触れるバランスを指導する必要があると感じた。 ○ 改行が正しくできていない、一ます下げるところを上げていない、読点を一番上のますに書いている、縦書きなのに算用数字で書いている、誤字脱字がある、など原稿用紙の正しい使い方ができていないものがあった。 <p><司書部会として></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度途中で増員があり、14名となった。研修を高め、より一層実りある司書部会として、研修を各校に反映し、図書館活動及び児童生徒の読書活動を深めるように努めたい。 ○ 年度途中の増員の結果、備前市学校司書としての共通理解事項の伝達や研修事項の増加等、部会の重要性が増大した。今後、研修方法等を協議検討し、相互理解を深め、実践的な研修を積んでいく必要が求められている。 <p><委員会活動として></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 12月の人権週間に合わせて、文化委員会生徒が人権に関する絵本を基に紙芝居を作成し、各クラスで読み聞かせを行った。 ○ 文化祭に向けて、全校生徒と全教職員がおすすめの本の紹介カード(サイコロ型)を書き、展示した。図書館に掲示後、市内の小学校へ持っていく、掲示した。 ○ 隣接する小学校低学年に、文化委員会生徒が年2回読み聞かせを行い、読書の楽しさを伝え、小学生との交流を深めた。 <p><学校司書・ボランティアとの連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が普段手にしない本も紹介し、新しい本との出会いの場を提供できた。また、人権週間、給食週間、歯と口の健康週間など、学校行事とかかわりを意識し、他校や公立図書館などから本を収集できた。 ○ 低学年は、絵本を確実に読むように、音読聞き取りボランティアに音読を聞いてもらった。 <p><読書記録></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「1年間で100冊(1～3年)、5000ページ(4～6年)本を読もう」という読書記録と、学年別におすすめの本を30～50冊選定し、読書推進を行った。 ○ 学期末に、どの程度読書をしているのか、自分たちがどのようなジャンルの本を手にとっているかがわかる読書記録を作成した。このことにより、児童が自分の読書生活を振り返り、どのようなジャンルをよんでいないのか把握し、次に生かすことができた。 <p><家庭との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ だれと何分読んだか等を記入する「家族で読書！」カードを作成し、家族での読書を促した。また、家族で本の読み合いを行い、親子で読書に関するインタビューをし合う取り組みをした。 ○ 年2回の家族読書に取り組んだ。秋には、中学校合同で、養護教諭と連携し、ノーメディアでの家族読書を行った。 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度の反省をもとに取り組みを見直し、よりよい読書活動ができるようにと工夫をこらした取り組みが各校で実施されており、成果があがっているものも多い。 ○ 隣接の小中学校、家族、地域を巻き込んだ取り組みが増え、それぞれの立場から、読書を楽しむことができたという感想を得ることができた。こういう機会だけでなく、生活の中に読書の時間を根付かせていくには、さらに啓発していく必要がある。 ○ 高学年や中学校で、図書の時間確保が難しい、該当学年に合った本の選び方が難しくいつも決まった本ばかり読んでいる児童もいるなどの課題がある。 ○ おすすめの本は、児童にとって一定の指針にはなっているが、絶対的な読書量には個人差が大きく、全体的な底上げをする必要がある。 ○ 司書が増員され、児童が図書室へ足を運ぶ機会が増え、担任と連携しやすくなっている。毎週の図書の時間が充実したものになっている。今後も、司書と担任、また、家庭や地域のよりよい連携のあり方を探っていく。 					
瀬戸内	第62回岡山県青少年読書感想文コンクール瀬戸内市審査会・研修会	9月16日(金)	瀬戸内市中央公民館	読書感想文の審査と審査に係る研修等	17人	
	反省と課題 特になし					

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
玉野	玉野市学校図書館協議会代表者会	6月27日(月)	日の出ふれあい会館	・平成27年度支部事業・決算等報告 ・平成28年度支部事業・予算等計画 ・読書感想文コンクール実施計画	23名
	第61回青少年読書感想文コンクール支部審査会(小学校)	9月12日(月)	日の出ふれあい会館	・小学校低・中・高学年で各類ごとに審査	27名
	第61回青少年読書感想文コンクール支部審査会(中学校)	9月23日(金)	日の出ふれあい会館	・中学校各類ごとに審査 ・各学校情報交換と「おすすめの本」の紹介 ・学校図書館に関する調査についての研修 ・小学校部会・中学校部会に分かれての研修 他	16名
反省と課題 ・今年度から玉野支部の事務局が交代し、読書感想文集の入金事務において、県の事務局に大へんご迷惑をおかけした。来年度から同じようなミスが起こらないようにしたい。					
加賀	第1回研修会	5月9日(月)	加賀中学校	本年度の計画立案	14名
	第2回研修会	9月8日(木)	吉備中央町農業振興センター	読書感想文加賀支部出品作品の審査 読書感想文の書き方指導等についての研修	11名
反省と課題 ・今年度も、読書感想文の出品数や審査の方法について情報交換を行うことで、審査会をスムーズに行うことができた。 ・読書感想文の出品数は年々減少傾向にあるが、町全体では200点以上の応募があり、今後も児童生徒への読書推進や感想文コンクールへの参加を呼びかけていくことで共通理解している。					
倉敷	倉敷市学校図書館協議会第1回研修会	8月9日(水)	くらしき健康福祉プラザ プラザホール	○講演 講師 山畑 幸子 先生(明石市政策部政策室 本のまちづくり担当) 演題 「絵本いろいろ ～個性派絵本の可能性をめぐって～」	約150名
	倉敷市学校図書館協議会第2回研修会	2月16日(木)	くらしき健康福祉プラザ プラザホール	○実践報告 発表① 小林 智美 先生(倉敷市立琴浦南小学校) 小坂 純子 先生(倉敷市立上成小学校) 「学校図書館で使える資料作成と実践～図書のと時間と国語授業の充実～」 発表② 森分 信江 先生(倉敷市立児島中学校) 「調べ学習を円滑に進めるための学校図書館の役割～その方法と準備を考える～」 ○講演 講師 市坂 よし子 先生(倉敷市立南中学校 校長) 演題 「美しい日本語」	約140名(予定)
	司書部会	年8回	ライフパーク倉敷 倉敷市環境学習センター	7つの研究テーマに分かれて研修を実施 (選書、資料作成、環境整備、資料提供、調べ学習、マニュアル、学校図書館自己評価)	90名
反省と課題 ・今年度は研修会を2回計画した。第1回研修会では、講師の先生の図書館での勤務の時の体験と絵本の紹介のお話であった。特に「司書の仕事は人間相手と興味深いもの。十人十色様々な人の見方がある。」というお話は多くの司書の先生の励みになった。また個性派絵本をいろいろな手法を使って紹介していただき、絵本の世界に引き込まれていった。絵本の有効性について何うことができ、絵本の世界が広がった。 ・司書部会では、7つの研究テーマに分かれて研修を行っている。平成28年7月の岡山県学校司書研究協議会(倉敷大会)での発表にむけて研修をまとめていった。研修内容を各校での職務に有効に活かして、倉敷の司書のスキルアップ、図書館の充実を目指している。 ・第2回研修会は、岡山県学校司書研究協議会での発表から2つの分科会の実践報告を何うとともに「美しい日本語」と題して倉敷市学校図書館協議会会長である先生にご講演をお願いし、行う予定である。第2回研修会の日程は学校行事や受験シーズンと重なってしまい、やむを得ず欠席する教師も少なくない。開催日時は今後の課題である。					
浅口	中教研浅口支部学校図書館研究部運営委員会	5月2日(月)	里庄中学校	事業計画決定	6人
	小教研浅口支会学校図書館教育研究部運営委員会	5月2日(月)	金光小学校	主任選出、研究テーマ・事業計画立案	4人
	小教研浅口支会学校図書館教育研究部	5月9日(月)	金光小学校	研究テーマ・事業計画決定	10人
	小教研浅口支会学校図書館教育研究部夏季研修会	8月18日(木)	寄島小学校	講話 演題 「子どもたちの育ちと学びを豊かに」 ～すすんで利用される学校図書館をめざして～ 講師 岡山市立岡山中央小学校 学校司書 横山由美恵先生	14人
	読書感想文浅口支部審査会	9月15日(木)	六条院小学校	読書感想文支部審査	27人
反省と課題 特になし					

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
笠岡	笠岡市教育研修所 図書館教育 部会（小学校）	5月2日（月）	笠岡市立中央 小学校	○正副委員長の互選，研修テーマ，研修計画の決定 テーマ「読書意欲を高める指導と環境づくり」	25人
	笠岡市教育研修所 図書館教育 部会（中学校）	5月2日（月）	笠岡市立中央 小学校	○研修テーマと研修計画の決定 テーマ「豊かな心を育む学校図書館づくり」	14人
	笠岡市教育研修所 図書館教育 部会（小学校）	7月29日（金）	笠岡市立大島 小学校	○講話「読書意欲を高める指導と環境づくり」 講師 元岡山市学校司書 鹿野恵子先生	22人
	笠岡市教育研修所 図書館教育 部会（中学校）	7月29日（金）	笠岡市民会館 研修室	○「実になる本探し」 本・資料を持ち寄り、紹介、資料交換、話し合い	13人
	読書感想文コンクール支部審 査会	9月14日（水）	笠岡市立陶山 小学校	○読書感想文岡山県コンクールの支部審査	27人
	笠岡市教育研修所 図書館教育 部会（中学校）	11月9日（水）	笠岡市立金浦 中学校	○POPづくりに挑戦 図書館の本のPOPの作成の仕方を学び、実際に作成	6人
反省と課題 ・講話では、先進的な岡山市の学校図書館の様子を知ることができてよかった。 ・鹿野先生の実践をもとに、テーマに迫るためのお話を聞くことができた。特に、「授業との連携」では、担任と司書との連携が、計画と実践段階だけではなく、振り返りまで行うことで、次の連携の充実につながる参考になった。 ・「実になる本探し」では、それぞれが本や資料を持ち寄り、資料交換と話し合いを行った。ブックトークや多分野の本を知ることができ、有意義な時間を過ごすことができた。 ・POPづくりは、国語の研修会と日程が重なり、参加人数は少なかったものの、POPを作る際の配色の工夫の仕方や作るコツなど実践的な技術を学ぶことができた。					
小田	小田郡学校図書館協議会総 会 並びに研修会	7月1日（金）	矢掛町立 中川小学校	・27年度事業報告，決算報告 ・役員選出 ・28年度事業計画，予算 ・情報交換	12人
	感想文審査会	9月14日（水）	矢掛町立 中川小学校	読書感想文の支部審査会	10人
	郡読書感想文集作成	10月6日（木）	矢掛町立 中川小学校	郡内優秀作品を印刷・製本して各校へ配布し，指導に役立てるよう にした。	2人
反省と課題 ・各校に司書か週2日間来校するとき、学年ごとにブックトークや読み聞かせ等を学校ごとに工夫して取り組み、児童に好評であった。 ・学年相応の読書をすすめる指導の工夫が、今後も必要である。（特に保護者の協力を得ながら、家庭での読書の推進をいかに進めていくべきか） ・読書感想文の書き方の指導については、各校で学年に応じた指導をしたい。県に送付する作品の表記については、指導者の共通理解が必要である					
井原	読書感想文支部審査会	9月16日（金）	西江原公民館	・平成28年度の活動計画 ・井原市学校図書館協議会の役員紹介 ・支部審査会 小学校の部 中学校の部	20名 13名 5名
	感想文の表彰	10月	各校	・支部作品の表彰	
	感想文集の配布	10月		・読書感想文集の注文とりまとめ	
	感想文集の配布	1月16日（月）		・読書感想文集の配布	
	感想文の表彰	1月	各校	・県出品作品の表彰	
反省と課題					

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
総社	図書館教育班会				
	第1回図書館教育班会(総社市教育研修所総会)	5月6日(金)	総社中学校	研修計画立案等	15名
	第2回図書館教育班会	7月8日(木)	総社市図書館	総社市図書館との連携・情報交換	15名
	第3回図書館教育班会(研修会)	8月3日(水)	瀬戸内市立図書館	瀬戸内市立図書館視察	13名
	第62回岡山県青少年読書感想文コンクール総社支部審査会	9月5日(月)	保健センター	読書感想文コンクール審査	23名
	第41回岡山県学校司書研究会	7月28日(木)	水島愛あいサロン	研究会参加	12名
	学校司書部会				
	第1回学校司書部会	7月27日(水)	総社東中学校	司書部会研修計画 実演の計画と準備 学校図書館システム研修	12名
	第2回学校司書部会	7月29日(金)	総社北・神在小学校	お話の会実演と反省 相互貸借に役立つ選書について等	12名
	第3回学校司書部会	12月6日(火)	維新小学校	読書週間の報告 相互貸借に役立つ選書について等	11名
第4回学校司書部会	2月3日(金)	池田小学校	今年度の反省 来年度の計画等	12名	
反省と課題 (班会)今年度も総社市図書館と情報交換の場をもち、連携しながら様々な活動を推進することができた。総社市図書館教育班会の研修として、瀬戸内市立図書館を視察したことも大変有意義であった。 (司書部会)今後の小・中学校間での相互貸借を促進するため、より需要の高い資料についての情報交換・選定を進めている。また、図書館運営システムの研修も継続しており、有効な活用につながられている。 ・来年度も引き続き有意義な研修を行っていきたい。					
高梁	研修会	7月8日(金)	高梁中学校	○年間計画の作成・配布物の説明	15名
	読書感想文コンクール審査会	9月15日(木)	高梁総合文化会館	○読書感想文コンクール審査	22名
	研修会(学校図書館司書部会との合同研修会)	2月23日(木)	高梁市立図書館	○新図書館について (講師)高梁市立図書館 藤井 勇 館長 (内容)新図書館の施設見学及び館長による講話 ○協議 ・新図書館の活用について ・読書感想文への指導のあり方について ・今年度の取り組みの反省	20名予定 外：学校図書館司書部会12名
反省と課題 ・第1回研修会は県協議会からの指示の伝達を中心に行った。コンクールへの積極的参加を呼びかけるとともに、校内審査のあり方や各校から提出される出品目録の記入について、県協議会から指示されたことをもとに各校へ依頼を行った。支部事務局担当者が交代し、県の事務局会議の後、支部研修会を計画したため、昨年に比べ研修会の開催が遅くなり、学期末が慌ただしくなってしまった。各校への配布文書がデータで渡せたことは今回も好評だった。 ・感想文コンクール審査会では、小学校低学年と中学校では、出品数や内容等により審査にかかる時間が大きく異なり、審査後の反省や今後に向けて十分な協議時間がとれなかった。また、1回研修会において感想文コンクールについての確認事項の徹底の必要性を感じた。 ・2月23日に実施する学校図書館司書部会との合同研修会は、2月4日に開館した新市立図書館を今後有効活用するために、施設見学及び藤井館長の講話を予定している。また、来年度に向けて読書感想文の書かせ方や選書の助言の仕方などについて協議を行う予定である。					
新見	理事会	6月10日(金)	阿新教育会館	事業計画	4名
	学校図書館担当者会	6月28日(火)	阿新教育会館	昨年度の事業報告及び連絡	20名
	読書感想文コンクール支部審査会	9月23日(金)	阿新教育会館	読書感想文コンクール支部審査	21名
	理事会	3月23日(木)	塩城小学校	事業反省と来年度に向けての話し合い	3名
反省と課題					
津山	学校図書館協議会 総会・研修会	5月26日(木)	津山市総合福祉会館	平成28年度の組織体制および活動計画 平成29年度 岡山県学校図書館研究大会津山大会について	33人
	学校図書館協議会 研修会	6月27日(月)	津山市役所	県理事会の報告 平成29年度 岡山県学校図書館研究大会津山大会	33人
	平成29年度 岡山県学校図書館研究大会津山大会 担当校決定協議	8月4日(木)	津山市役所	平成29年度岡山県学校図書館研究大会津山大会 担当校決定協議	11人
	図書選定会	8月18日(木)	津山ブックセンター	児童生徒にすすめる本の選定	20人
	津山市読書感想文コンクール	9月15日(木)	津山市役所 東庁舎	津山市内の児童生徒の読書感想文の審査	38人
	図書選定会	1月31日(火)	津山ブックセンター	児童生徒にすすめる本の選定	20人
	学校図書館協議会 総会・研修会	2月28日(火)	津山市役所 東庁舎	平成28年度の活動の総括および決定事項の確認 研究集録「あゆみ」編集作業 平成29年度 岡山県学校図書館研究大会津山大会に向けての研修	38人(予定)
反省と課題 ・県立中への案内配布や、総会への参加の基準が曖昧なので、他の支部ではどうされているのか知りたい。 ・役員の引き継ぎローテーションがうまく活用できておらず、支部内だけでなく校内での引き継ぎもしっかりしてほしい。 ・支部内での提出・回収物がスムーズにいかず、運営に支障をきたすことがあった。					

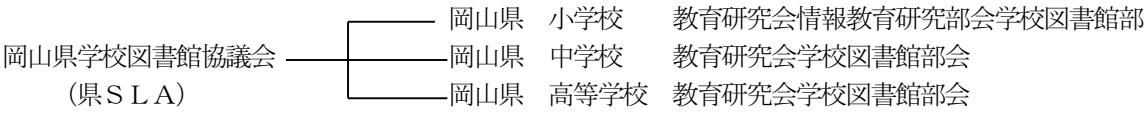
支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
苦 田	苦田郡学校図書館協議会総会	7月 7日 (木)	鶴喜小学校	平成28年度の役員・活動計画について 事務局総会の報告	9人
	読書感想文審査会	9月12日 (月)	ペスタロッ チ館	読書感想文の審査及び研修会	9人
	苦田郡学校図書館協議会研修会	3月10日 (金)	ペスタロッ チ館	平成28年度の活動のまとめ 事務局長会の報告	10人
	反省と課題 ・読書感想文の審査会を例年より少し早くしたが、学校行事を考えるとちょうどよかった ・審査会の反省を生かして、各校指導していくことを確認した。 ・来年度は、県の研究大会が津山ブロックが担当で、全校参加の方向で行くことを確認。担当は、受付。				
勝 田	勝田郡学校図書館協議会総会・研修会	7月11日 (金)	奈義小学校	平成27年度事業報告・決算報告 平成28年度事業計画・予算案 読書感想文コンクールについて	6名
	勝田郡読書感想文審査会 (中学校の部)	9月15日 (木)	奈義中学校	読書感想文審査	5名
	勝田郡読書感想文審査会 (小学校の部)	9月21日 (水)	奈義小学校	読書感想文審査	4名
	勝田郡学校図書館協議会研修会	2月10日 (金)	奈義小学校	岡山県学校図書館協議会運営について 勝田郡学校図書館協議会活動反省	6名
反省と課題 ○勝田支部は小学校3校、中学校2校である。読書感想文審査会は少数校での実施であるため、作品の質的向上、審査員の確保の上から、他支部（例えば美作市）との合同審査を検討していただきたい。 ○学校図書館司書、町図書館司書を交えた、学校図書館運営のありかた、読書活動充実に向けての研修会を持ちたい。					
久 米	岡山県事務局長会及び研修会	6月9日 (木)	県立倉敷古城池高校	平成27年度の事業報告・決算報告、平成28年度事業計画・予算案審議	13人
	久米郡図書館協議会総会および研修会	7月4日 (月)	久米南町立弓削小学校	平成27年度事業報告・決算報告、平成28年度事業計画・予算案審議	
	久米郡読書感想文審査会 (中学校)	9月23日 (金)	美咲町役場第2分庁舎	久米支部 読書感想文審査 (中学校の部)	5人
	久米郡読書感想文審査会 (小学校)	9月26日 (月)	美咲町役場第3分庁舎	久米支部 読書感想文審査 (小学校の部)	8人
	岡山県事務局長会	1月12日 (木)	県立倉敷古城池高校	事務連絡	
	反省と課題 例年通りの活動ができた。 同じ支部ではあるが、他町へは書類を届けることが不便であり、時間差が出ることも多かった。 読書感想画の応募はなかった。 学校によって、図書館運営の様子に差があるようなので、各校の取り組みの様子が交流できればよかったと思う。				
真 庭	真庭支部学校図書館協議会総会及び研修会	6月28日 (火)	真庭市久世公民館	総会において、昨年度の事業報告・今年度の事業計画・予算の決定など。研修会において、読書感想文コンクール支部審査会に向けて、取り組み方や留意事項の確認。支部内の図書館教育推進の取り組みの交流など。	30人
	「みなさんにすすめたい本夏号」配布	7月1日 (金)		県より送付された「みなさんにすすめたい本」を各校へメールで配布	33人
	読書感想文コンクール真庭支部審査会	9月13日 (火)	真庭市久世公民館	読書感想文審査。事務連絡 (読書感想文集の注文の仕方等)	
	「みなさんにすすめたい本」 「読み聞かせたい絵本」配布	12月12日 (月)		県より送付された「みなさんにすすめたい本」「読み聞かせたい絵本」を各校へメールで配布	
読書感想文集・賞状配布	2月3日 (金)		読書感想文集・賞状 (県) を、運送便等で配布		
反省と課題 支部審査会では、県から示された「感想文の書き方」等を総会屋審査会の案内で説明し、各校でよく確認し出品するようにした。また、支援学級の児童生徒の作品については、支部独自に審査基準を設けて作品を募集した。今年度も読書感想文集学校購入分の支払い事務簡素化のため、真庭市については学校購入分の一括購入を市教委にお願いした。また、3冊購入に協力できる学校は、更に学校購入をお願いした。					

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
美作西栗倉	支部総会・研修会	6月27日(月)	土居小学校	27年度事業・会計決算報告 28年度役員選出、事業計画、予算案、読感文コンクール等について	17
	支部読書感想文審査会・研修会	9月16日(金)	美作中学校	読書感想文審査	7
	支部読書感想文審査会・研修会	9月21日(水)	作東農業改善センター	読書感想文審査	12
反省と課題 ・支部総会の開催日を6月中に計画したのでよかった。(夏季休業中の課題準備に向けて) ・支部読書感想文審査会の日程調整を早めしておく。(地区総体との関連に配慮) ・支部読書感想文審査後の事務処理について、確認事項が多かったが、各校とも多用の中、ご協力いただいた。					
備前	役員会	5月24日(火)	関西高校	平成27年度事業報告・決算報告・平成28年度役員案・活動方針・事業計画・予算案・事務局校・役員校のローテーション・研究発表校のローテーション等	18名
	総会	6月30日(木)	関西高校	平成27年度事業報告・決算報告・平成28年度役員案・活動方針・事業計画・予算案・事務局校・役員校のローテーション・研究発表校のローテーション等	33名
	第1回研究会	8月1日(月)	関西高校	講演「瀬戸内市の図書館づくり～もちより・みつけ・わけあう広場～」 講師：瀬戸内市民図書館もみわ広場 館長 嶋田 学 氏 研究発表 題名「アクティブ・ラーニングを支える学校図書館を目指して」	41名
	第2回研究会	11月17日(木)	関西高校	発表者：岡山芳泉高校 貝原謙二先生 講演 題名「知的に楽しく！ビブリオバトル」 講師：全国SLA学校図書館スーパーバイザー・ビブリオバトル普及委員 高見京子先生	28名
	第1回司書部会	4月27日(水)	岡山工業高校	研修「共有しよう！各支部の最近の活動」(以上備中・美作支部と合同) 平成27年度活動報告・決算報告 平成28年度役員確認・活動予定・予	29名
	第2回司書部会	6月16日(木)	西大寺高校	プチ紹介/資料に関する研修/おすすめ本の紹介/協議	25名 午後のみ24名
	第3回司書部会	8月1日(月)	関西高校	研修「学校図書館に司書がいるって、どういうこと?」/プチ紹介/おすすめ本の紹介 講演「瀬戸内市の図書館づくり～もちより・みつけ・わけあう広場～」 講師：瀬戸内市民図書館もみわ広場 館長 嶋田 学 氏 (備前支部第1回研究会と合同)	23名 午後のみ21名
	第4回司書部会	12月6日(火)	水島工業高校	研修「続！お悩み相談『図書館の自由』に関わる選書とサービス」 報告「鳥取への図書館見学」(以上備中・美作支部と合同)	22名
	第5回司書部会(予定)	3月2日(木)	玉野商業高校	研修「見つけた情報を自分流にアレンジ」/プチ紹介 研修「図書館のレイアウトを考える」	名
	生徒図書委員会交流会	5月28日(水)	東岡山工業高校	研修「図書館のキャラクター活用方法を考える」 図書委員会活動の情報交換	15校 62名
反省と課題 ・研修会の講師をどなたに依頼するかという点については苦労した。来年度は、役員会や総会等で参加者からアイデアを寄せてもらうことも検討したいと考えている。 ・関西高校を会場として会議や研修会を実施することが多かったが、駐車スペースの確保が十分ではなく、参加者に迷惑をかけてしまったように思う。来年度も新校舎建設工事が継続するため、対策が必要となるであろう。					

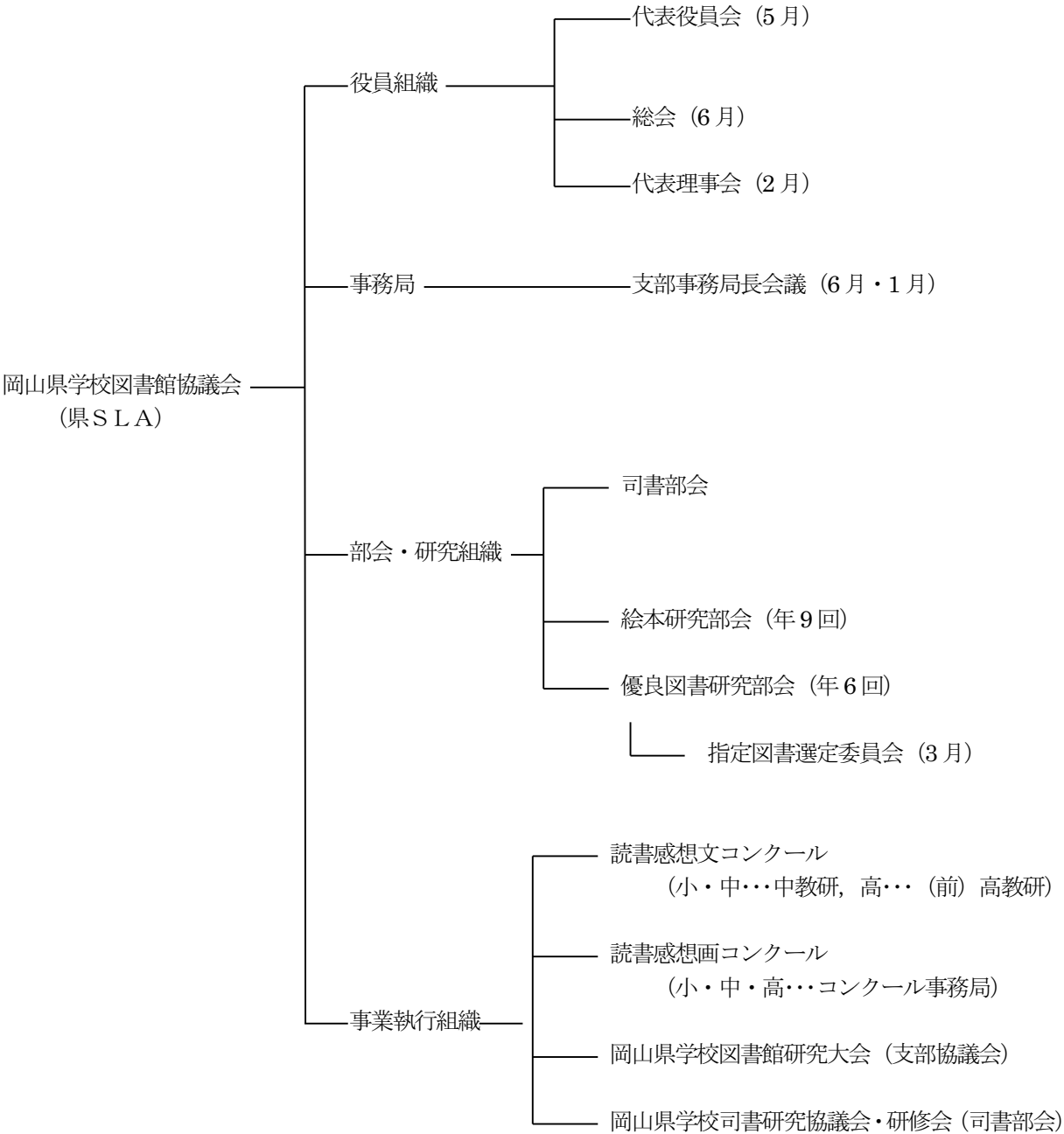
支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
備中	1 役員会				
	第1回 役員会	6月30日(木)	倉敷中央高校	(1)平成27年度事業報告及び会計報告(2)平成28年度事業計画及び予算(案)(3)支部総会・研究協議について	8名
	第2回 役員会	2月22日(木)	倉敷中央高校	(1)平成28年度事業報告及び会計報告(2)平成29年度支部総会・研究協議について	11名
	2 総会・研究協議会	6月30日(木)	倉敷中央高校	(1)報告事項・平成27年度事業報告及び会計報告・平成28年度役員紹介 (2)協議事項・平成28年度事業計画(案)及び予算(案)・申し合わせ事項について・発行負担金の徴収について (3)実践報告「憩いの場を目指して」倉敷翠松高校 司書教諭 花岡仁美氏 (4)研究協議についての情報交換	28名
	3 司書部会				
	第1回(第220回)	4月27日(水)	岡山工業高校	(1)合同研修 初任者件数/合同研修①「お悩み相談!リクエスト対応&選書」合同研修②「共有しよう!各支部の最近の活動」 (2)各支部研修 平成27年度司書部会会計報告・活動報告 平成28年度司書部会役員確認・活動予定・予算案 資料研究(部活の本) サポート校グループによるフリートーク (2)その他申し合わせ事項の確認・協議	28名
	第2回(第221回)	6月1日(水)	倉敷天城高校	(1)プレ発表:第41回岡山県学校司書研究協議会(倉敷大会)に向けて (2)研修 選書についての研修 資料研究(ホラー)	24名
	第3回(第222回)	10月26日(水)	笠岡商業高校	(1)研修 除籍についての研修 資料研究(社会人になる前に読んでおきたい本、先生に紹介したい本)	24名
	第4回(第223回)	12月6日(火)	水島工業高校	(1)3支部合同研修 報告「鳥取への図書館見学」研修「続!お悩み相談「図書館の自由」に関わる選書サービス」 (2)支部研修 資料研究(癒やされる本、健康に関する本・身体に関する本) 研修「仕事の効率アップ!作戦&小さな工夫」	19名
	第5回(第224回)	2月21日(火)	岡山理科大学 岡山大学 瀬戸内市民図書館	(1)図書館見学(2)研修資料研究(「カッコいい!」人・モノの本)(3)協議連絡 来年度の司書部会計画	
4 図書委員会交流会	12月17日(土)	倉敷青陵高校 図書館		12校 生徒38名 教職員22名	
反省と課題					
① 総会・研究協議会の実践報告では、図書関係の仕事を担当される先生が少ないなか、懸命に図書館を充実させるために、様々な取り組みをなされる花岡先生の大変さと凄さを実感することができた。					
② 司書部会での研修は、すぐに役立つ内容ばかりですので、是非、多くの学校に参加していただきたいと思います。そのためには、参加者全員が発言しやすい方法を考えつつ、さらに研修を発展させて行く必要があります。					
③ 総会に参加されていない学校への資料や書類の発送に参加している学校に協力してもらったり、事務局で直接持つて行くことにより、通信費を抑えることができた。					
美作	第1回司書部会研修会(3支部合同)	4月27日(水)	岡山工業高校	平成27年度活動報告・平成28年度活動予定、おすすめ本の紹介、初任者研修・合同研修、全支部合同研修	10名
	第1回支部役員会・研究協議会	5月10日(火)	津山高校	平成27年度事業報告、平成27年度会計決算報告、平成28年度事業計画案、平成28年度予算案等	役員会 9名 協議会 11名
	第2回支部役員会	7月12日(火)	津山高校	第2回研究協議会の研修内容、第2回美作地区高校生読後感想文コンクールについて、読書感想文コンクール及び読書感想画コンクール案内等県事務局からの連絡事項、第52回岡山県学校図書館研究大会津山大会について	9名
	第2回司書部会研修会	7月13日(水)	津山市立図書館	おすすめ本の紹介、研修(読み聞かせ、展示)	10名
	平成28年度図書委員会交流会	7月16日(土)	津山工業高校	書名しりとり	生徒14名 教職員5名
	美作地区高校生読後感想文コンクール	7月~12月	勝山高校	美作地区高等学校対象	
	第3回司書部会研修会	10月12日(水)	勝山高校	おすすめ本の紹介、研修(ライトノベル、ビブリオバトル、除籍本)	9名
	第4回司書部会研修会	12月6日(火)	水島工業高校	全支部合同研修(続!お悩み相談「図書館の自由」に関わる選書とサービス)、各支部研修(おすすめ本の紹介、「見つけた情報を自分流にアレンジ」等)	5名
	第2回支部研究協議会	12月9日(金)	津山高校	美作地区高校生読後感想文表彰式、平成29・30年度支部役員案、平成29年度事業計画案、平成28年度美作地区図書委員会交流会アンケート集計結果、平成29年度第7回美作地区高校生読後感想文コンクール等の報告事項、研修「学校図書館における司書と司書教諭の連携の在り方」(講師:岡山県立倉敷古城池高等学校司書 加茂清太郎氏)	10名
	第5回司書部会研修会	3月15日(水)	美作高校	おすすめ本の紹介、今年度活動のまとめ、平成29年度活動計画、美作大学図書館見学	10名
反省と課題					
図書委員会交流会の時期がインターハイの関係で例年と異なり、参加人数が少なくなった。次年度は多くの学校が参加しやすい時期を検討したい。					

岡山県学校図書館協議会組織図

1. 構成組織



2. 組織図



岡山県学校図書館協議会規約

第1条 本会は、岡山県学校図書館協議会という。

第2条 本会は、事務局を会長在任の学校内におく。

第3条 本会は、県下小・中・高等学校の学校図書館相互の連絡とその充実、発展をはかり、本県教育の推進に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 県下学校図書館相互の連絡提携、情報交換
- (2) 学校図書館運営に関する研究会、講習会、展示会等の開催。
- (3) 学校図書館教育の研究
- (4) 読書指導の研究
- (5) 学校司書の研修と身分待遇の改善
- (6) 絵本・優良図書の研究
- (7) その他

2. 第1項(2)の事業の推進、及び(3)(4)の事業の援助を行うため、研究部会を設ける。

研究部会は、特に必要のない場合、適宜活動を休止することができる。

3. 第1項(5)の事業を行うため、司書部会を設ける。司書部会関することは、別に規定を定める。

4. 第1項(6)の事業を行うため、絵本研究部会、優良図書研究部会、ニューメディア研究部会、読書ノート研究部会を設ける。それぞれの部会で必要な規定は、別に定める。

第5条 本会は、岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部（以下「小教研」と略す）・岡山県中学校教育研究会学校図書館部会（以下「中教研」と略す）・岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会（以下「高教研」と略す）によって構成する。

第6条 本会加入の小・中学校においては郡市ごとに、高等学校においては地区（備前・備中・美作）ごとに、支部協議会を設ける。

2. 支部協議会に会長を置く。また、必要に応じて副会長を置くことができる。

3. 支部協議会に支部事務局を設け、支部事務局長を置く。

4. 本会は、年に数回、支部事務局長会議を開催し、必要な書類の配布、事務連絡事項の伝達を行う。

5. その他、支部協議会に関する規定は、各支部協議会で適宜決める。

第7条 本会は、社団法人全国学校図書館協議会の賛助会員となる。

2. 本会の会長及び事務局長は、社団法人全国学校図書館協議会の正会員となる。

第8条 本会に次の役員を置き、任期は2カ年とする。ただし再任を妨げない。また、補欠役員の任期は、前任者の残留期間とする。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 代表理事
- (4) 理事
- (5) 監事

2. 役員の選出は次のとおりとする。

(1) 会長は、小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長の中から選出される。

(2) 副会長は、会長にならなかった小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長をもって充てる。

(3) 代表理事は、小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）・常任理事（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・副部会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

(4) 理事は、代表理事及び各支部協議会の会長・副会長をもって充てる。

(5) 監事は、原則として事務局校の所在する支部内で、小教研・中教研から1名、高教研から1名選出する。

3. 本会の最小限の役員組織として、代表役員会を設ける。代表役員は、小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

4. 以上の役員については、年度当初の新旧代表役員会で選出され、総会において承認を得るものとする。但し、代表理事については、総会において決定・承認されるものとする。

第9条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、会を代表し会務を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき

は会務を代理する。

- (3) 代表理事は、会務の重要事項を協議し決定する。
また、代表役員会で仮決定した事項について協議し、決定する。
- (4) 理事は、会務全般について協議し、代表理事会での決定を承認する。また、年度当初に新旧代表役員会で仮決定した事項を決定する。
- (5) 監事は、会計を監査する。
- (6) 代表役員は、本会の最小限の役員組織として、緊急を要する事項について協議し、仮決定する。
年度当初に開催する新旧代表役員会では、役員の選出等重要事項を仮決定する。

第10条 本会の、総会・代表理事会・代表役員会は毎年1回以上開催する。総会は、理事会をもってこれに代えることができる。

第11条 事務局には、事務局長、事務局次長、参事、事務職員等をおき、会務を処理する。

第12条 本会は、役員会の推薦により顧問・参与・賛助員を置くことができる。

第13条 本会の経費は、構成団体の拠出金・寄付金をもってあてる。

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(規約施行は昭和25年から[推定])

… (中略) …

平成8年6月4日一部改正

平成11年6月3日一部改正

平成14年5月30日一部改正

平成17年6月2日一部改正

岡山県学校図書館協議会司書部会会則

第1条 この部会は、岡山県学校図書館協議会規約第4条に基づいて設けられ、岡山県学区図書館協議会司書部会と称する。

第2条 この部会の事務局は、岡山県学校図書館協議会会長の在任の学校内におく。

第3条 この部会は、岡山県下の学校司書の資質向上と専門性の追求をめざし、学校図書館の充実と発展に資することを目的とする。

第4条 この部会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 「研究協議会」と「研修会」の計画立案・開催と参加
- (2) 各地域で行われる学校図書館研修会に対する情報提供や意見交流
- (3) 優れた実践の掘り起こしと、研究実践を広めるための活動
- (4) 学校司書の配置増と安定した雇用の確率のための活動

第5条 この部会は、岡山県下の小・中・高等学校図書館に勤務する学校司書及びこれに準ずる者を会員として構成する。

第6条 この部会は、次の役員をおく。

- (1) 部会長 1名
部会を代表し、部会の運営にあたる。また、会計事務も担当する。
- (2) 副部会長 若干名
部会長を補佐し、部会長に事故のあるときにはこれに代わる。
- (3) 理事 若干名
理事会を構成し、会務の重要事項を審議する。また、地区を代表して、部会との連絡と地区の運営にあたる。
- (4) 監事 2名
会計事務を監査し、総会に報告する。

第7条 役員は、次の方法によって定める。

- (1) 役員は、総会において選出する。任期途中において退任のときは部会長が理事にはからって補充し、総会の承認を得る。
- (2) 部会長は、会員全体の中から選出する。
- (3) 副部会長は、校種別、地区別に選出する。
- (4) 理事は、校種別、地区別に選出する。
- (5) 監事は、原則として理事経験者の中から選出する。

第8条 役員の任期は2年とし、再任は妨げない。欠員

によって補充された役員の任期は、前役員の残任期間とする。

第9条 この部会は、年1回総会を開催する。なお、理事会が必要と認めた場合、又は会員の3分の1以上から請求のあった時は、臨時総会を開催しなければならない。

2. 総会は、会員の過半数の出席をもって成立する。議事は出席者の過半数で決するものとする。
3. 総会に附議しなければならない事項は次のとおりとする

- ① 会則の改正
- ② 役員を選出
- ③ 事業計画並びに事業報告
- ④ 予算案並びに決算の承認
- ⑤ その他重要な事項

第10条 この部会は年3回理事会を開催する。なお、理事の3分の1以上から請求のあった時は、臨時理事会を開催しなければならない。

2. 理事会は、役員過半数の出席をもって成立する。
3. 理事会では、各地区の情勢報告・研修報告などの情報交換を行うほか、総会の運営に関する事項、総会に附議する議題、研究協議会・研修会に関する事項等、司書部会に関する重要な事項を審議する。
4. 理事会は、次の事項について決議することができる。緊急を要する場合で会議開催が不可能な場合は、文書持ち回りにより決議を行う。ただし、これらの決定については、次の総会において承認を得なければならない。

- ① 役員の補充
- ② その他司書部会として緊急に決定が必要な事項

第11条 本会の経費は、会費・助成金及びその他の収入をもって充てる。ただし、当分の間会費は徴収しない。なお、研修に要する実費は、そのつど徴収することができる。

2. 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

本会則は、昭和50年4月1日から施行する。

平成15年7月24日 一部改正

平成18年7月26日 一部改正

岡山県学校図書館協議会 66年の歩み（略年表）

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
1950	昭和25		(1) 東京				県SLA発足	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1951	26		(2) 京都					尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1952	27		(3) 小田原			総会 久米井 東	「岡山学校図書館」 創刊9月20日付	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1953	28		(4) 大分			総会 坂本 一郎	司書講習 (岡山大学)	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1954	29		(5) 仙台			総会 尾野作次郎	司書教諭講習 (大阪学芸大学) 9名参加	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 神崎 水島 進 (戸荊中)
1955	30		(6) 徳島		(1) 西大寺, 倉敷, 津山	松尾弥太郎	学校図書館法施行	尾野作次郎 (操山)	
1956	31		(7) 宇都宮		(2) 岡山, 倉敷, 津山	佐野 友彦		内藤 一人 (操山)	
1957	32		(8) 札幌		(3) 岡 山	松尾 佐野 鈴木 芦谷		内藤 一人 (操山)	
1958	33		(9) 岡山		(4) 岡 山	深川 恒喜		内藤 一人 (操山)	
1959	34		(10) 東京	(1) 萩	(5) 和気, 吉備, 英田	白井 吉見 佐野 友彦	司書教諭講習 (岡山大学) 10周年	内藤 一人 (操山)	
1960	35		(11) 大阪		(6) 児島, 笠岡, 苫田	鈴木 英二		内藤 一人 (操山)	高祖 忠直 室山 三義 三谷 堅 (津 一)
1961	36		(12) 新潟	(2) 広島	(7) 赤磐, 上房, 久米	松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	高祖 忠直 (深 柁) 室山 三義 (倉 東) 宮野辰右衛門
1962	37		(13) 松山		(8) 岡 山	裏田 武夫		内藤 一人 (操山)	
1963	38			(3) 松江	(9) 玉野, 井原, 真庭	鈴木 英二 松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	柴部 武士 宮野辰右衛門 (岡北) 井上弥太郎
1964	39		(14) 成田		(10) 御津, 浅口, 勝山 (奈義)	佐野 友彦		内藤 一人 (操山)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田) 川部 濟
1965	40	2号		(4) 倉吉	(11) 児島, 新見, 阿都, 英田	松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	
1966	41	3号	(15) 鹿児島		(12) 津山	松尾弥太郎		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田)
1967	42	4号		(5) 津山	(13) 津山	木村 毅		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田)
1968	43	5号	(16) 名古屋		(14) 矢掛	野地 潤家		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 梶原良太郎 (岡北)
1969	44	6号		(6) 防府	(15) 岡山	相島 敏夫	20周年	板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1970	45	7号	(17) 山形		(16) 成羽			板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1971	46	8号		(7) 大竹	(17) 津山	岩田 齊		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (財 田) 広江 利夫 (操 南)
1972	47	9号	(18) 兵庫		(18) 玉野	芦谷 清		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 広江 利夫 (丸之内)
1973	48	10号		(8) 出雲	(19) 邑久	石森 延男		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1974	49	11号	(19) 東京		(20) 北房	谷川 徹三		金谷 達夫 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1975	50	12号		(9) 鳥取	(21) 苫田	滑川 道夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 坪井 隆二 (石井中)
1976	51	13号	(20) 岐阜		(22) 倉敷	戸川 幸夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)
1977	52	14号		(10) 倉敷	(23) 倉敷	外山滋比古		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中教研	高教研	県司書大会	県司書部会長
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞						
	大原 利貞						
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛					
岩本 俊一 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
竹内亥三美	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞					(1) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞					(2) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(3) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(4) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(5) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞	藤森 賢一				(6) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清稔 佐藤		
	大熊 圭祐	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清稔 佐藤		
蒲田 欣二 竹内 虎男	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫	神原 利一	川端 清稔 佐藤		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	神原 利一 川合 四良	川端 清稔 佐藤		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	梶原良太郎 未平 雅夫	川端 清稔 佐藤		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 相谷 道夫	板谷 二郎 横田 恭治		
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 吉富 進	板谷 二郎 横田 恭治	(1) 岡 山	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 高田 哲夫	(2) 玉 野	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 田口 重俊	(3) 倉 敷	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	堤 護	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	桐野 事雄 田口 重俊	(4) 津 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 田口 重俊	(5) 岡 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 河村 金二	(6) 玉 野	安原 みどり
須和田秀一 山崎 蕃	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 相谷 道男	金谷 達夫 徳永 優	(7) 倉 敷	片山 峰子
須和田秀一 藤原 康宏	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 未平 雅夫	金谷 達夫 徳永 優	(8) 津 山	片山 峰子

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
1978	昭和53	15号	(21)佐賀		(24)瀬戸	三木 卓	表章式(感想文)	村井 董直(芳泉)	赤木 庚(妹尾小) 松本 猛(京山中)
1979	54	16号		(11)下関	(25)岡山	金田一春彦	30周年	村井 董直(芳泉)	新井 正志(敦石小) 森安 萌(旭中)
1980	55	17号	(22)盛岡		(26)新見	松島 栄一		宮脇 律(芳泉)	石井 汎(芳泉小) 森安 萌(旭中)
1981	56	18号		(12)広島	(27)久米	斉藤 実		宮脇 律(芳泉)	石井 汎(芳泉小) 森安 萌(旭中)
1982	57	19号	(23)伊勢		(28)和気	灰谷健次郎		宮脇 律(芳泉)	野上 賢二(竜之口小) 森安 萌(旭中)
1983	58	20号		(13)浜田	(29)総社	松谷みよ子		宮脇 律(芳泉)	野上 賢二(竜之口小) 森安 萌(福南中)
1984	59	21号	(24)山口		(30)高梁	高木 敏子		宮脇 律(芳泉)	渡辺 武士(柱内小) 森安 萌(福南中)
1985	60	22号		(14)高梁	(31)高梁(兼中国)	松山 善三		横野 昭輝(芳泉)	渡辺 武士(柱内小) 黒住 郁雄(定守中)
1986	61	23号	(25)那覇		(32)真庭	倉本 聡		西田 譲(一宮)	森川 鏡也(馬屋上小) 村田 重臣(石井中)
1987	62	24号		(15)米子	(33)笠岡	宮城まり子		西田 譲(一宮)	古川 正治(加茂小) 岡島 将(興余中)
1988	63	25号	(26)札幌		(34)備前	矢口 高雄		杉山 定雄(一宮)	田代 尚夫(平島小) 岡島 将(興余中)
1989	平成元	26号		(16)宇部	(35)岡山	河合 雅雄	40周年	幾田 尚(西大寺)	長安早智子(芳泉小) 岡島 将(福南中)
1990	2	27号	(27)松江		(36)新見	柴田 一		幾田 尚(西大寺)	森谷 浩平(野谷小) 岡島 将(福南中)
1991	3	28号		(17)広島	(37)勝田	岩崎 京子	第11回学校司書全国研究集会(於岡山)	坪井 克己(西大寺)	森谷 浩平(野谷小) 岡島 将(福南中)
1992	4	29号	(28)福岡		(38)倉敷	福田襄之介		皆木 徹典(和気郡谷)	森谷 浩平(野谷小) 大月 要(丸之内中)
1993	5	30号		(18)益田	(39)御津	宮地 暢夫		皆木 徹典(和気郡谷)	長崎 幡子(加茂小) 平田嬉世子(中山中)
1994	6	31号	(29)秋田		(40)川上	富永 一朗		中野 宏(倉敷古城池)	瀬戸川 宏(守野小) 白神 幸世(京山中)
1995	7	32号		(19)鳥取				中野 宏(倉敷古城池)	瀬戸川 宏(守野小) 赤木 久児(藤田中)
1996	8	33号	(30)埼玉		(41)英田	あさのあつこ		中野 宏(倉敷古城池)	亀高 嘉彦(深砥小) 赤木 久児(藤田中)
1997	9	34号		(20)岡山	(42)総社, 真備(兼中国)	阿刀田 高		大山 晋右(倉敷古城池)	亀高 嘉彦(深砥小) 赤木 久児(藤田中)
1998	10	35号	(31)金沢					鴨頭 脩(倉敷青陵)	菱川 成雄(高島小) 香川 璋子(高松中)
1999	11	36号		(21)岩国	(43)岡山	塩見 昇	50周年	鴨頭 脩(倉敷青陵)	菱川 成雄(高島小) 香川 璋子(高松中)
2000	12	37号	(32)奈良		(44)新見・阿哲	灰谷健次郎		川井章三郎(倉敷南)	菱川 成雄(城東台小) 香川 璋子(高松中)
2001	13	38号		(22)広島				山根 健(倉敷南)	菱川 成雄(城東台小) 綿谷 佳男(灘崎中)
2002	14	39号	(33)横浜		(45)津山	後藤 竜二		大嶋 俊宣(倉敷天城)	料治 育子(伊島小) 綿谷 佳男(灘崎中)
2003	15	40号		(23)出雲				大嶋 俊宣(倉敷天城)	料治 育子(伊島小) 綿谷 佳男(福南中)
2004	16	41号	(34)ひこくさ		(46)井原, 後月	佐々木正美		高槻 健(倉敷古城池)	坪井由紀子(政田小) 綿谷 佳男(福南中)
2005	17	42号		(24)倉吉				高槻 健(倉敷古城池)	坪井由紀子(政田小) 綿谷 佳男(福南中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中教研	高教研	県司書大会	県司書部会長
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	赤木 庚徳 山名 徳則	森安 萌 相谷 道男	村井 董 岡 直博	(9) 岡 山	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	新井 正志 三宅 敏文	森安 萌 相谷 道男	村井 董 岡 直博	(10) 玉 野	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律 岡 博	(11) 倉 敷	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律 大熊 圭祐	(12) 津 山	片山 峰子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬川 宏	宮脇 律 大熊 圭祐	(13) 岡 山	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬川 宏	宮脇 律 大熊 圭祐	(14) 玉 野	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	渡辺 武士 福岡トキコ	森安 萌 瀬川 宏	宮脇 律 山吹 堯敏	(15) 倉 敷	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	山吹 堯敏	渡辺 武士 福岡トキコ	黒住 郁雄 瀬川 宏	横野 昭輝 山吹 堯敏	(16) 津 山	守屋千冬子
岸田 崇	萩原 一之	佐伯 誠一	森川 鐵也 福岡トキコ	村田 重臣 白河左江子	西田 讓 服部 亮介	(17) 岡 山	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	藤本 善三	古川 正治 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	西田 讓 服部 亮介	(18) 玉 野	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	竹井 千庫	田代 尚夫 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	杉山 定雄 服部 亮介	(19) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	門野 茂蔵	田中 修二	長安早智子 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚 川原 昇	(20) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	波多野研爾	田中 修二	森谷 浩平 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚 川原 昇	(21) 岡 山	青江 暉子
広本 勝裕	田中 修二	石井 寛子	森谷 浩平 松浦 順子	岡島 将 坪井 敬也	坪井 克己 八木 和一	(22) 玉 野	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	阪田 俊介	森谷 浩平 岡崎 明宏	大月 要 坪井 敬也	皆木 徹典 若狭 真司	(23) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	後藤 信介	長崎 幡子 島田 保弘	平田嬉世子 岡田 敏雄	皆木 徹典 若狭 真司	(24) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	国富 浩二	畝岡 睦美	瀬川 宏 石川真佐代	白神 幸昌 岡田 敏雄 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(25) 岡 山	守屋千冬子
広本 勝裕	田辺 宏海	国富 浩二	瀬川 宏 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(26) 玉 野	守屋千冬子
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充 利守 雅行	中野 宏 佐守 謙一	(27) 倉 敷	佐藤 菊江
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充 利守 雅行	大山 晋右 佐守 謙一	(28) 津 山	佐藤 菊江
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩 森本 篤	(29) 岡 山	小野 暁子
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩 森本 篤	(30) 玉 野	小野 暁子
桑木 一郎	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 利守 雅行 原 清行	川井 章三郎 尾崎 寛子	(31) 倉 敷	小野 暁子 鹿野 恵子
大滝 一登	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	綿谷 佳男 利守 雅行 原 清行	山根 健 細川 直子	(32) 津 山	鹿野 恵子
大滝 一登	有松 幹雄	行藤 潔	料治 育子 原野かおり	綿谷 佳男 利守 雅行 海野 行晴	大嶋 俊宣 三宅 博己	(33) 岡 山	鹿野 恵子 岡本信二郎
大滝 一登	三宅 博己	深見 啓行	料治 育子 高橋かおり	綿谷 佳男 海野 行晴 利守 雅行	大嶋 俊宣 深見 啓行	(34) 玉 野	岡本信二郎
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	(35) 倉 敷	岡本信二郎 宇原 郁世
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	研修会(倉敷)	宇原 郁世

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
2006	18	43号	(35)郡山					山下 滋 (倉敷青陵)	岡本 利和 (御南中) 竹内 裕子 (可知小)
2007	19	44号		(25)岡山	(47)岡山	高畑 勲		永井 裕 (倉敷青陵)	河本 雅明 (建部中) 竹内 裕子 (可知小)
2008	20	45号	(36)熊本					高木二三男 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2009	21	46号		(26)下関	(48)鏡野	今江 祥智		赤木 圭介 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2010	22	47号	(37)静岡					坂江 誠 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2011	23	48号		(27)広島	(49)矢掛	赤木みゆ子		岡野 貴司 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2012	24	49号	(38)米子					中桐 哲則 (玉島)	山本 健五 (御津中) 服部由利子 (古都小)
2013	25	50号		(28)浜田	(50)吉備中央	田澤 雄作		國府島貞司 (玉島)	大川 泰栄 (上道中) 服部由利子 (東壽小)
2014	26	51号	(39)甲府					藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2015	27	52号		(29)倉敷	(51)倉敷	小嶋 光信		藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2016	28	53号	(40)神戸					福田 邦男 (倉敷古城地)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
大滝 一登 高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	岡本 利和 利守 雅行 有友 雅人	山下 滋 井上 裕子	(36) 岡 山	景山 美香 坂口 桂藏
高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	河本 雅明 利守 雅行 有友 雅人	永井 裕 井上 裕子	研修会 (津山)	坂口 桂藏
高尾 敏也 武田 裕江	志部 雄介	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅行	高木 二三男 藤田 京子	(37) 倉 敷	坂口 桂藏 池田 桂子
武田 裕江 田中 善美	永山 整	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅行	赤木 圭介 藤田 京子	研修会 (玉野)	池田 桂子
武田 裕江 田中 善美	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實 利子 利守 雅行	坂江 誠 小野 恭子	(38) 岡 山	池田 桂子 二部野陽子
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實 利子 利守 雅行	岡野 貴司 小野 恭子	研修会 (岡山)	二部野陽子
乙倉 寛 石本康一郎	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	山本 健五 宗實 利子 利守 雅行	中桐 哲則 尾崎 寛子	(39) 倉 敷	二部野陽子 米倉 弥生
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	大川 泰栄 宗實 利子 利守 雅行	國府島 貞司 尾崎 寛子	研修会 (津山)	米倉 弥生
辻田 詔子 須藤由美江	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 岡田恵利子 利守 雅行	藤井 健平 柳井 典子	(40) 岡 山	米倉 弥生 原 弘江
森川 悟 新田 治彦	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 永守 志帆 金田 益美	藤井 健平 柳井 典子	研修会 (玉野)	原 弘江
岡本 里香 三宅 健夫	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 和佳子 勝浦 由子	門田 正充 永守 志帆 金田 益美	福田 邦男 児島 真理子	(41) 倉 敷	原 弘江 西村 百代

岡山県学校図書館研究集録（第 53 号）

発 行 日 2017 年 3 月 31 日

発 行 所 岡山県学校図書館協議会事務局
 〒712-8046
 岡山県倉敷市福田町古新田 116-1
 岡山県立倉敷古城池高等学校内
 TEL (086)455 - 5811

発行責任者 福田 邦男
 岡山県学校図書館協議会会長